

**平成 26 年度**  
**中部環境パートナーシップオフィス**  
**運営業務実施報告書**

**平成 27 年 3 月 31 日**

**特定非営利活動法人 ボランティアネイバーズ**

## 目次

1. 平成 26 年度事業について.....	3
(1) 目標、成果と課題.....	3
(2) 事業方針、成果と課題.....	3
(3) 業務項目、成果と課題.....	4
2. 第 3 期（平成 24～26 年）事業について.....	5
(1)第 3 期目標.....	5
(2)成果と課題.....	5
(3)基本方針、成果と課題.....	6
(4)事業方針、成果と課題.....	7
(5)達成状況と成果.....	9
3. 平成 26 年度 主な業務報告.....	11
(1)主な業務報告.....	11
4. 平成 26 年度業務報告.....	29
(1)中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等.....	29
(2)中部地方環境事務所との協働による事業実施.....	32
(3)施設の維持・管理.....	94
(4)業務実施計画の作成.....	96
(5)活動成果等取りまとめ.....	97
(6)その他.....	97

## 1. 平成 26 年度事業について

### (1) 目標、成果と課題

#### ア 目標

協働取組、ESD 実践が継続的に展開されるための、EPO の機能を活用した支援方策を提示する。  
持続可能な地域づくりに取り組む協働主体とのネットワークを拡大し、EPO 機能を充実させる。

#### イ 成果と課題

協働取組、ESD 取組の伴走支援を行い、事業展開をするにあたり必要となるであろうステークホルダーの紹介や、関わっているステークホルダーの関係性成熟のための支援を行った。伴走する中で見えてきた共通課題は、①市民の共感を高めること、②安定した資金調達先の確保、③実施主体の組織力強化、であった。こういった課題改善・解決のためには、協働取組における、『公共性』『経済性』の指標を用いた包括的な事業戦略、マネジメントが課題の改善につながる」とし、伴走支援をするとともに、初期段階でのコンサルティング機能の充実、強化が求められ、支援メニューの開発を試みた。ESD に関しては、地域で実践するスキーム形成のための情報提供、ステークホルダーとの関係性の強化が役割であることを共有した。また、協働取組及び ESD の事業の評価手法の検討についても、広域で多様な主体が集まる EPO だからこそ、検討の場をつくることのできることを共有した

課題は、支援メニューの活用法と有効性の把握であり、ケーススタディを積み重ねて、支援メニューの改善をしていくことである。また ESD に関しては、地域での実践スキーム、体制が継続的に維持されるための安定した資金調達が必須となるため、その確保が課題となる。

### (2) 事業方針、成果と課題

#### ア 事業方針

1. 県域を越えた協働取組を促進する。
2. 多様な主体の資源（人材・資金等）を持ち寄る。
3. 協働に関する情報の交流の場をつくる。
4. ESD の認知度を高め、ESD 実践を活性化する。
5. 協働に関する情報を収集、提供する。
6. 全国 EPO ネットワークと連携する。

#### イ 成果と課題

今年度は、「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業支援」「サステナブルビジネス支援連携体制構築等業務」「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援」を事業の核とし、事業方針 1～6 項目をすべて念頭に置きながら、事業展開をした。それぞれの事業のプロセスにおいて、方針を重ねながら展開し、最終的には、マルチステークホルダーダイアログにて、すべての項目を達成することができた。全国 EPO ネットワークに関しても、協働取組の作業部会や、ESD ユネスコ世界会議向けのセッション、持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援の進捗状況や成果共有などを通して連携を行った。それぞれの方針をバラバラに扱うのではなく、事業展開のプロセスの中で、戦略的に位置付け、より影響力のあるものにした。課題は、この方

針に明確な評価はないので、さらに事業が発展するために、明確に位置づけ、方針に基づく新たな方策を創りだしていくことである。

### (3) 業務項目、成果と課題

#### ア 業務項目

1. 中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等
2. 中部地方環境事務所との協働による事業実施
  - (1)中部地方環境事務所との協働による事業実施
    - a 中部地方環境事務所との定例会議の開催・運営
    - b 中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成等
  - (2)持続可能社会に向けた地域協働モデルづくり
    - ①持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援
    - ②サステナブルビジネス支援連携体制構築等業務の実施
      - a サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化
      - b サステナブルビジネス支援企業の掘り起し
      - c サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築
    - ③持続可能なコミュニティ形成のため、協働取組「事業化」検討会議（仮）の開催と、協働取組「事業化」のための指標及び支援ツールの作成
    - ④地域における ESD の普及啓発と取組推進支援
  - (3)拠点間連携による地域内の中間支援機能強化
  - (4)協定、協働取組、政策提言等環境教育等促進法の実践体制の構築
  - (5)Web サイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務
    - ①環境情報の収集等
    - ②協働事例の分析
    - ③ホームページの維持管理
    - ④メールマガジンの発行
    - ⑤情報収集・提供のための会議等への参加
3. 施設の維持・管理
  - (1) 施設維持管理業務
  - (2) 来客等対応業務
4. 業務実施計画の作成
5. 活動成果等の取りまとめ
6. その他
  - (1) 全国の地方 EPO・GEOC との連携

## イ 成果と課題

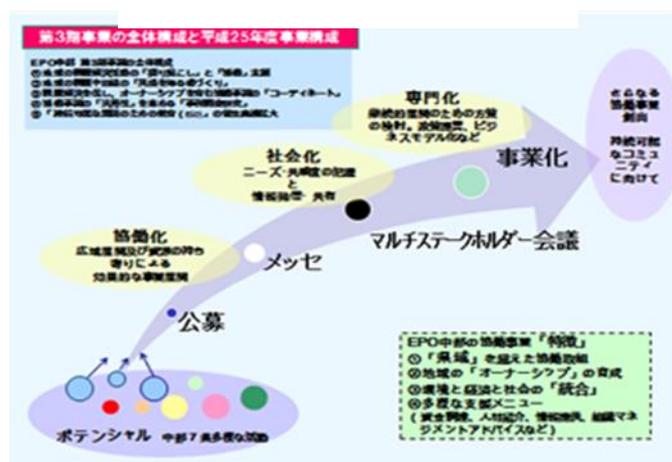
個別業務の成果と課題については、3. 平成 26 年度主な業務報告、4. 平成 26 年度業務報告を意記述した。

## 2. 第3期（平成 24～26 年）事業について

### (1)第3期目標

持続可能なコミュニティ形成に向け、環境、経済、社会の統合を可能にする地域の多様な主体（行政、企業、メディア、高等教育機関、NPO/NGO、市民等）を顕在化させ、国として取り組むべき領域を越えた協働事業の支援をする。

図 1. 第3期事業の全体構成



### (2)成果と課題

環境省施策である協働取組加速化事業（採択 2 事業）、ESD 人材育成事業、サステナブルビジネス支援構築形成事業、その他協働事業を行うことで、それぞれの事業に関わる領域を越えたステークホルダーとの対話を重ね、関係性を構築し、人材育成ネットワークを強化し、顕在化した。そのことによって、協働取組主体他からの相談業務、人材紹介業務、必要に応じてのステークホルダーの紹介など行うことができた。

これらのことによって、領域を越えた協働取組の展開を支援することができた。次なる課題は、新たな協働取組の発掘と、人材や資金、情報などをつなぐ、コーディネーション機能のさらなる充実と、支援した協働取組の地域への影響力の把握である。

### (3)基本方針、成果と課題

#### ア 基本方針

基本方針として下記 3 点を掲げた。

- (ア) EPO 中部が培ったネットワークや協働促進のノウハウを拡充し、協働促進のための基盤を強化する。
- (イ) 国がすべき役割を明確にし、地域の主体による県域を越えた協働事業を支援する。
- (ウ) 具体的な地域課題の解決に向けて、人材、資金などを持ち寄り、解決のための協働事業を実施する。

#### イ 成果と課題

(ア) 第 1 期・第 2 期で関係性を育んできたステークホルダーとの関係性を十分に活用し、また第 3 期に実施した協働事業、ESD の人材育成事業にて新たな多様なステークホルダーの参加を得て、中部 7 県の県域を越えた経験交流等を行い、得られた成果はホームページや作成した冊子（協働 BOOKLET/ESD BOOKLET）に掲載する等、ノウハウ共有を可能にし、地域の課題を解決する協働促進基盤形成の促進を行った。

しかし、まだ協働促進のための基盤の利活用が十分にはされておらず、さらなる質の向上、基盤の強化のための作業が必要である。

(イ) 国の施策（協働取組加速化事業、持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援）を実施することで、国がすべき役割と地域がすべき役割を明確にし、各県のステークホルダーとともに事業を展開することによって、各県各地域の基盤形成及び強化につながった。

国がすべき役割とは、ある程度地域の裁量が反映可能な全国統一の施策を実施することによって、全国の協働取組の課題把握とその改善のための方策検討、質及び成果効果の向上、今後の展開の提案等、地域の役割は、地域のステークホルダーとともに地域のニーズに基づく施策へとアレンジと、その成果効果の検証、地域における協働取組/ESD 取組の実施主体の形成を促進させる役割である。国と地域の連携によって、お互いのリソースを持ち寄り、地域主体による施策が展開できた。

(ウ) 第 1 期、第 2 期に培った多様なステークホルダーとのネットワークで事業を展開することにより、さらに人材ネットワークが拡大し、紹介することでさらに広がるというネットワークによる連鎖が生まれた。一方、資金の持ち寄りについては、行政の補助金や地球環境基金など助成金についての情報収集・提供を行うことで、申請にあたっての相談業務が増えた。

EPO 中部の人材、資金を提供・支援した協働事業として、協働取組加速化事業地方支援事務局業務、持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援はもちろんのこと、なごや環境大学事業、中部 ESD 拠点事業、中・西日本地域における特定地域協議会支援、愛知県環境学習コーディネート業務支援、「生物多様性の保全による都市部の緑化推進—地域性苗木の広域展開—」郷土種子に関する協働事業などがある。

しかし、まだまだ協働事業の実施主体者が自立を可能にするまでの、多様な主体が資金を持ち寄りしきみはできていない。今後さらに人材及びお金の地域循環を可能にするために、その仕組みづくりを強化する必要がある。

(工) まとめ

国の施策を活用し、この間培った地域ネットワークによる協働促進のための事業展開をしたことで、**各県各地域の基盤形成の促進**につながった。そのことによって、さらなる中部 7 県の県域を越えた経験交流、ノウハウ共有を可能にし、地域の課題を解決する**協働取組がより活性化**した。

一方で、地域の具体的な課題の解決のための、人材及び資金の調達はまだまだ十分とは言えず、**今後人材及びお金の地域循環を可能にする仕組みづくりを強化**する必要がある。

**(4)事業方針、成果と課題**

事業方針	(1) 協働促進のための地域ニーズに適した、コンサルティング機能等の利用価値あるサービスの提供
成果/課題	<p>相談のあった案件に<b>類似する事例の紹介</b>、特に<b>専門家や NPO、中間支援組織、資金調達先の紹介</b>が行えた。</p> <p>①ESD 実践校や教員、専門家の紹介</p> <p>②資金調達を可能にする助成金、政府補助金、他県森林環境税、企業の助成金、金融機関等の紹介</p> <p>③他地域の協働取組先進事例</p> <p>里山保全、森林ビジネス、カーボン・オフセット事業者、環境教育マッチングシステム等</p> <p>④各県の環境政策の提供</p> <p>環境教育、里山保全、森林保全、伊勢湾三河湾保全、地球温暖化防止、再生可能エネルギー、協働政策等</p> <p>⑤企業の CSR</p> <p>事業内容、担当者紹介、行政担当者紹介など</p> <p>⑥地域の環境活動の紹介</p> <p>行政や企業と協働可能な NPO、中間支援組織の紹介など</p> <p>●課題は、提供したあとの<b>効果をいかに把握するか、相談者との関係性を構築するか</b>である。</p>

事業方針	(2) 協働促進に有効な、情報収集及び実施した(関わった)協働事業の可視化
成果/課題	<p>各県の協働事業の視察やヒアリング、各県の環境関連の審議会、ワークショップ等への参加により、<b>情報収集をし、コンサルティング機能の充実</b>を図った。</p> <p>協働事業の可視化は、昨年度及び今年度の協働取組の促進及び加速化事業及び郷土種子に関する協働事業、サステナブルビジネス支援事業に関しては実施し、<b>冊子にまとめ、HP に掲載</b>した。</p>

	<p>●課題は、<b>わかりやすさや、プロセスやターニングポイントの可視化</b>が十分ではなく、今後検討を要する。</p>
--	--

事業方針	<p>(3) 2014年開催の「国連持続可能な開発のための教育の10年(以下 DESD10年)」最終年会合に向け、「持続可能な開発のための教育(以下 ESD)」の認知度向上、多様な主体による協働実践の支援</p>
成果/課題	<p>ESDの人材育成事業や、ESD フォーラム、企業向けの ESD フォーラムの支援や ESD ユネスコ世界会議併催セミナー、ブース出展、パネル出展、また、なごや環境大学や中部 ESD 拠点への参画、ESD ユネスコ世界会議を機に開催された多数のイベントへの参画を通して認知度向上に努めた。世界会議公式サイドイベントにてプレゼンテーション実施。中部地域の教育 NPO などと3年余り研究した「自己肯定感」に関する取組内容を冊子にまとめた。ESD ユネスコ世界会議後、報告会を実施または支援し、世界会議後の ESD 取組について普及啓発をした。ESD ユネスコ世界会議の成果や、この間の ESD 事業をまとめた冊子を ESD の広報ツールとして作成した。</p> <p>●課題は、ESD の推進が<b>十分にされていない地域へのアプローチ</b>と、実践が進んでいる地域の<b>自立した実施体制の構築</b>である。</p>

事業方針	<p>(4) 協働事業実践者の「つながる」場の創出や、県域を越えて実施すべき協働事業の検討、実施のための人材・資金の確保、事業実施主体形成等の支援</p>
成果/課題	<p>ESD をテーマに、ESD ユネスコ世界会議に向けて実施した ESD フォーラムや、協働取組の加速化事業を対象に実施したサステナブルビジネスの課題解決、支援体制の構築会議、プロボノ研究会やプロボノ会議、MSH ダイアログなどを実施し、中部7県のステークホルダーが「つながる」多様な場を提供した。どの会議においても、県域を越えて共通課題についていかに県域を越えて改善するか、事業展開のための人材や資金調達の確保をどのように行うか、また実施主体、実施体制をどう構築するか、といった視点を含み、協議した。協議の結果、ノウハウや情報を持ち寄り、具体的事例を対象にした経験交流を行うこと、「つながる」ことによる成果をさらに共有する場をもつこと、等があげられた。</p> <p>●課題は、「つながる」ことで抽出された、<b>活用しやすいノウハウ・情報の蓄積方法の検討</b>と、ステークホルダーが<b>活用した後の変化・成果の共有方法の検討</b>である。</p>

事業方針	<p>(5) 生物多様性保全や ESD 等の分野における地域の具体的課題を設定し、マルチステークホルダーによる対話、「環境、経済、社会の統合」による事業(協働政策等)の検討及び実施の支援</p>
成果/課題	<p>ESD をテーマに、ESD ユネスコ世界会議に向けて実施した ESD フォーラムや、協働取組の加速化事業を対象に実施したサステナブルビジネスの課題解決、支援体制の構築会議、プロボノ研究会やプロボノ会議、MSH ダイアログなどを実施し、ESD、生物多様性(地域の生物資源の活用)をテーマに、中部7県のステークホルダーと対話し、支援策について意見交換をした。</p>

	●課題は、現状それぞれの事業の課題の共有に協議がとどまっており、今後、政策化、ビジネス化までの <b>具体的シナリオを描く議論にどのように進めていくか</b> 、である。
--	---

事業方針	(6) 「協働」の専門家の参画による EPO 中部の運営及び事業の質の向上を図る
成果/課題	協働取組事業、ESD の人材育成事業、サステナブルビジネスの課題解決のための事業等におけるダイアログに「協働」の専門家を招き、EPO 中部の役割や事業についての意見を得た。コンサルティング機能を強化すること、協働取組を生み出すための情報提供を行うこと、協働取組のプロセス工程を可視化し参考事例として提示すること、ステークホルダーをつなぐ「対話」の場づくりとその成果・変化の可視化、等があった。 ●課題は、EPO 中部の運営及び事業の質の向上のための <b>指標を明確に持ち</b> 、具体的に <b>どのような機能を持つかを明示し、指標に沿った事業展開、協議の場を設けること</b> 、である。

事業方針	(7) 環境省及び全国 EPO ネットワークと連携し、国として又は全国で取り組むべき課題共有、事業展開のためのしきみをつくる。
成果/課題	全国 EPO 連絡会議への参加し、また、必要に応じてメーリングを使つての協議や情報共有などを通して、全国共通で実施している事業について意見交換をした。具体的には、日本 NPO センター主催「グリーンギフトプロジェクト」、地球環境基金関連事業、協働取組作業部会、ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合など全国 EPO ネットワークを活用しての事業展開をした。それらの事業を通して、 <b>EPO 機能のブラッシュアップ</b> について議論した。 ●課題は、全国 EPO ネットワークとして、協働取組、ESD に関する <b>次なる戦略を構築し、事業提案をしあうこと</b> である。

## (5)達成状況と成果

第3期(平成24～26年度)は、EPO 中部の機能を、

- ①地域課題解決のための協働事業の掘り起しと支援、
- ②地域の協働事業主体者との対話の場づくり、
- ③協働事業を実施する地域のオーナーシップの形成、
- ④事例調査研究等、

とした。持続可能な社会をつくるためには、「環境」「経済」「社会」の統合が必須であり、「協働」はその統合を可能にする手段として、事業展開の際に有効に使えることを社会に提示することを目指した。同時に、協働取組が、課題解決に至るまで継続展開するための「事業化」(政策提言化、ビジネスモデル化)を目指すこととした。

1年目は中部7県の協働による事例の発掘を試み、参画している協働事業の課題の整理を行った。また、中部7県で「生物多様性(里山里海保全管理)」「再生可能エネルギー」「ESD」の領域で事業展開し

ているステークホルダーとのメッセ（ダイアログ）を行い、協働事業がもつ可能性と課題を明確化し、共有した。

2年目は、環境省の施策である協働取組加速化事業及びESDの人材育成事業、他地域ニーズによる協働事業を通して、協働事業のもつ課題を解決すべく支援メニューの検討に入った。

EPO 中部は、伴走支援を行い、事業展開をするにあたり必要となるであろうステークホルダーの紹介や、関わっているステークホルダーの関係性成熟のための支援を行った。伴走する中で見えてきた共通課題は、①市民の共感を高めること、②安定した資金調達先の確保、③実施主体の組織力強化、である。2年目のステークホルダーダイアログにおいては、行政関係者を招いての公共性を高めるための政策への発展を検討するセッションや、金融機関を招いての地域の経済循環を生み出すためのセッションを行った。ESD に関しては、学校と地域が連携することによって生じた関係者の変化を実感し、モデル事業で終わらせないための方策の検討の必要性を共有した。

3年目は、2年目のステークホルダーダイアログの成果から、協働取組における、『公共性』『経済性』を視野に入れた包括的な事業戦略、マネジメントが課題の改善につながる」とし、EPO 中部は、伴走支援をするとともに、初期段階でのコンサルティング機能の充実、強化が求められ、支援メニューの開発を試みた。ESD に関しては、地域で実践するスキーム形成のための情報提供、ステークホルダーとの関係性の強化が役割であることを共有した。また、協働取組及びESDの事業の評価手法の検討についても、広域で多様な主体が集まるEPOだからこそ、検討の場をつくることができる、と共有した。

EPO 中部に提案のあった協働事業を実施。ステークホルダーとの関係性（特に企業とNPO）を育んだ。また、中部7県で行われている協働事業やステークホルダーなど地域の現状の把握に努めた。そのことにより、課題が見え始め、EPO 中部が担うべき、求められる役割を認識することができ、運営委員会においては、中部7県の協働に関する情報共有や、EPO 中部が関わることによる付加価値について検討した。

第3期は、協働の可視化及びEPO 中部の機能強化を重視し、中部7県の協働事業のさらなる掘り起しと関わるステークホルダーとの関係性の強化、拡大を行った。EPO 中部を介さなくても、事業間、ステークホルダー間での協働が生み出されるようになり、EPO 中部への協働事業への提案や、伴走支援へのニーズが多くなってきた。協働事業や関わるステークホルダーが面的に拡大しつつある。運営会議では、協働事業の評価方法や、地域ニーズを満たすためのEPO 中部の在り方検討を行い、環境省に提案をした。

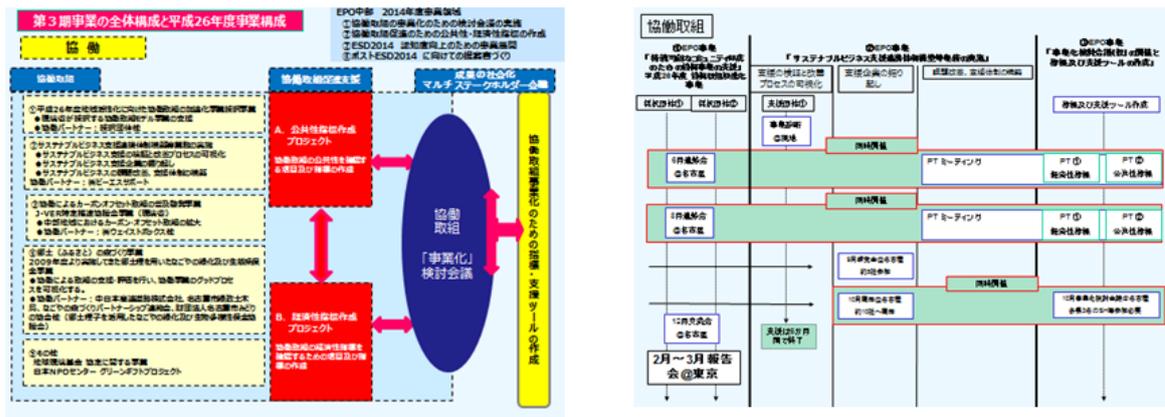
以上をとおして、それぞれの事業に関わる県域を越えたステークホルダーとの対話を重ね、関係性を構築し、人材育成ネットワークを強化し、顕在化し、県域を越えた協働事業の支援が行えた。

### 3. 平成 26 年度 主な業務報告

#### (1) 主な業務報告

##### ① 持続可能な社会に向けた地域協働モデルづくり

市民、環境 NPO/NGO、行政、企業といった様々なセクターが主体的に参加・実行する協働事業を創出することを目的とした事業を行う。また、協働事業が自立的取組となるよう、事務局を担える組織・人材・体制づくりを支援した。



##### ア 持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援

地域の協働推進のため、中部地域において、持続可能な地域・社会づくりを進める協働事業を支援した。

具体的には環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」（以下「協働取組加速化事業」という。）に関し、選定のための管内応募団体へのヒアリングを行い中部地方環境事務所に情報を提供したほか、平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業支援事務局業務（別契約）、運営会議等と協議の上実施した外部資金業務（下記（イ）～（カ））等の実施を通して、他の協働取組の事例の参考となる情報の収集を行った。

##### （ア）平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業支援事務局業務(別契約)

今年度の採択団体は、「ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築」（以下、ブルーフラッグ認証事業）/福井県と、「リユースびんを活用し循環型社会を再構築する『めぐる』プロジェクト」（以下、めぐるプロジェクト）/愛知県、であった。

ブルーフラッグ事業は、観光客が少なくなり、観光事業者を中心にしていた海の管理体制が十分ではなく、また地域住民の海への関心も少なくなる傾向の中、国際認証である「ブルーフラッグ」の認証の取得過程や取得することで、地域住民の意識が高まり、観光客が増え、地域経済が活性化し、高浜の海を中心にした持続可能な地域づくりを可能にしようという計画であった。課題は、「いかに地域住民の共感を得るか」「認証過程に住民の参加を可能とするか」「認証 33 項目をいかにクリアするか」であった。

めぐるプロジェクトは、生ごみのたい肥で作られた米を原料にした地酒をリユースビンに入れて商品化（めぐる）し、食品リサイクルとビンのリユースの 2 つの輪を循環させ、地産地消による地域経済の循環を生み出

す、と言う計画であった。課題、「めぐるをいかに販売するか」「販売と併せてびんの回収システムをどうつくるか、名古屋市への政策提案をどうつくるか」「めぐるのブランディングをどう高めるか」であった。

結果として、2つの取組とも、新たなステークホルダーを巻き込むことによって、次なる動きを生み出し、施策を展開しつつある。その間、会議や打ち合わせを何度も行い、ステークホルダーとの関係性を育みながら事業を動かしてきた。

ブルーフラッグ事業に関しては、新たなステークホルダーを交えた部会を2つ結成し、より地域に密着した動きを可能とする体制をつくりだすことができた。めぐるプロジェクトに関しては、めぐるの工程をすべて視察するツアーを行い、市民の意識や共感を得る方策の聞き取り等を行った。また地元の外食チェーン店にて、試飲キャンペーンを実施することができ、クローズドマーケットでの実証事業として、店舗やお客様のニーズ調査を行うことができた。

いずれも、**必要なタイミングに必要な人材やノウハウを投入することが重要**であった。事業開始時は、なかなか事業が進まなかったが、**機を熟し、新たな関係性を生みだすことができ、事業展開も拡大した**。

### (イ) 中・西日本地域における特定地域協議会支援

カーボン・オフセットの仕組みを地域に普及させ、地域の低炭素化を促進するために、今年度は、市民対象の企画と、事業者対象の企画の2本を行った。市民を対象にした企画では、生活に密着したテーマを設けての**カーボン・オフセット及びオフセット商品の理解の促進、事業者対象の企画は、事業者間のマッチングを可能にすること**、を目的とした。

また、今年度から中部地域の先進的な取組を表彰する「中部カーボン・オフセット大賞」を設けることとし、企業対象の企画の際に授賞式を実施した。アドバイザリーボード会議は2回実施し、中部地域でのカーボン・オフセット普及のための意見を交わした。

#### ●市民向け企画 ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO

「Winter day —あたたかな1日に—未来をおもい、今をつくるよ！」

日時：平成26年12月19日(金)13:00～17:00

場所：ナディアパーク アトリウム

来場者数:178名

#### ●企業向け企画 ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO～子どもと地域により良い未来を～

日時：平成26年2月24日(火)

場所：ナディアパーク3F デザインホール

来場者数：170名

### (ウ) 平成26年度愛知県環境学習コーディネート業務支援

学校と地域のマッチングによる環境学習の充実と、学校と地域の連携による「環境学習コーディネート事業」の有効性を検証することを目的に実施した。今年度は、本事業のPRを愛知県が強化したことから新規の依頼が多数あり、また昨年からのリピーターの依頼も多かった。主な内容は、環境学習・教育を実践する講師の紹介や授業づくりについてであった。アンケートから、依頼者100%、講師97%が満足（大満足を含む）との評価を得て、マッチングの機能が地域に求められていることが把握できた。

課題は、**学校と地域の連携による質の高い実践、それを可能にするための地域資源の発掘と情報の蓄積、ネットワークの拡充、コーディネーターのスキルアップ、ネットワークを拡充するなどマッチング機能の強化**である。本事業が継続し、より良い学びが展開されるよう EPO 中部は伴走、支援を行う。

- 事業実施期間：平成 26 年 4 月 28 日～平成 27 年 3 月 31 日
- 相談業務 16 件 コーディネート業務 21 件

### **(工) 政策形成事業「生物多様性の保全による都市部の緑化推進―地域性苗木の広域展開―」 支援**

地域に自生していた郷土種を利用した植生回復を、多様な主体の協働で行うことを目的に、2009 年に事業開始したが、今年度で事業終了した。約 30,000 個の地域の樹種の種や挿し木を、2000 本育苗し、名古屋市内の緑地に戻した。今年度は、名古屋市の川名公園での植樹を行い、アピタ千代田橋店や中部気候変動セミナーでの一般市民を対象にした啓発活動と苗木の配布イベントを実施した。

また来年オープン予定の名古屋駅前の商業施設の緑化に地域性苗木が使われることが決まり、地域での郷土種を利用した緑化と地域性苗木を周知していくの可能性が広がった。植樹後のモニタリングなどによる評価・検証をしていくことで今後の展開を検討する。

これまでの活動をまとめ、地域性苗木を周知するためのツールとしてパンフレットを発行した。作成にあたり、協議会メンバーにヒアリング、座談会を実施し、協働で事業展開した価値や可能性をまとめた。

### **(オ) 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金事業業務連携事業**

独立行政法人環境再生保全機構の運営する地球環境基金と EPO 中部が相互に連携、協力して実施することで、**中部 7 県の環境保全活動及び協働取組を推進する事業者の資金調達の確保**となるよう事業を実施した。地球環境基金の平成 27 年度の説明会を岐阜県にて開催した。地球環境基金の特徴や申請の際のポイントを説明、ESD ユネスコ世界会議や ESD の現状についても紹介した。岐阜県においては、事業系の NPO が少ないこともあり、NPO 法人ぎふ NPO センターと連携して広報を実施した。説明会実施後も、助成金に関する相談があり、申請書の書き方などアドバイスをした。

※全国 EPO ネットワークを通じての事業である。

#### **●地球環境基金助成説明会 in 岐阜**

日 時：平成 26 年 12 月 13 日(土)13:00～16:30

場 所：ふれあい福寿会館 401

参加者:16 名

### **(カ) 日本 NPO センター主催 Green Gift Project への支援**

日本 NPO センターと東京海上日動火災保険(株)との協働事業であり、全国 EPO ネットワークを通じて、**各地方 EPO が東京海上日動火災保険(株)の各支社と各地域の中間支援組織などを結び、主に子どもやその家族が参加体験する環境教育プログラムの企画実施を支援する事業**である。

事業年度が、平成 26 年 4 月～平成 26 年 9 月/平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月に分かれる。平成 26 年 4 月～平成 26 年 9 月においては、長野、岐阜、愛知で実施した環境 NPO 及び東京海上日動火災保険(株)各支社へのヒアリング等を行い、本事業についての評価を得た。

平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月においては、実施場所が岐阜県のみになったため、日本 NPO センター、ぎふ NPO センターなどと協議の場をもち、どのように実施するかを検討をした。

※全国 EPO ネットワークを通じての事業である。

## イ サステナブルビジネス支援連携体制構築等業務の実施

持続可能な社会を実現するために、環境保全効果の高い事業の実施を通じてまちづくりや地域活性化といった地域の経済社会にも付加価値をもたらす事業（サステナブルビジネス）の醸成と拡大・発展のため、サステナブルビジネスを支援する中間支援組織等と連携した事業を行った。本事業は、株式会社ピー・エス・サポートと協働して行った。

### (ア) サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化

昨年度収集したサステナブルビジネス事例等の中から、1 事例を選定し、専門家の協力を得て事業診断や事業改善のための助言等の支援と改善プロセスの可視化を行った。

対象事例は、社会福祉法人むそう(以下、むそう)の『竹ペレット事業』とした。むそうのある半田市の里山は竹害を受けており、地元産の竹を原料とした竹ペレットによるエネルギーの地産地消を実現し、竹林（生態系）の保全及び地球温暖化防止のための再生可能エネルギー普及、災害時のエネルギー確保を可能にする事業を検討していた。しかし、事業を始めても、「竹ペレットが固まらない」「生産量や販売先も見えていない」という状態だった。そこで、安定生産と販売先を検討しながら、事業として成り立つか判断することを目標に行うこととした。この目標を達成するためのプロボノを 3 名、高野雅夫氏（名古屋大学大学院教授）、中尾洋吉氏（中小企業診断士）、杉田英俊氏（アイシン精機株式会社さわやかふれあいセンターセンター長）を派遣し、プロボノ会議（計 5 回）や竹ペレット製造工程の視察、プロボノや事業者へのヒアリング等を重ねた。原料調達、製品化、流通工程における全工程のリスクを抽出し、特に竹ペレットの製造、生産過程における管理データによる生産管理・品質保証や、製品化工程での竹ペレットの原価、販売価格の設定が出来る段階となった。

事業立上げの経験を持たないむそうのスタッフが、類似の先行事例を集め、竹ペレットの製造実験から必要なデータを集めるに至った。むそうのスタッフが**事業立上げのコツをつかみ始めたことが大きな成果**であり、プロボノ側も**自分の経験やスキルが地域活動に活かせることに気がつくことができた**。次年度以降も、プロボノは関わり、事業化に向けての作業を行っていく。

### (イ) サステナブルビジネス支援企業の掘り起し

プロボノ派遣によるサステナブルビジネス支援等サステナブルビジネスを支援する企業の掘り起しのため、事例等による支援価値を企業関係者に周知した。また、支援企業の掘り起しのための研究会を開催した。

サステナブルビジネスを支援する企業を掘り起こすために、NPO 法人中部プロボノセンターや、日本にプロボノをもちこんだ NPO 法人サービスグラントに取材に行き、現状を把握した。

「プロボノに関する研究会」を行い、**プロボノを派遣する側、プロボノを必要とし受け入れる側、両者をマッチングする側との協議**を行った。プロボノを派遣する側の課題は、「プロボノを派遣する意義と価値につ

いて社内認知が低い」「NPO やサステナブルビジネス事業者への理解度が低い」、プロボノを受け入れる側は、「企業側に NPO が大切にしているミッションを理解してほしい」「指摘されたことは理解できるが着手できない」「NPO が組織的に十分に育っていない」、マッチングする側としての課題は、「両者の得意とする領域をいかに組みあわせるか」「両者が理解し合うには時間がかかることである」と話された。しかし、実際にプロボノ派遣を受け入れた事業者から、「プロボノから学ぶべきことは多かった。事業を継続、成功させるには経営の視点、企業の視点が必要である」とあり、ここに協働の価値があることを共有した。

#### ●プロボノ研究会

日 時：平成 26 年 11 月 26 日(水)10:00～12:00

出席者：11 名 ゲスト 7 名（企業 5 社 サスビズ事業者 2 社）事務局 4 名

また、周知啓発としては、MSH ダイアログの一つのダイアログを「プロボノの可能性に迫る…サスビズの成功に向けて」とし、主に企業を対象にしてプロボノ事業についての説明やその効果、今なぜ必要なのか、そして課題について協議した。サスビズ事業者の壁、プロボノ側の壁、企業側の壁を整理し、その改善について協議をした。今後の作業として、中部にはすでにプロボノサービスを提供している団体や会社があるため、今日の参加者と共に情報を収集して、**事例や企業、NPO を紹介できる窓口をつくってはどうか**と提案された。

#### ●MSH ダイアログ ダイアログ 2 プロボノの可能性に迫る…サスビズの成功に向けて

日 時：平成 27 年 1 月 29 日（木） 14:15～16:45

出席者：21 名（話題提供者 企業 3 名 サスビズ事業者 2 名/出席者企業 8 社 自治体 2 名  
NPO 3 名 コーディネーター 1 名 スタッフ 2 名）

#### (ウ) サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築

サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築のため、有識者、企業、NPO、プロボノ等からなる協議の場を 2 回開催した。

これまで中部地域の協働取組に関わり、「協働」が重要な手段であることは認識しているが、協働取組を実施している主体が抱えている課題の多くが、資金調達、多くの市民の共感性を高めること、実施主体の組織基盤の強化であった。本会議は、今年度の採択された協働取組加速化事業の 2 事業を対象に、「公共性」「経済性」の視点から、事業の進捗を確認、共有する支援メニューを検討した。

第 1 回は、EPO 中部がたたき台として作成した「公共性」と「経済性」の視点を用いて、それぞれの事業を確認した。第 2 回は、協働取組を実施しようとしている、もしくは実施している事業者から相談があった場合、それら課題を整理し、必要なアドバイス、さらなるアドバイスをしていただける方を紹介するために、広く市民の共感を得て事業の信頼性を高める「公共性」という視点と、安定した資金調達を可能にし、組織を強化するための「経済性」の視点から、**相談のあった事業を整理し、課題改善の支援**をしたいと考えていることを説明した。その後、今年度の協働取組加速化事業の 2 事例の「協働取組カウンセリングシート」をたたき台に、依頼者の話を聞き、課題を抽出し、改善のための支援をするための検討を行った。

#### ●第 1 回「サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築」会議

日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木） 15:20～17:00

出席者：19 名

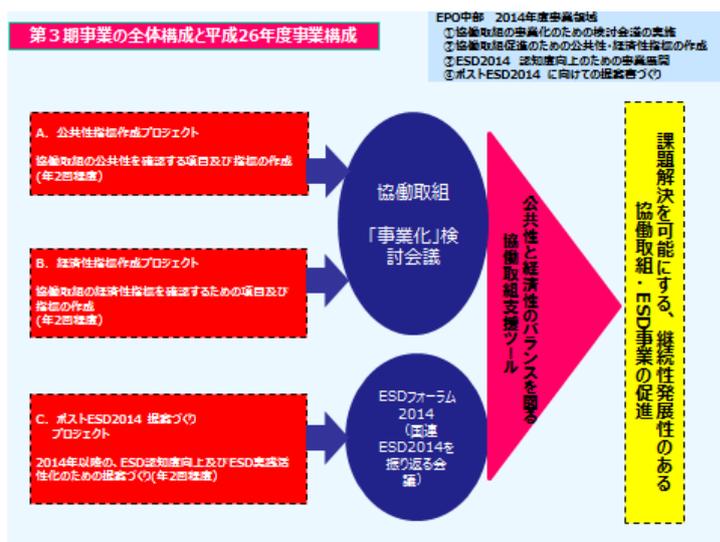
## ●第2回「サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築」会議

日時：平成26年9月30日（火）15:20~17:00

出席者：17名

### （エ）持続可能なコミュニティ形成のため、協働取組「事業化」検討会議（MSH ダイアログ）の開催と、協働取組「事業化」のための指標及び支援ツールの作成

協働取組「事業化」のための支援について、関係するステークホルダーにより検討を行うと共に、「事業化」のための指標及び支援ツールの作成を行った。



「サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築」会議（計2回）にて、協働取組加速化事業採択事業を対象に、「公共性」と「経済性」の視点からの事業を見直し、事業を実施するなかで、見失いがちな2つの領域の視点のバランスをいかに取るかの戦略づくりや、事業実施過程において確認・共有すること、の重要性や有効性を協議した。さらに、多くのステークホルダーの、この指標に関する意見を徴収するために、「MSH（マルチステークホルダーダイアログ）」第1分科会にて「サステナブルな地域をつくるために・・・公共性と経済性という指標」を開催した。中部7県からステークホルダーの参加得て、今年度の協働取組加速化事業採択事業の現状を「公共性」と「経済性」（下記参照）の指標で見直し、協議する場をもち、作業の過程でのこの指標の有効性を図った。

今後 EPO 中部に協働取組やサステナブルビジネス関連の相談があった場合、事業を「公共性」「経済性」の指標から見直し、強みと弱みを整理し、そこから見えてきた課題に対する必要なアドバイス、またアドバイスをするステークホルダーの紹介を行う、サステナブルビジネスの支援を行っていく。

●MSH ダイアログ ダイアログ 1 サステナブルな地域をつくるために…公共性・経済性という指標

日 時：平成 27 年 1 月 29 日（木） 14:15～16:45

参加者：23 名（話題提供者 5 名 出演者 18 名 コーディネーター1 名 スタッフ 2 名）

「事業化」のための指標及び支援ツールである「協働 BOOKLET」の作成を行い、過去 3 年に渡り取り組んできた、中部 7 県の蓄積された協働事例のノウハウをとりまとめた。

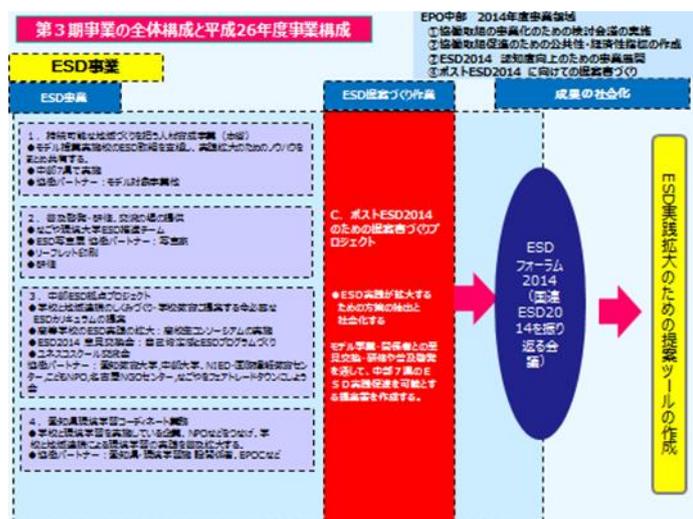
【参照：「公共性」の視点】

NO	項 目	チェック	コメント
1	地域課題の把握		
2	地域課題の解決・改善		
3	地域ニーズの把握		
4	行政の理解		
5	行政施策との連携		
6	市民ニーズの把握		
7	市民の共感		
8	成果の明確さ		
9	目標達成時の状況の明確さ		
10	短・中・長期事業計画		

【参照：「経済性」の視点】

NO	項 目	チェック	コメント
1	経済安定性の見込み		
2	現状の収支計画、採算性		
3	資金調達の多様性		
4	資金調達の将来性		
5	自主事業収入の創出		
6	マーケット創出のための方策		
7	広告費用の検討		
8	将来のマーケット規模		
9	顧客の設定/顧客とのコミュニケーション		
10	従業員（社員・担い手）の魅力づくり		

## ウ 地域における ESD の普及啓発と取組推進支援



### (ア) 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援(以下、人材育成事業支援)

「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」(以下、人材育成事業)について、事業の円滑な実施のために設置される委員会及び県ごとのワーキンググループに参加する等事業実施の支援を行った。

EPO 中部の役割は下記であった。

- \* 学校と地域が連携した質の高い ESD プログラムを作成・実施し、**子ども、教員、地域が学び合う、育ち合う学びをつくること**
- \* 各県の ESD 実践・推進のための**体制、基盤形成の方策を見出し、形成を支援すること**
- \* 事業の**工程において、コーディネーターとして受託団体の作業支援**をすること

具体的には、

- \* 授業づくりにおいて、**ESD の視点や手法が明確に取り入れられる**ようアドバイスした
- \* 教育委員会や行政の環境教育部局への挨拶や、事業スタートを早め、**学校の全面的協力**を得た
- \* 形成推進委員会にて**各県共通の目標を掲げ**、本事業終了後の **ESD 推進体制についての協議**を行った
- \* 実証授業を担当した教員、学校関係者、ワーキンググループを対象にしたアンケートや、授業を受けた児童生徒の授業実施前後の**アンケートを分析の支援**を行い、本事業に参加したことでの**変容や効果、地域との連携による学びの価値**を把握した

であった。そのことによって、**各県の ESD 推進に向けての団結力が高まり、推進体制の構築のための議論を進める**ことができた。また、中部地域での本事業の成果をまとめ、全国事務局に提出するなど**全国連携による作業**を行った。

課題は、**各地域が動きやすい環境をつくるための広域で支え合う基盤づくりと、各地域主体の ESD 推進の核となる基盤の形成、そのための次なる施策の検討**など、各県における **ESD が根づくしかけづくり**である。

(イ) 2014 年に開催される「ESD ユネスコ世界会議」に向け、中部管内での ESD の普及啓発と、ESD 実施団体等と連携し ESD の実践拡大を行う。このために、ESD 実施団体の交流の場を設ける。

(ウ) 普及啓発のためのパンフレット等を作成する。

#### (普及啓発・研修、交流の場の提供)

ESD の普及、実践促進のために、ESD の実践を進める学校や NPO/NGO の連携の強化や、学校と地域の連携による実践の拡大、自治体(教育委員会含)の政策づくりや企業の ESD 取組の促進を重点として、主に下記業務を担った。

#### **\* 中部 ESD 拠点 2014 プロジェクト**

運営委員会に出席。ESD ユネスコ世界会議に向けて、作成する「**中部モデル提言書**」作成のための協議を交わした。「中部モデル提案書」作成のために、3 回のワークショップ及び企画会議等に出席、「ひとづくりと ESD」を担当として担った。ESD2014 意見交換会を計 6 回実施し、「自己肯定感を育む環境をつくる」提案書(本編、概要版、英語版)の作成支援をした。高等学校 ESD コンソーシアム会議に出席し、高校生主体による**高校生コンソーシアム**を 2 日間実施した。

#### **\* なごや環境大学との協働による「ESD 講座」「ESD 推進チーム」の実施**

なごや環境大学 ESD 推進チームに参画。子ども ESD ワークショップ(計 5 回実施)の企画立案・実施支援、環境デーなごやでの ESD 関連企画の支援を行った。また、ESD ユネスコ世界会議に向けて、**なごや環境大学「ESD 提案書」**(本編、概要版、英語版)を作成、併催セミナーやパネル展示の支援等を行った。また、名古屋市が作成する ESD テキストブックの作成支援を行った。

#### **\* ESD 研修(ESD 実践者拡大のための講座等の実施)**

ESD に関する研修、講座の講師を計 25 件実施した。小中高校や初任者の教員、自治体職員、保育園幼稚園の園長対象、環境教育施設担当者、企業、環境教育実践者、一般等が対象であった。ESD が今必要な教育であること、地域主体で実施体制を作っていくことが大切であること、などを伝え、受講いただいた方は関心を高め、**自身が担い手であることを実感**していただけた。

#### **\* ESD 写真展**

写真家の宮嶋英一氏との協働による「ESD 写真展 やさしい未来へ」を 8 月に開催。開催案内パンフレットやポストカードを作成、また期間中にトークセッションを行った。来場者にアンケートを実施し、ESD の認知度向上を図った。

- 写真展 8 月 5 日(火)～17 日(日)
- 写真展トークセッション 8 月 16 日(土) 13:00～16:30 参加者 120 名

#### **\* 他各種 ESD 関連イベントへの参加・支援、ESD 実践普及のためのコンサルティング、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等**

- ESD あいち・なごや子ども会議にファシリテーターとして参加

- ESD ユネスコ世界会議に向けてのコミットメントを作成する会議に参加（ESD-J 政策提言ワークショップ、ESD 実践モデル全国会議、ESD の 10 年・地球市民会議、公民館—CLC 会議、RCE グローバル会議等）
- ESD ユネスコ世界会議半年前イベント、ESD ユネスコ世界会議併催イベントに参加
- ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合に参加
- 東海北陸ユネスコスクール交流会に参加
- 刊行物への原稿作成やラジオ(東海・NHK に出演)、朝日新聞・毎日新聞・日刊工業新聞掲載
- 他団体主催の ESD フォーラムに講師及びパネリストとして参加
- ESD に関する相談対応
- ESD ユネスコ世界会議報告会の実施及び実施支援

### ● MSH ダイアログ ダイアログ 3「ESD を地域で実践するために…仕組みづくりと評価」開催

日 時：平成 27 年 1 月 29 日（木） 14:15～16:45

参加者：20 名（出演者 17 名 コーディネーター 1 名 スタッフ 2 名）

中部 7 県で ESD に取り組む方々を出演者に迎え、ESD 取組を継続し、拡大するために必要な地域の仕組みと評価についてを協議した。多岐にわたり、また深い議論を重ねたが、「**いかに学校での学びを地域に伝え、地域の思いを学校に伝えるか**」のその伝え合う仕組みづくりが重要であることを共有した。

- 「ESD BOOKLET」の作成。ESD ユネスコ世界会議の成果報告と、EPO 中部の ESD 取組の紹介などをまとめた広報冊子を作成した。

本年度は ESD ユネスコ世界会議が開催されことにより、学校、企業、自治体など多様な主体からの依頼や相談を多数受け、**多くのステークホルダーと出会い、協働**することができた。また、世界会議に向け、それぞれのステークホルダーと連携を強化し、**また多様なステークホルダー間をつなぎ、今後で ESD 実践が地域で促進されるようにしくみづくりについても議論、提案し、しくみづくり、施策づくりへと検討を進めた。**

#### (工) 平成 26 年度 ESD ユネスコ世界会議関連フォーラムの開催

世界会議が開催される直前にさらなる盛り上げを図るため、企業を対象にしたセミナーと、ESD ユネスコ世界会議併催セミナーを実施した。2 つのセミナーの参加対象は異なるが、中部地域での「**ESD の 10 年」キャンペーンの成果と課題、地域のニーズを共有**することができた。ESD の大切さに気付いた企業、学校、地域の人が ESD に取り組む際にどのような支援ができるか、「協働」による影響力のある取組を提案できるのか、などステークホルダーとの次なる協議が課題であることを共有した。

※会議の運営等は中部地方環境事務所が別途契約した「平成 26 年度 ESD ユネスコ世界会議関連フォーラム運営等業務」によって行われた。

●ESD フォーラム(企業対象)

事業名：ESD フォーラム 2014～企業の環境教育から ESD へ

日時：平成 26 年 10 月 30 日(木) 14:00～17:00

場所：名古屋商工会議所

参加者:105 名

名古屋商工会議所と協働企画、運営した。ESD に取り組む企業の事例紹介とコーディネーターによる ESD 解説により、企業が今後どう取り組むべきかを具体的に示唆するセミナー内容となった。参加者のアンケートでは 95%がとてもよかった(よかったを含める)と回答を得た。

●ESD ユネスコ世界会議併催セミナー・併催イベント

事業名：みんなの ESD 会議～この 10 年の活かしがた～

日時：平成 26 年 11 月 12 日(水)11:30～13:00

場所：名古屋国際会議場 レセプション B

参加者:109 名

みんなの ESD 会議では、中部 7 県、他県からのゲストを迎え、「校長先生サミット」「自己肯定感を育む ESD」の 2 つのセッションを行った。「校長先生サミット」では、校長先生が ESD を進める際のポイントや課題について発言いただき、ESD の実践には学校と地域の連携が必須であることを共有した。「自己肯定感を育む ESD」では、作成した提案書を紹介し、参加者と意見を交わしながら、「自己肯定感を高めるために自分にできること」を出し合った。参加者のアンケートでは 97%がとてもよかった(よかったを含める)との回答を得た。

セミナーの他、会場内でのパネル展示やイベントへの参加をした。ESD 広報物を日本語版と英語版と作成したが、持ち込んだ資料はすべてなくなり、ESD に関する資料に対するニーズの高さを把握した。

(オ)平成 26 年度「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」後に開催するフォローアップ会合における調査業務等(中部)支援(別契約)

フォローアップ会合に参加し、ESD の 10 年の期間、EPO 中部が事業の中で取り組んできた ESD 実践により、得た成果や課題、地域のニーズやシーズを報告するとともに、全国より集まった多様なステークホルダーと課題や成果を共有し、今後の ESD の方向性について議論し、インプットした。EPO が地域で担うべき役割、を認識した。

●ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合

日時：平成 26 年 11 月 13 日(木)10:00～17:00

会場：名古屋国際会議場(白鳥ホールほか)

主催：文部科学省

共催：外務省、環境省

企画運営：特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議(ESD-J)

## エ 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

中間支援組織によるポスト 2014 に向けて検討する場づくり(「ESD2014」フォーラム)を行った。国連 ESD の 10 年を振り返り、ポスト 2014 について、中部管内の環境学習拠点や中間支援組織等と検討する場を提供する。

### (ア) 中間支援組織によるポスト 2014 に向けて検討する場づくり(「ESD2014」フォーラムの開催)

ESD ユネスコ世界会議の際に公表する、ESD10 年の後継プログラムである「GAP(グローバル・アクション・プログラム)」へのコミットメント募集に合わせ、中部地域からも ESD-J を通してインプットするための会議を実施した。GAP の優先行動分野である「政策的支援」「機関包括型アプローチ」「教育者」「ユース」「地域コミュニティ」の 5 つをテーマに分科会を設け、国連「ESD10 年」を振り返り、次なるポスト 2014 に何をするかについて、**協議及び提案する場を地域のステークホルダーと協働**で設けた。それぞれのステークホルダーによる話題提供及び参加対話型のセッションを実施し、**2015 年以降の ESD 取組の方向性やアプローチについて整理**することができた。11 月 13 日に開催された文部科学省主催「フォローアップ会合」にもインプットした

● **事業名：ESD2014～ESD の 10 年はこの地域に何を残すのか～**

日 時：平成 26 年 6 月 14 日(土)10:00～16:00

場 所：中部大学名古屋キャンパス

参加者：141 名

## オ 協定、協働取組、政策提言等環境教育等促進法の実践体制の構築

協定、協働取組、政策提言等、環境教育等促進法の実践に関し、地域の各主体に支援が行えるよう、知見の蓄積や関係者との連携など体制の構築を行った。

### (ア) 平成 26 年度愛知県環境学習コーディネート業務支援

ア (ウ) にて報告済みである。

### (イ) なごや環境大学事業支援

なごや環境大学が 10 周年を迎えるにあたり、今後のなごや環境大学の展開についての協議をした。また、10 周年を迎えるにあたり、「プロジェクト 10」を発足し、より認知度を高め、**多くの市民の対話と協働による動きとなっていくような企画**を検討した。名古屋市における、環境教育、ESD の核であるなごや環境大学の改善を進めている。また、**地域の、「ヒト・モノ・カネ・情報」などのリソースをマッチングする事業**を実施し、なごや環境大学がそのコーディネート機能を高めるよう検討している。

## カ Web サイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務

### (ア) 環境情報の収集等

年度比較において、環境情報数については全体的に増加傾向にある。特に行政関連が増加しており、環境省施設である特徴であると言える。企業の若干は増えているが、地元企業や中小企業の環境活動や CSR 活動についての情報収集を強化する。

環境情報の収集等

	H24	H25	H26
行政関係	71	113	131
企業関係	26	44	60
NPO 等関係	208	285	262
その他	154	97	104
合計	459	539	571
月平均	38.3	44.9	47.6

### (イ) 協働事例の分析

協働事例の分析については、協働取組加速化事業に申請のあった協働事業者(11 団体)のヒアリング内容をホームページに掲載、また、「郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生物多様性保全推進協議会」の活動をパンフレット及びホームページに掲載、協働事例として紹介した。また、今年度の協働取組加速化事業(2 事業)とサステナブルビジネス支援事業(1 件)を今年度発行した「協働 BOOKLET」に掲載し、ホームページにアップした。

### (ウ) ホームページの維持管理 (月 2 回以上更新)

#### \* WEB サイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務

年度比較で、ホームページアクセス数がかなり減っている。これは、昨年度の更新作業を行った結果、ホームページの各ページのディレクトリ名も変更した。このため、以前のアドレスにリンクを貼っていたページからのリンクが無効になった。そのためアクセス数が減少した。また、ディレクトリ名を変更し新しい内容のページになったことで、検索エンジンからの評価がリセットされ、検索エンジン上位に表示されづらくなった。検索エンジンから閲覧者の流入が減少した(アクセス件数が減少した)。今後ホームページアクセスが増えるよう、内容の充実及び PR が必要である。今年度のホームページ更新は月 6 回である。

ホームページアクセス件数

	H24	H25	H26
件数	357,442	409,546	239,960
月平均	29786.8	34,128. 8	18,984

## (エ) メールマガジンによる情報の発信（毎月発行）

年間 16 回発行（臨時号含む）した。登録者数 746 部(昨年度 724 部)。  
昨年度より、若干ではあるが（22 部）増加している。今年度から、中部地方環境事務所に対しての近い関係を育むために、職員が冒頭メッセージを書くこととした。今年度メールマガジン発行は年 16 回であった。

## キ 地元の様々な主体が交流する機会の提供

各事業を通じて、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体の交流を図った

## ク 施設の維持・管理

### (ア) 施設の維持・管理

来館者数、問い合わせ件数が減っている。今年度は ESD ユネスコ世界会議が開催され、関連する会議が EPO オフィス以外で多々開催されたことも減少した要因だと考えられる。スタッフ数が多いのは、ESD ユネスコ世界会議開催に向けての事業が増加し、スタッフ増員をしたことによる。

#### ①来館者数等

	H24	H25	H26
開館日数	241	237	241
来館者数	623	663	502
日平均	2.6	2.7	2.1
問い合わせ件数	520	862	646
日平均	2.2	3.6	2.7
スタッフ体制	656	1,113	1,231
日平均	2.7	4.7	5.1

## (イ) 来客等対応業務

### a 問合せ件数

分野	件数
環境教育(学習)	35
ESD	300
生物多様性	6
気候変動	6
自治体関連	54
企業関連	35
NPO・市民活動団体・地域活動等	90
パートナーシップ	36

EPO	15
フェアトレード	5
他(具体内容下記に抜粋)	64
<b>合 計</b>	<b>646</b>

※「他」の内容一部抜粋

- 廃プラスチックから油を作る装置販売に関係する行政機関の問い合わせ先について
- 来年度環境省概算要求の新規事業について
- 三河湾再生に関する情報について
- 愛知県大学生の環境ボランティアについて
- 羽毛のリサイクルについて
- エネルギーについて詳しい学識者紹介について
- 組手什を活用した事業について
- 持続可能な農業に取り組む人について
- 北陸地域における地産地消、伝統食の現場について
- 教員向け環境学習ツールの広報について
- 省エネ機器について説明できる講師について
- 団地の共有部分の再生可能エネルギー設置の可能性について
- 団地における太陽光パネル設置について
- 海外研究者招聘事業助成の公募について
- マンションでの災害時蓄電について
- 持続可能な交通（EST）シンポジウムの広報について

#### ケ 業務実施計画の作成

業務運営計画(案)を作成し、上半期運営会議にて協議し、決定とした。業務を円滑に実施するために、年間の業務内容及び予算、スケジュールを作成した。

#### コ 活動成果等の取りまとめ 活動成果等の取りまとめ

EPO 中部第 3 期における活動成果並びに中部地域における環境保全活動、協働取組等におけるニーズ・課題と EPO 中部が担うべき役割及び平成 27 年度以降 EPO 中部が実施すべき事業をまとめた。運営会議委員へのヒアリングを実施し、下半期運営会議での協議を踏まえ、とりまとめ、環境省中部地方環境事務所に提出した。

.....

●第4期環境省中部環境パートナーシップオフィス運營業務への提案書

(平成27年1月15日/特定非営利活動法人ボランティアネイバース) から一部抜粋

4. 第4期への提案

第3期までの成果を踏まえ、今後担うべきEPOの役割、組織のありよう等を提案する。この提案は、上記運営会議委員ヒアリング内容及び平成26年度下半期運営会議での討議を踏まえて、作成した。

(1)目標

■中部地域のパートナーシップ促進のためのガバナンスを形成する。

①環境省事業であるEPOとEPO以外で実施している協働取組及びそのステークホルダーによるガバナンスを形成し、環境協働による持続可能な地域社会形成のための地域基盤を確立する。

②中部7県の、持続可能な社会づくりの実現をミッションとする協働取組の、「実態あるネットワーク」と「成果効果を生み出すマッチング」を可能にする。

③多様な主体の構成によるガバナンスを形成するために、協働取組の「質の担保と向上及び評価」、協働取組とステークホルダーをつなぐ「面的な広がり」を拡大する。

④ステークホルダーの協力を得て、さらなるEPO中部の認知度を高め、活用者を増やす。

(2)方針

■地域の協働取組主体形成のための、支援基盤として機能する。

■地域の環境協働の支援基盤として、協働が協働を生み出す連鎖をプロデュース及び評価する。

[評価指標]

\*地域の持続可能性に寄与する取組をつないでいるか。

\*協働の連鎖の拡大と質の向上を進めているか。

\*EPO中部機能を利活用するステークホルダーが増え、協働取組が拡充しているか。

(3)具体的取組

■協働取組の発掘と伴走支援、公共性と経済性の項目による初期段階コンサルティングの充実

■必要なステークホルダーの紹介とマッチング

■マッチングを担うコーディネーターの育成

■資金調達の方策の提示と協働による戦略づくりの支援

■必要な情報の収集と提供

■マルチステークホルダーダイアログによる評価指標の検証と改善方策の検討

■EPO事業の評価・検証（ガバナンスの図式化と定量評価）

(4)運営体制

■運営組織

運営会議は、EPO 中部の運營業務についての検討をするだけでなく、委員はステークホルダーとして、EPO 中部の事業に積極的に参加する（活用も含めて）役割を担うこととする。

また、運営会議内に、新たに、

①パートナーシップガバナンス形成プロジェクト

②組織検討プロジェクト

を設置する。①では、協働取組が円滑に展開するための支援基盤（プラットフォーム）のありかた、形成について検討する。具体的には、サステナブルビジネスによる起業や協働政策の策定、地域金融機関との連携などを可能にするための機能を目指す。②では、①を実現するための EPO 中部の組織・機能・体制の改善を検討する。目標を達成するための運営組織として、どのような機能、役割を持つべきかを再検討し、運営会議委員の構成、選出方法、委嘱期間の見直し、委員以外のステークホルダーとの連携など組織体制について検討する。プロジェクト及び内容によっては、運営会議が、環境省及び請負団体との協議により意思決定権をもてるようにする。

#### ■運営スタッフ

請負団体職員とインターンスタッフ（地域 NPO/中間支援組織推進または公募）にて行う。請負団体職員はプロパーとして基本 3 年契約とする。インターンスタッフは 1 年契約とする。

※プロパーは EPO に情報、ノウハウを蓄積（コアメンバー）し、インターンスタッフは、EPO で得たノウハウやネットワークを地域に持ち帰り活用する。予算にもよるが、最低、請負団体のプロパー 2 名とインターンスタッフ 1 名の 3 名体制（情報に関する専属スタッフをつける）とする。北陸・長野地域に関しては、サテライトオフィス、スタッフを配置できるよう検討を始める。

#### ■他

目標達成のために、事業の選択と集中、優先順位づけを検討する。目標達成を可能にするために、予算、スタッフ体制を鑑みた事業数、事業領域の設定を検討する。

.....

#### サ 中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等

今年度は第 3 期最終年度であるため、EPO が担うべき、①**協働取組の事業化」のための支援メニューづくり**と、②**ESD 実践が地域に根付き発展するための仕組みづくり**についてを主な論点として、運営会議委員の知見や経験をもとに協議した。①については、「持続可能な地域づくりのための協働取組(サステナブルビジネス含む)に取組主体を対象に、協働取組(サステナブルビジネス)が継続し、持続可能な地域を生み出すための支援メニュー及び体制を整えること、EPO は、「はじめの一步」支援、その後は中小企業診断士、プロボノ、コンサルタント会社等の専門家につなげる」というスタンスで、**協働取組を「公共性」「経済性」の二つの視点からひも解き、課題を明確にし、必要なステークホルダーの紹介までを EPO の役割**とすることとした。②については、「ESD 推進のための地域の主体形成基盤をつくる」ことを目標とし、**ポテンシャルのある地域をモデルに、継続的に発展的に ESD 推進を担えるポテンシャルのある地域をモデルに、プロセスや条件等を明確にし、主体形成のために実施すべき施策を整理した。**

また、次期の EPO の機能、役割について、運営会議委員にアンケート及びヒアリングをし、地域のニーズを把握した。①マッチング、コンサルティング、コーディネーションに特化した業務、②WEB による情報収集と発信、③場の提供であること、が地域ニーズであることを把握し、会議にて EPO の在り方を議論し、次期の提案書の作成・提案を行った。

北陸 EPO 連絡会が開催され、今年度の北陸 3 県での会議の内容や、特に、金沢で予定している市民共同発電所全国フォーラムの準備状況についての報告を行った。

#### ●中部環境パートナーシップオフィス上半期運営会議

日 時：平成 26 年 6 月 3 日(火) 13:30～17:00

出席者：運営委員会委員 20 名(代理 7 名 事務局 9 名) 欠席 3 名

#### ●中部環境パートナーシップオフィス下半期運営会議

日 時：2014 年 12 月 22 日(月)13:00～16:00

出席者：21 名(15 名内代理 4 名 事務局 6 名) 欠席 8 名

### シ 中部地方環境事務所との協働による事業実施

毎月 1 回、事業の進捗状況及び課題等を共有、協議する打合せ会議を実施した。また必要に応じてのメールや打合せを実施し、協議を重ねながら、事業を展開した。

他協働で実施した事業は以下のとおり。

- \* 申請団体ヒアリング及び審査シート作成、中部地方環境事務所審査会オブザーバー出席
- \* 平成 26 年度版環境白書を読む会での ESD の説明
- \* 次期 EPO 運営に関してステークホルダーへのヒアリング支援
- \* EPO 事務所の引っ越し先の視察
- \* 外部評価委員会のための資料作成・準備
- \* EPO 中部リーフレット作成

### ス その他

#### (ア) 全国の地方 EPO・GEOC との連携

第 1 回全国 EPO 連絡会議に出席し、昨年度の成果及び課題を踏まえ、全国で取り組む、「協働取組加速化事業」「ESD の人材育成事業」、EPO 有志で取り組む「日本 NPO センター Green Gift Project」「地球環境基金事業」についての協議をし、意見交換を図った。

第 2 回全国 EPO 連絡会に出席し、11 月に開催される「ESD ユネスコ世界会議」に向けて、EPO ネットワークとしてすべきことについての意見を交わした。全国 EPO ネットワークで実施することとなった、「ESD の 10 年地球市民会議 2014」ラーニングプログラムの準備、参加、プレゼンテーションを行った。また、第 2 回全国 EPO 連絡会に出席、グリーンギフトプロジェクト、協働取組に関する意見交換や情報共有を行った。11 月 13 日に開催された文部科学省主催「フォローアップ会合」では、全国 EPO から今後の ESD 事業展開についてのインプットをした。また同時期、EPO インターン制度によって東北 EPO スタッフを 1 週間インターン生として受け入れた。

第 3 回全国 EPO 連絡会に出席し、協働取組に関する情報共有及び ESD 事業についての意見交換をした。

#### 4. 平成 26 年度業務報告

##### (1) 中部環境パートナーシップオフィス運営会議の開催等

###### ① 中部環境パートナーシップオフィス運営会議の運営

中部環境パートナーシップオフィス運営会議運営	
目的	事業方針・計画の検討と承認、事業実施及び支援、評価を行う。
事業概要	運営会議委員の参画を得て、それぞれの専門性により事業方針・計画の検討と承認、事業実施及び支援を行う。年 2 回実施(名古屋市内 2 回)。 「EPO 中部第 3 期活動成果と今後のあり方」を下半期運営会議等で協議を行う。
事業内容	<p>今年度の上半期運営会議の日程を運営会議委員と調整し、6 月 3 日(火)にすることと決定し、その後、本年度の課題である、「協働取組の事業化」及び「ESD 事業の地域への浸透」について運営会議委員を対象にヒアリングを行い、まとめた。また異動により新たに EPO 担当となった方への EPO 事業の説明等を行った。</p> <p>上半期運営会議議事次第、案内文書など資料作成、送付を行い、上半期運営会議を実施。運営会議では、主に、第 3 期最終年である今年度の目標として掲げている「協働事業の事業化」を目指し、「協働取組」については EPO が実施すべき支援メニューについて、ESD については、ESD ユネスコ世界会議終了後、ESD 実践を推進する主体基盤をどのように形成するか、地域にどう浸透するかについて協議をした。議事録を作成した。</p> <p>下半期運営会議に向け、第 3 期の評価及び今年度事業の評価のための資料作成、運営会議委員へのヒアリングとアンケート、資料作成を実施した。</p> <p>12 月 22 日(月)開催の下半期運営会議に向けて、第 3 期の評価及び今年度事業の評価のための資料作成、運営会議委員へのヒアリングとアンケート(23 名中 17 名に実施)、そのまとめ及び資料作成を実施した。運営会議実施。実施後には議事録作成、次年度提案書の作成のための追加ヒアリングを行った。</p> <p>●事業説明及びヒアリング</p> <p>富山：川端氏・山崎氏(富山県)</p> <p>石川：新氏(石川県)、三国氏(北陸大学)、鈴木氏(金沢大学)、角崎氏(北陸経済連合会)</p> <p>福井：吉川氏(NPO 法人エコプランふくい)、土橋氏(福井県)</p> <p>長野：宮島氏(長野環境保全協会)、中村氏・丸山氏(長野県)</p> <p>岐阜：小川氏(岐阜県)、市来氏(NPO 法人ぎふ NPO センター)</p> <p>三重：松井氏(四日市大学)</p> <p>愛知：平沼氏(愛知中小企業同友会)、高岡氏(EPOC)、三矢氏(名古屋工</p>

	<p>業大学)・千頭氏(日本福祉大学)</p> <p>●平成 26 年度上半期運営会議  日 時：平成 26 年 6 月 3 日(火) 13:30～17:00  場 所：中部地方環境事務所 第 1 会議室  出席者：運営委員会議委員 20 名(代理 7 名) 欠席 3 名 事務局 9 名  下半期の運営会議の日程調整作業を行い、下記となった。  日時：平成 26 年 12 月 22 日(月)13:00～16:00  場所：中部地方環境事務所大会議室  また、北陸 EPO 連絡会が開催され、今年度の北陸 3 県での会議の内容や、特に、金沢で予定している市民共同発電所全国フォーラムの準備状況についての報等を行った。日時：7 月 18 日(金)</p> <p>●アンケート及びヒアリング  アンケート実施  実施時期：11 月～12 月  対象：運営会議委員 17 名/23 名(6 名は北陸経済連合会、環境パートナーシップ CLUB、愛知県、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ、中部環境パートナーシップオフィス、中部地方環境事務所)</p> <p>●ヒアリング実施  12 月 15 日：三国千秋氏(北陸大学孔子学院)  千頭聡氏(日本福祉大学国際福祉開発部)  12 月 16 日：新広昭氏(石川県環境部)  12 月 17 日：鈴木克徳氏(金沢大学環境保全センター)  1 月 7 日(水)8 日(木)9 日(金)13 日(火)</p> <p>●ヒアリング・アンケート実施  12 月 22 日(月)開催の下半期運営会議に向けて、第 3 期の評価及び今年度事業の評価のための資料作成、運営会議委員へのヒアリングとアンケート(23 名中 17 名)、そのまとめ及び資料作成を実施した。運営会議実施。実施後には議事録作成、次年度提案書の作成のための追加ヒアリングを行った。</p> <p>●下半期運営会議  日 時：平成 26 年 12 月 22 日(月)13:00～16:00  場 所：中部地方環境事務所大会議室  出席者：21 名(15 名内代理 4 名 事務局 6 名) 欠席 8 名</p>
協働パートナー	運営会議委員
評価指標・方法	指標：適正運営、目標達成等 方法：下半期運営会議での協議

<p>成果・評価</p>	<p>中部環境パートナーシップオフィス運営会議を年 2 回開催した。</p> <p>上半期の運営会議を開催する前に、本年度の課題である、「協働取組の事業化」及び「ESD 事業の地域への浸透」について運営会議委員を対象にヒアリングを行い、まとめた。また異動により新たに EPO 担当となった方への EPO 事業の説明等を行った。</p> <p>上半期運営会議では、主に、第 3 期最終年である今年度の目標として掲げている「協働事業の事業化」を目指し、「協働取組」については EPO が実施すべき支援メニューについて、ESD については、ESD ユネスコ世界会議終了後、ESD 実践を推進する主体基盤をどのように形成するか、地域にどう浸透するかについて協議をした。</p> <p>また、第 3 期最終年度であるため、次期(第 4 期)、今後の EPO の機能、役割について、運営会議委員にアンケート及びヒアリングをし、地域のニーズを把握した。下半期運営委員会では第 3 期事業の成果をまとめ、運営委員と共有した。次期に向けての提案を協議した。次期の運営について運営委員が EPO に求める機能が①マッチング、コンサルティング、コーディネーションに特化した業務、②WEB による情報収集と発信、③場の提供であることをアンケートで把握し、EPO の在り方を議論した。地域のニーズとしてまとめ、運営委員へヒアリングを行い、次期提案書の作成・提案を行った。</p> <p>運営会議委員の EPO 中部に対する積極的主体的参画が得られるようになり、EPO 中部の運営基盤ができてきた。</p>
--------------	---

## ②中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成

<p>中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成</p>	
<p>目的</p>	<p>中部地方環境事務所との協働による円滑な運営を確保するため、密接な情報共有及び意見交換を図る。</p>
<p>事業概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部地方環境事務所との定例会議(月 1 回)</li> <li>・中部地方環境事務所主催会議のための資料の作成(外部評価等)</li> </ul> <p>運営上必要な書類等中部地方環境事務所の担当官と協働で作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省が発行する報告書や重点施策に関するセミナーを連携で実施</li> <li>・中部地方環境事務所が実施する施策とのコラボレーション</li> </ul>
<p>事業内容</p>	<p>地方事務所主催の事業への参画、ヒアリングの支援等を行った。下記の通り、毎月 1 回定例会議を実施し、事業の進捗共有及び展開方法についての協議を行い、議事録を作成した。また、9 月以降は ESD ユネスコ世界会議の開催を前に、地方事務所と連携しての展示ブースの出展などの協議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 定例会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>4 月 8 日(火) 10:30～12:00</li> <li>5 月 14 日(水) 10:30～12:00</li> <li>6 月 10 日(火) 10:30～12:00</li> </ul> </li> </ul>

	<p>7月11日(金) 10:30~12:00  8月6日(水) 10:30~12:00  9月10日(水) 10:30~12:00  10月15日(水) 10:30~12:00  11月19日(水) 10:30~12:00  12月11日(月) 10:30~12:00  1月8日(木) 10:30~12:00  2月5日(木) 10:30~12:00  3月12日(木) 10:30~12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 26 年度版環境白書を読む会  7月28日(月) ESD 事業説明を担当。</li> <li>●EPO 連絡会企画に関する打ち合わせ  8月29日(金)</li> <li>●次期 EPO 運営に関してステークホルダーへのヒアリング支援(地方事務所)  9月12日(金) 打ち合わせ  9月16日(火) リスト及び詳細作成  9月22日(月) リスト及び作業、送付</li> <li>●EPO 事務所の引っ越し先の視察  11月19日(水)</li> <li>●外部評価委員会  資料作成：1月5日(月)、6日(火)、7日(水)、8日(木)、9日(金)、  13日(火)、19日(月)  開催：平成 27 年 1 月 20 日(火) 10:00~12:00</li> </ul>
協働パートナー	環境省、中部地方環境事務所
評価指標・方法	指標：円滑な事業実施等 方法：ヒアリング
<b>成果・評価</b>	<p><b>毎月 1 回の定例会議、また必要に応じてのメールや打合せを実施し、協議を重ねながら、事業を展開した。</b></p> <p><b>中部地方環境事務所との協働による円滑な運営を確保するため、密接な情報共有及び意見交換を図ることができた。</b></p>

## (2)中部地方環境事務所との協働による事業実施

### ①持続可能社会に向けた地域協働モデルづくり

#### ア 持続可能なコミュニティ形成のための協働事業の支援

平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業関連業務採択事業の支援(別契約)	
目的	<p>先導的な事例を形成し、協働取組の経験を蓄積し、普及共有する。</p> <p>採択された協働事業を実証するための「支援事務局」を設置し、協働取組の方</p>

	<p>法や手順を明らかにする。協働取組を活かした環境保全活動の幅広い波及を図る。</p>
事業概要	<p>ステークホルダー間の状況(補完性・利害性など)、事業の進捗・課題を把握し助言する。地域課題を解決する協働事業のプロセスを可視化し、協働事業を促進するツールをつくる。</p>
事業内容	<p>本事業に申請した団体へのヒアリングを行い、ヒアリング内容をまとめ、中部地方環境事務所に提出。さらには中部地方環境事務所の審査会にオブザーバー出席をした。採択事業決定後は、平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業支援事務局(別契約)として、採択団体実施事業の支援を行った。支援の概要は次のとおり。</p> <p>事業開始時に採択団体との打合せを行い、本事業の目的や実施方法、各団体の事業内容、地方支援事務局の役割について説明をした。また協働取組加速化事業第 1 回連絡会の準備等を行った。</p> <p>採択事業が動きだし、事業報告の作成、協議会・定例会・活動・イベントへの参加、ステークホルダーへのヒアリング等を実施した。採択団体の円滑な事業展開のための情報提供や関連事業者等の紹介、周知ツールを作成する際のアドバイス等支援をした。7月に第 1 回、9月に第 2 回連絡会を開催、採択団体による現状報告と課題に関する協議・検討を行った。また、各事業のステークホルダーへのヒアリングから、その関係性と事業における役割や期待などを把握した。</p> <p>採択 2 事業の、各事業ステークホルダーのヒアリングを実施、事業への期待、可能性、役割等をヒアリングし、まとめた。また、定例会、協議会に出席し、事業の進捗・課題の把握をした。月次報告の作成、全国事務局への送付など行った。</p> <p>●申請団体ヒアリング及び審査シート作成</p> <p>4月9日(水)申請団体ヒアリング(福井県 3 件)</p> <p>10日(木)申請団体ヒアリング(石川県 1 件)</p> <p>11日(金)申請団体ヒアリングまとめ</p> <p>14日(月)申請団体ヒアリング(三重県 3 件、岐阜県 1 件)</p> <p>15日(火)申請団体ヒアリング(愛知県 2 件)</p> <p>16日(水)申請団体ヒアリング(富山県 1 件)</p> <p>17日(木)申請団体ヒアリング(長野県 3 件)</p> <p>18日(金)一次審査シート入力・作成</p> <p>21日(月)一次審査シート入力・作成、申請団体へ不足資料の連絡等</p> <p>22日(火)一次審査シート入力・作成</p> <p>23日(水)一次審査シート入力・作成</p> <p>30日(水)中部地方環境事務所審査会オブザーバー出席</p> <p>●採択団体打合せ等</p> <p>6月23日(月)採択団体打合せ(一般社団法人若狭高浜観光協会)</p> <p>24日(火)採択団体打合せ(NPO 法人中部リサイクル運動市民の会)</p>

	<p>7月8日(火)「めぐる」プロジェクト第1回協議会参加  24日(木)第1回連絡会開催  29日(火)、30日(水)、31日(木)  (一社)若狭高浜観光協会アンケート案作成支援</p> <p>8月1日(金)若狭高浜花火大会におけるブルーフラッグPR等実施状況の確認・  情報共有  6日(水)ブルーフラッグ事業第1回協議会出席  7日(木)「めぐる」プロジェクト第2回協議会出席</p> <p>9月1日(月)「めぐる」プロジェクト採択団体との打ち合わせ  25日(木)ブルーフラッグ事業ヒアリング(5団体)、シンポジウム打ち合わせ、  環境学習に関する打合せ  26日(金)ブルーフラッグ事業ヒアリング(3団体)、10月25日シンポジウム  打ち合わせ、環境学習に関する打合せ、作業部会報告用平成25年  度協働取組ふりかえりシート作成  30日(火)第2回連絡会開催</p> <p>10月3日(金)協働取組加速化事業作業部会出席  9日(木)協働取組加速化事業支援事務局月次報告書作成  14日(火)15日(水)支援事務局月次報告書作成  22日(水)ブルーフラッグ事業第2回協議会出席  28日(火)31日(金)「めぐる」プロジェクトヒアリング実施・記録作成  ※協働取組加速化事業ブルーフラッグ事業ヒアリング記録作成・修正・確  認依頼</p> <p>11月7日(金)支援事務局月次報告書作成  ※「めぐる」プロジェクトヒアリング実施・記録作成</p> <p>12月1日(月)、2日(火)、5日(金)、9日(火)、10日(水)、11日(木)、  12日(金)25日(木)「めぐる」プロジェクトヒアリング実施・記録作成  13日(土)協働加速化事業「めぐる」プロジェクト定例会</p> <p>1月5日(月)、14日(水)、15日(木)、16日(金)  協働取組加速化事業「めぐる」プロジェクト広瀬氏へのヒアリング記録の作成  22日(木)「ブルーフラッグ」打合せ  26日(月)「めぐる」プロジェクト第3回協議会、ウェスティナゴヤキャスル試  飲会日程調整、協働ギャザリング2015の説明、チラシ配布  28日(水)協働ギャザリング2015の出欠連絡</p> <p>2月2日(月)、3日(火)、4日(水)、5日(木)  「協働ギャザリング2015-環境×協働=どんな未来?-」連絡調  整・資料作成・準備  6日(金)第2回作業部会、MSHダイアログ1テープ起こし  7日(土)「協働ギャザリング2015-環境×協働=どんな未来?-」</p>
--	--

	<p>9日(月)、10日(火)  「協働ギャザリング 2015-環境×協働=どんな未来? -」議事録作成  10日(火)ブルーフラッグ事業試飲会アンケート素案作成  11日(水)協働取組「めぐる」ツアー・定例会参加  12日(木)「協働ギャザリング 2015-環境×協働=どんな未来? -」議事録作成  13日(金)平成 27 年度「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」説明会文言作成、「めぐるプロジェクト」ウエスティンホテルでの打合せ  16日(月)17日(火)18日(水)19日(木)  「協働ギャザリング 2015-環境×協働=どんな未来? -」コミュニケーションタイム記録作成、協働白書作成準備  18日(水)平成 27 年度「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」説明会連絡調整  25日(水)ブルーフラッグ事業第 3 回協議会  3月 2日(月)平成 27 年度説明会準備、連絡調整、協働取組加速化事業ブルーフラッグ推進議会テーブル起こし  3日(火)平成 27 年度地域活性化に向けた協働取組加速化事業説明会準備  4日(水)「めぐる」プロジェクト連絡調整、平成 27 年度地域活性化に向けた協働取組加速化事業説明会  9日(月)支援事務局月次報告書作成  10日(火)連絡調整、支援事務局月次報告書作成  11日(水)、12日(木)連絡調整  13日(金)協働取組加速化事業報告書作成、連絡調整、支援事務局月次報告書作成  16日(月)、17日(火)、18日(水)、19日(木)、20日(金)、23日(月)  協働取組加速化事業報告書作成  19日(木)支援事務局月次報告書作成</p>
協働パートナー	採択事業団体及び各事業のステークホルダー、地方環境事務所他
評価指標・方法	指標：地域支援事務局としての役割、機能の達成 方法：採択団体による評価

<p>成果・評価</p>	<p>今年度の採択団体は、「ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築」（以下、ブルーフラッグ認証事業）/福井県と、「リユースびんを活用し循環型社会を再構築する『めぐる』プロジェクト」（以下、めぐるプロジェクト）/愛知県、であった。</p> <p>主な支援は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①連絡会での進捗状況の共有と課題の把握すること</li> <li>②協議会に参加して進捗状況やステークホルダーの関係性を把握すること</li> <li>③ステークホルダーの関係性を把握するためのヒアリング</li> <li>④必要な情報や人材の紹介を行うこと</li> </ol> <p>であった。</p> <p>ブルーフラッグ事業は、観光客が少なくなり、観光事業者を中心にしていた海の管理体制が十分ではなくなり、また地域住民の海への関心も少なくなる傾向の中、国際認証である「ブルーフラッグ」の認証の取得過程や取得することで、地域住民の意識が高まり、観光客が増え、地域経済が活性化し、高浜の海を中心にした持続可能な地域づくりを可能にしようという計画であった。課題は、「いかに地域住民の共感を得るか」「認証過程に住民の参加をいかに可能とするか」「認証 33 項目をいかにクリアするか」であった。</p> <p>伴走支援として、ニーズに対応した他地域の有識者の紹介（シンポジウム開催にあたっての講師紹介）、新たな実行部隊の設置についての提案、環境教育プログラム・人材に関する情報提供、補助金及び助成金の情報提供（資金調達先の情報提供）等をアドバイスとした。</p> <p>ブルーフラッグ事業に関しては、新たなステークホルダーを交えた部会を 2 つ結成し、より地域に密着した動きを可能とする体制をつくりだすことができた。</p> <p>めぐるプロジェクトは、生ごみのたい肥で作られた米を原料にした地酒をリユースビンに入れて商品化（めぐる）し、食品リサイクルとビンのリユースの 2 つの輪を循環させ、地産地消による地域経済の循環を生み出す、と言う計画であった。課題、「めぐるをいかに販売するか」「販売と併せてびんの回収システムをどうつくるか、名古屋市への政策提案をどうつくるか」「めぐるのブランディングをどう高めるか』であった。</p> <p>伴走支援として、広報ツール等作成支援、環境省及び他自治体のリユース、特に容器に関する施策の情報収集、めぐるブランディングに関しての第三者評価等を行った。</p> <p>めぐるプロジェクトに関しては、めぐるの工程をすべて視察するツアーを行い、市民の意識や共感を得る方策の聞き取り等を行った。また地元の外食チェーン店にて、試飲キャンペーンを実施することができ、クローズドマーケットでの実証事業として、店舗やお客様のニーズ調査を行うことができた。</p> <p>結果として、2 つの取組とも、新たなステークホルダーを巻き込むことによって、次なる動きを生み出し、施策を展開しつつある。その間、会議や打ち合わせを何</p>
--------------	--

	<p>度も行い、ステークホルダーとの関係性を育みながら事業を動かしてきた。</p> <p>いずれも、必要なタイミングに必要な人材やノウハウを投入することが重要であった。事業開始時は、なかなか事業が進まなかったが、機を熟し、新たな関係性を生みだすことができ、事業展開も拡大した。</p> <p>地方支援事務局の課題は、「支援事務局スタッフの多様なステークホルダーの関係性を育むスキルの向上」「地域住民の参加を得るための支援をどう進めていくか」である。この2つの課題に取り組むために、下記について重要視し支援を行う。</p> <p>①事業に関わるステークホルダーの関係性の「評価」を行い、改善策を提示する。</p> <p>②第三者にしか見えない視点、言えないこと、第三者だから見える視点や言えることを論理的に明確に伝える。</p> <p>③事業目標の達成のために、現段階の状況と目指すべき状況の差異を明らかにし、差異をどう埋めるか等進むべき方向性の協議を行う。</p> <p>※詳細は、平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業支援事務局業務報告書を参照。</p>
--	--

#### イ サステナブルビジネス支援連携体制構築等業務の実施((株)ピー・エス・サポートとの協働実施)

サステナブルビジネス支援連携体制構築	
目的	環境保全効果の高い事業の実施を通じてまちづくりや地域活性化を行う。地域の経済社会にも付加価値をもたらす事業を拡大する。
事業概要	<p>サステナブルビジネスを支援する中間支援組織等と連携して下記を実施する。</p> <p>a サステナブルビジネスの支援の検証と改善プロセスの可視化 協働取組やサステナブルビジネス事例等から1事例を選定し、専門家の協力を得て事業診断や事業改善のための助言等の支援と改善プロセスの可視化を行う。</p> <p>b サステナブルビジネス支援企業の掘り起し プロボノを派遣するなど、サステナブルビジネスを支援する企業の掘り起しを行う。サステナブルビジネスの価値を企業関係者に周知する。そのための研究会(企業5社程度)を開催する。</p> <p>c サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築 有識者、企業、NPO、プロボノ等からなる協議の場を設ける。</p>
事業内容	<p>本事業の協働パートナーである株式会社ピー・エス・サポートと本事業の目的、ゴール、役割分担について協議し、方向性を決定した。また、本事業全体を組み立てるために、本地域でプロボノ派遣を事業として取り組んでいるNPO法人中部プロボノセンターに企業のプロボノに関する認識や理解度についてや、本地域でのプロボノ派遣事業の現状や課題についてヒアリングを行った。</p> <p>また支援対象となるサステナブルビジネスの選定については、昨年度の調査内容及び数団体へのヒアリング後、第一候補である、社会福祉法人むそうへ訪問、取材</p>

	<p>を行い、支援を必要とする内容、ニーズについての聞き取りを行った。その後、(株)ピー・エス・サポートと協議し、支援対象先を、社会福祉法人むそうとし、具体的作業を展開することとした。また、上記、ヒアリングした内容から、今年度本事業の計画を策定した。</p> <p>a については、協働団体である(株)ピー・エス・サポートと協議の上、昨年度のサスビズ調査対象より社会福祉法人むそうへの支援を決定。支援ニーズを聞き取り、「竹ペレット事業の採算性が見えないこと」「竹ペレットの製造工程やストーブの販路に課題があること」を把握した。事業の採算性を分析するために、生産管理や製造管理、事業の採算性分析の専門家などをプロボノを派遣することとし、高野雅夫氏（名古屋大大学院環境学研究科教授）、杉田英俊氏（アイシン精機株式会社総務部さわやかふれあいセンターセンター長）、中尾洋吉氏（中小企業診断士）に依頼し了承していただいた。計 5 回のプロボノ会議、現場視察を行った。事業終了時期の平成 27 年 3 月までに、竹ペレット事業の採算性分析の支援を行うこと、竹ペレット事業の事業化に伴う課題の整理、支援終了後に自立した事業展開ができるようにすることを目標に進めた。事業担当者が竹ペレット成型の過程における湿度や温度、竹の水分含有率などのデータを取ることで竹ペレットの安定生産に向けた環境をつくることができ、竹ペレット成型の質も向上した。竹ペレット事業の採算性を分析した結果、現行の設備と生産体制で製造した場合、通常の販売価格を大幅に上回ることを把握した。いかにコスト減を導くか今後の検討である。まずは、内部消費をすることで、竹ペレットの質の向上と安定供給に向けての仕組みづくりを検討することとなった。</p> <p>b「サステナブルビジネス支援企業の掘り起し」事業においては、研究会の開催に当たり、企画書の作成と参加企業等への日程・連絡調整等を行った。サステナブルビジネスや協働取組において、プロボノを派遣することで、どのような影響力があるのか、プロボノの可能性を検討し、中部地域でのサステナブルビジネス及び協働取組の活性化のための支援策を検討することを目的に実施に研究会、関係者ヒアリング、ダイアログ（支援価値を企業関係者に周知）を実施した。</p> <p>研究会では、中部地域におけるプロボノに関する事業を展開している企業や NPO を中心とするメンバーで実施した。NPO とプロボノ（企業）では考え方が違い、相互理解に時間がかかったこと、プロボノ派遣企業からはプロボノには人材育成として取り組むのか、ボランティアベースで個人的な活動でプロボノに参加するのか 2 パターンあり、そのニーズが数値として見れば人事部も人材育成研修として活用出来る可能性があるということについて協議された。またプロボノは人材育成よりも企業研修プログラムとした方が分かりやすいかもしれないということや、企業の間は自社のノウハウが活用できる、活用されるということ自体に気付かない傾向があるということについても意見交換をした。</p> <p>関係者へのヒアリングは、嵯峨生馬氏（NPO 法人サービスグラント代表理事）に</p>
--	--

プロボノに関するヒアリングを行った。嵯峨氏がプロボノ派遣事業を始めた経緯、NPO 法人サービスグラントの事業形態、派遣されているプロボノや参画している企業について話を伺った。さらに大企業ばかりが参画しがちなプロボノにおいて中小企業参加の可能性や企業への協力アプローチについて把握を行い、今後の展開の参考とした。

MSH ダイアログでは、主に企業を対象にしてプロボノ事業についての説明やその効果、今なぜ必要なのか、そして課題について協議した。サスビズ事業者の壁、プロボノ側の壁、企業側の壁を整理し、その改善について協議をした。

#### ●プロボノ研究会

日 時：平成 26 年 11 月 26 日(水)10:00～12:00

場 所：環境省中部環境パートナーシップオフィス

出席者：11 名(ゲスト 7 名 事務局 4 名)

高野雅夫氏(名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻 教授  
臨床環境学コンサルティングファーム 部門長・センター事務局長)

戸成司朗氏(NPO 法人中部プロボノセンター 代表

住友理工株式会社 CSR・社会貢献室長)

間瀬康文氏(ブラザー工業株式会社 コーポレートコミュニケーション部

グローバルブランドグループ 企画管理 チーム・マネジャー)

杉田英俊氏(アイシン精機株式会社 総務部 さわやかふれあいセンター  
センター長)

永吉 剛氏(NPO 法人メタセコイアの森の仲間たち 農業交流事業部)

北 洋祐氏(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 経済・社会政策  
部研究員)

村田元夫氏(株式会社ピー・エス・サポート 代表取締役)

他事務局 4 名

#### ●MSH ダイアログ ダイアログ 2

##### プロボノの可能性に迫る…サスビズの成功に向けて

日 時：平成 27 年 1 月 29 日 (木) 14:15～16:45

場 所：ウインクあいち 1105 教室

参加者：21 名 (話題提供者 企業 3 名 サスビズ事業者 2 名/出席者企業  
8 社 自治体 2 名 NPO 3 名 コーディネーター 1 名 スタッフ 2  
名)

内 容：サステナブルビジネス事業を支援する一つの方策である「プロボノ派遣」  
について、プロボノを出す側とプロボノ社員、そして受け入れ側の NPO の  
3 社のマッチングを成立させる方法について議論した。プロボノには可能  
性もあるが、課題も多々あり、今後のプロボノの積極的展開には、プロボ  
ノ支援による社会的影響力を明確に明確に打ち出しその意義を可視化  
し理解を得ることが必要であることを共有した。

c「サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築」事業は、7月と9月サステナブルビジネス課題改善、支援体制の構築会議を開催した。

会議を2回実施し、サステナブルビジネスが抱えがちな課題について、今年度の協働取組採択事業である「ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築」「リユースびんを活用し循環型社会を再構築する『めぐる』プロジェクト」を事例とし、「社会性(公共性)」と「経済性(事業性)」の2つの視点から意見を交わし、それぞれの事業についての課題の共有、改善方策の検討、支援メニューや体制の検討を行った。

●第1回「サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築」会議

日時：平成26年7月24日(木) 15:20~17:00

出席者：19名

●第2回「サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築」会議

日時：平成26年9月30日(火) 15:20~17:00

出席者：17名

[主な業務]

5月7日(水)企画会議

6月16日(月)株式会社ピー・エス・サポートとの打合せ

6月19日(木)NPO 法人中部プロボノセンターヒアリング

6月24日(火)社会福祉法人むそう ヒアリング

6月30日(月)NPO 法人中部プロボノセンター 事業計画について打合せ

7月7日(月) (株)ピー・エス・サポートとの打合せ

8月1日(金)(株)ピー・エス・サポートと業務進捗状況の情報共有

8月12日(火)名古屋大学臨床環境学コンサルティングファーム取材

8月19日(火)事業関係者によるプロボノ派遣事業会議

7月24日(木)第1回サステナブルビジネス課題改善、支援体制の構築会議

10月2日(木)NPO 法人サービスグラント取材

10月7日(火)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業  
社会福祉法人むそう視察

10月15日(水)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業  
社会福祉法人むそう視察

10月28日(火)株式会社ピー・エス・サポートとの打合せ

11月26日(水) サステナブルビジネス支援企業の掘り起し研究会

12月1日(月)サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント CSR 担  
当者の一覧表作成

1月5日(月)サステナブルビジネス支援企業の掘り起し研究会議事録作成、連  
絡調整、MSH ダイアログ 2(サステナブルビジネス支援企業の掘

	<p>り起し周知イベント)企業関係者への連絡調整</p> <p>6日(火)、7日(水)、9日(金)MSH ダイアログ 2(サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)企業関係者への連絡調整</p> <p>8日(木)、9日(金)サステナブルビジネス支援企業の掘り起し研究会議事録送付</p> <p>13日(火)MSH ダイアログ 2(サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)企業関係者への連絡調整</p> <p>14日(水)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業村田氏と打合せ・議事録作成</p> <p>15日(木)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業村田氏との打合せの議事録作成、MSH ダイアログ 2(サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)企業関係者への連絡調整</p> <p>16日(金)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業村田氏との打合せ議事録作成、NPO 法人サービスグラント取材、チラシ作成、出演者への資料送付・打合せ</p> <p>19日(月)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業村田氏との打合せ議事録作成、MSH ダイアログ 2 (サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)打ち合わせ・出演者リスト作成・企業への依頼</p> <p>20日(火)MSH ダイアログ 2(サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)戸成氏と打合せ、関係者への連絡調整、企画詳細検討、出席企業依頼</p> <p>21日(水)戸成氏と打合せ・議事録作成、関係者への連絡調整</p> <p>22日(木)戸成氏と打合せ議事録作成、MSH ダイアログ 2 依頼文書・支払計算書送付</p> <p>23日(金)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業定例会合、議事録作成、MSH ダイアログ 2 依頼文書・支払計算書送付</p> <p>26日(月)MSH ダイアログ 2 資料作成、出演者交渉、資料送付</p> <p>27日(火)MSH ダイアログ 2 当日資料準備、支払計算書準備、CSR レポート送付依頼・印刷準備、出演者連絡調整、備品準備</p> <p>28日(水)MSH ダイアログ 2(サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)企業杉田氏と打合せ・議事録作成、MSH ダイアログ準備、資料作成、ゲスト調整</p> <p>29日(木)サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント(MSH ダイアログ 2)開催、資料準備、備品準備</p> <p>30日(金)MSH ダイアログ 2 (サステナブルビジネス支援企業の掘り起し周知イベント)アンケート集計、テーブル起こし、成果物の記録作成、出演</p>
--	--

	<p>お礼の連絡</p> <p>2月2日(月)、4日(水)、9日(月)、10日(火)、12日(木)、13日(金)、 24日(火)、25日(水)、27日(金)</p> <p>MSH ダイアログ 2 議事録作成・会計処理</p> <p>3月2日(月)サステナブルビジネス支援の検証と改善プロセスの可視化事業定例会合</p>
協働パートナー	(株)ピー・エス・サポート、サステナブルビジネス事業主体、研究会メンバー(企業 5社程度)、周知啓発企業 10 社、有識者、企業、NPO、プロボノ、自治体、地方事務所他
評価指標・方法	<p>指標：a 選定事業の発展への寄与度</p> <p>b プロボノへの理解度・活用度</p> <p>c 協議の場の設置と協議内容</p> <p>方法：a 選定した事例事業者の評価</p> <p>b 研究会メンバー及び周知した企業へのアンケート</p> <p>c 協議の場に参加したステークホルダーへのアンケート</p>
成果・評価	<p><b>a サステナブルビジネスの支援の検証と改善プロセスの可視化</b></p> <p>サステナブルビジネス事業に実際にプロボノを派遣し、その専門性がどう活かされるのかのプロセスを追った。事業者とプロボノの間に当初あった違いのようなものが、共通のミッションを共有することで認め合うことができ、今すべきこと、必要なことへ、の率直な指導が入り、お互いにとってメリットのある工程を生み出すことができた。一方で、プロボノ派遣をする際には、時間がかかること、お互いを存分に理解しあうこと、なしに有効な成果が生まれないことも分かった。しかし、補完し合うことで影響力の高い事業を創出できることも把握した。</p> <p><b>b サステナブルビジネス支援企業の掘り起し</b></p> <p>プロボノ派遣によるサステナブルビジネス支援等サステナブルビジネスを支援する企業の掘り起しのため、事例等による支援価値を企業関係者に周知した。また、支援企業の掘り起しのための研究会を開催した。サステナブルビジネスを支援する企業を掘り起こすために、NPO 法人中部プロボノセンターや、日本にプロボノをもちこんだ NPO 法人サービスグラントに取材に行き、現状を把握した。プロボノに関する研究会やマルチステークホルダーダイアログを通して、プロボノを派遣する側、受け入れる側、マッチングする側それぞれの課題はあるものの、成功事例を紐解き、その有効性を可視化する必要性がある。マルチステークホルダーダイアログでは、このような場をもっとつくること、日常的に相談できる窓口を設置することなど、課題は多々あるものの、地域ニーズが高いことがわかった。</p> <p><b>c サステナブルビジネスの課題改善、支援体制の構築</b></p> <p>今年度の協働取組採択事業である「ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築」「リユースびんを活用し循環型社会を再構築する『めぐる』プロジェクト」を事例とし、「公共性」「経済性」の視点から、事業の進捗を確</p>

	認、共有する支援メニューを検討した。協働取組など今後相談のあった事業についてはこの視点から整理し、課題を明確に示し、アドバイスの重要性を共有した。
--	---

**ウ 持続可能なコミュニティ形成のための「事業化」検討会議の開催と、協働取組「事業化」のための指標及び支援ツールの作成**

持続可能なコミュニティ形成のための「事業化」検討会議の開催と、協働取組「事業化」のための指標及び支援ツールの作成	
目的	支援した協働事業関係者等で協働取組が「課題解決に至るまで継続的に実施されるための支援」(事業化)を行う。
事業概要	検討会議を実施し、協働取組促進に必要であろう「公共性」と「経済性」に関する指標(項目)について協議し、作成する。
事業内容	<p>第3期最終年度となる今年度は、協働取組を支援するメニュー、ツールの作成をゴールとしている。運営委員ヒアリングを行い、運営会議への情報提供として、「公共性」と「経済性」に関する指標(項目)のたたき台を作成した。</p> <p>運営会議での協議を得て、企画書を作成し、本格的に議論を行い作成するための、「協働取組『事業化』のための指標及び支援ツール作成会議」のメンバー候補者への依頼、会議日程調整等を行った。第1回会議を7月24日(木)とした。</p> <p>第2回会議を、9月30日(火)「事業化」のための指標及び支援ツールの作成会議を開催。協働取組加速化事業及び項目試案を基に、指標について協議・検討を重ねた。</p> <p>10月以降、協働取組「事業化」のための指標及び支援ツールの作成のためのマルチステークホルダーダイアログの開催のための準備を開始した。</p> <p>持続可能なコミュニティ形成のための「事業化」検討会議(仮称)を1月29日(木)に開催することに決定。企画書の作成及び出演者の調整、会場選定及び決定等の作業をした。協働取組「事業化」のための指標及び支援ツールの作成については、どのような内容のものを作成するかについて協議をすすめた。結果、下記を実施することとなった。</p> <p><b>●MSH ダイアログ ダイアログ 1 サステナブルな地域をつくるために</b>  <b>…公共性・経済性という指標</b></p> <p>日 時：平成27年1月29日(木) 14:15～16:45  場 所：ウインクあいち 1105 教室  参加者：26名(出演者23名 コーディネーター1名 スタッフ2名)  内 容：協働取組がもつ「市民の理解と共感、参加を得る事業にいかにしていくか」「地域全体での包括的な取組へいかに発展させていくか」「価値のある事業をいかに地域に根づかせるか」という3つの課題に対して、「公共性」「経済性」の視点から意見を交わし、この視点から事業を見直すことの価値を検討、共有した。</p>

	<p>[主な業務]</p> <p>6月 企画書の作成 参加メンバー候補リスト作成 会議日程調整</p> <p>【参加メンバー】</p> <p>木村真樹氏（公益財団法人あいちコミュニティ財団 代表理事、コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事）</p> <p>広石拓司氏（㈱エンパブリック 代表取締役）</p> <p>村田元夫氏（㈱ピー・エス・サポート 代表取締役）</p> <p>〈運営委員〉</p> <p>新広昭氏（石川県環境部次長兼温暖化・里山対策室長）</p> <p>寺西慶徳氏（名古屋市環境局環境企画部環境企画課 係長）</p> <p>平沼辰雄氏（㈱リバイブ 代表取締役会長）</p> <p>松井真理子氏（四日市大学社会連携センター長・総合政策学部教授）</p> <p>宮島和雄氏（一般社団法人長野環境保全協会 専務理事）</p> <p>7月1日(火)プロジェクトメンバーの選出及び依頼と連絡調整</p> <p>7月24日(木)「事業化」のための指標及び支援ツール作成の検討</p> <p>9月10日(水)指標及び支援ツール作成に関する運営委員意見の整理・報告書作成</p> <p>9月30日(火)「事業化」のための指標及び支援ツールの試案作成の検討</p> <p>10月～12月「マルチステークホルダーダイアログ 2014」開催のための企画書作成、会場及び出演者調整作業</p> <p>1月5日(月)MSH ダイアログ 1 出演者交渉・出演依頼、企画書作成、広報</p> <p>6日(火)MSH ダイアログ 1 出演者交渉・出演依頼</p> <p>7日(水)MSH ダイアログ 1 出演者交渉・出演依頼</p> <p>8日(木)出演者交渉・調整、企画修正、コーディネーター打合せ</p> <p>9日(金)MSH ダイアログ 1 出演者交渉・依頼</p> <p>13日(火)出演者連絡・調整・企画書送付、進捗確認票作成・入力、依頼文書作成、広報</p> <p>15日(木)出演者交渉・出演依頼</p> <p>19日(月)出演者交渉・出演依頼、当日配布資料作成</p> <p>20日(火)出演者交渉・依頼、広報、企画詳細検討、戸成氏ヒアリングテープ起こし</p> <p>21日(水)MSH ダイアログ 1 出演者交渉・出演依頼・支払計算書の作成</p> <p>22日(木)MSH ダイアログ 1 出演者交渉・出演依頼、依頼文書・支払計算書送付</p> <p>23日(金)MSH ダイアログ 1 依頼文書・支払計算書送付</p> <p>26日(月)出演者打合せ記録作成、出演者交渉・出演依頼、当日資料の作成</p> <p>27日(火)MSH ダイアログ 1 及び全体当日資料作成・準備、支払計算書</p>
--	--

	<p>準備、出演者連絡調整、備品準備</p> <p>28日(水)当日資料作成、備品準備</p> <p>29日(木)MSH ダイアログの開催、資料・備品・会場準備、撤収</p> <p>30日(金)議事録作成、アンケート集計、成果物の整理、備品整理</p> <p>2月2日(月)協働白書原稿作成準備</p> <p>3日(火)協働白書原稿作成準備</p> <p>4日(水)MSH ダイアログアンケート集計結果修正</p> <p>5日(木)協働白書原稿作成準備</p> <p>6日(金)MSH ダイアログ全体会テーブル起こし</p> <p>17日(火)MSH ダイアログ 1 まとめ</p> <p>19日(木) 27日(金)協働白書原稿作成</p> <p>3月2日(月)MSH ダイアログ 1 連絡調整・会計処理、協働冊子原稿作成</p> <p>3日(火)MSH ダイアログ 1 議事録作成、連絡調整、協働冊子原稿作成</p> <p>5日(木)、6日(金)、9日(月)、10日(火)、11日(水)、12日(木)、13日(金)、16日(月)、17日(火)、18日(水)</p> <p>協働冊子原稿作成</p> <p>19日(木)、20日(金)、23日(月)</p> <p>MSH ダイアログ 1 議事録作成、全体会議事録作成、協働冊子原稿作成、連絡調整</p>
協働パートナー	運営会議委員、自治体、中間支援組織、協働事業、サステナブルビジネス事業者及び関係者
評価指標・方法	<p>指標：協働取組みの支援方策(指標及び支援ツール)の有効性</p> <p>方法：検討会議出席者へのアンケート</p>
成果・評価	<p>協働取組加速化事業採択事業を対象にして「公共性(社会性)」「経済性(事業性)」指標について検討をしてきたが、最終の指標を提示するために、MSH ダイアログ ダイアログ 1 を開催した。今年度の協働取組加速化事業採択事業である「ブルーフラッグ認証取得活動を通じた海岸維持管理体制の再構築」「リユースびんを活用し循環型社会を再構築する『めぐる』プロジェクト」と、昨年度の採択事業である「里山と海を結ぶ「ひみ森の番屋」地域内エネルギー循環事業」を題材とし、「公共性(社会性)」と「経済性(事業性)」について、中部 7 県における様々な事業関係者による意見交換を行った。</p> <p>事業を実施すると見失いがちになる 2 つの視点を常に念頭に入れ、事業戦略を考えることの重要性を共有し、支援事務局やコーディネーター、第三者に関わる者はこの視点についてのアドバイスをすることが求められた。</p> <p>今後、協働取組やサステナブルビジネスに関する相談業務や初期コンサルティングにおいては、この指標を使いながら、事業実施者に事業の強み、弱み、特徴をいかにうまく使うか、不足しているものは新たなステークホルダー等の投入で補完するなどのアドバイスをしていくこととした。</p>

また、「協働 Booklet」を発行し、今後活用して支援体制を強化していく。

## エ 地域における ESD の普及啓発と取組推進支援

### (ア)持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援

a 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係る ESD 環境教育プログラム作成・展開業務支援	
目的	中部 7 県における ESD 実践の推進を図る。
事業概要	<p>実施主体と連携して下記を行う。</p> <p>①環境省がとりまとめた ESD モデルプログラムを基に、各県の地域性を踏まえた小中学生向けの ESD プログラムの作成・実証の支援</p> <p>②各県でワークショップを開催し、作成したプログラムの教育現場等での実践・実証の支援</p> <p>③実行委員会、各都道府県に多様なステークホルダーによるワーキンググループの設置と協議の支援</p> <p>④広くマスコミ等を活用し、事業の普及の支援</p>
事業内容	<p>今年度事業の受託団体が決定するまでは、昨年度の実施した本事業の広報に注力した。特に GEOC ホームページへの掲載原稿作成や「地域版 ESD 環境教育プログラムガイドブック」誤植修正作業を行った。また広報用の DVD の作成、「地域版 ESD プログラムガイドブック」の発送作業などを行い、県担当者や教育委員会への報告・説明など今年度事業を展開するための EPO 中部として実施体制を整備した。</p> <p>6 月初めに受託団体が決定し、今年度事業についての打合せを数回行い、運営会議に向けての資料作成や論点整理、協議内容のまとめなどを行った。また、形成推進委員会委員の依頼及び交渉・ヒアリング、会議日程調整、各県ワーキングメンバー及び実証校選定、事前打合せなどの支援を行った。</p> <p>7 月に実施した形成推進委員会への準備を支援した。また、今年度達成すべき目標や方針など運営会議委員に個別ヒアリングをし設定した。</p> <p>岐阜県、長野県においては第 1 回ワーキンググループ会議の実施に向け、委員への依頼、開催準備、映像に関する打合せを行い、他県でも実施に向け、打合せ、資料作成等業務の支援をした。</p> <p>8 月は実証校の依頼、調整、石川県、富山県でのワーキンググループ会議の実施に向けて、資料作成、打合せ、準備支援を行った。他県においても授業案、映像についての打合せ、進捗状況の報告作業の支援を行った。</p> <p>9 月は中部全県において授業案、映像についての打合せ、進捗状況の把握、連絡、共有作業、資料作成等支援を随時行った。福井県ではワーキンググループ会議の実施に向けて、資料作成、打合せ、準備支援を行った。</p> <p>10 月は、愛知県、三重県での第 1 回ワーキンググループが行われ、その準備、また議事録作成を行った。富山で第 1 回の公開実証授業、岐阜県での公開実証授業が行われ、三重では第 2 回ワーキンググループ会議を行った。公開実証授業</p>

	<p>の際にはメディア依頼なども行った。それに伴う連絡調整、映像教材制作支援を行った。</p> <p>11月には、富山での第2回公開実証授業と第2回ワーキンググループ会議、愛知県での公開実証授業を開催。それぞれメディア取材依頼を行った。それに伴う連絡調整、映像教材制作支援を行った。</p> <p>12月には、三重県、長野県にて公開実証授業を実施。そのための映像教材調整、学校との調整、メディア取材依頼、アンケート作成等支援を行った。石川県、福井県の進捗状況及び映像制作調整の支援を行った。</p> <p>他、10月には GEOC で開催された、人材育成事業の全国の状況を共有する会議に出席した。</p> <p>12月には第2回形成推進委員会の論点整理のために形成推進委員を対象にしたアンケートの作成、結果集計、会議実施において会議設計の支援などを行った。1月には公開実証授業にむけ、実証校や映像会社と授業の内容や映像の調整、公開実証授業開催支援、第2回ワーキンググループ会議・振り返りの実施、メディアの取材依頼、会議記録作成支援を行った。</p> <p>2月には石川県、福井県、長野県、岐阜県、三重県 5 県での発表会が開催され、開催や資料作成、報告書作成支援を行った。また、事業報告書の作成におけるアンケートの集計・分析等の支援を行った。全国事務局が作成する地域版プログラムガイドブック原稿を作成した。</p> <p>3月には全国事務局が作成する地域版プログラムガイドブック原稿のデザイン・文字校正などを行った。</p> <p>[主な支援業務]</p> <p>4月1日(火)地域版 ESD プログラムガイドブック配送確認、ESD 人材育成事業ホームページ用原稿修正・確認</p> <p>2日(水)GEOC ホームページ掲載プログラム確認・修正、ESD 人材育成事業に関する打合せ</p> <p>4日(金)GEOC ホームページ掲載プログラム確認・修正・修正依頼</p> <p>8日(火)映像 DVD 作成・資料手配、地域版 ESD プログラムガイドブック誤植打合せ・調整連絡</p> <p>10日(木)地域版 ESD プログラムガイドブック修正対応、ウェブサイト掲載連絡</p> <p>11日(金)地域版 ESD プログラムガイドブック修正対応・修正における印刷会社との打合せ・修正作業依頼、打合せ</p> <p>17日(木)新聞掲載記事連絡・情報発信・地域版プログラムガイドブックの修正シール納品・確認・連絡</p> <p>23日(水)地域版 ESD プログラムガイドブック修正のための配送準備</p> <p>24日(木)報告書発送作業</p> <p>25日(金)報告書発送作業</p>
--	--

	<p>30日(水)地域版 ESD プログラムガイドブック発送準備</p> <p>5月 8日(木)今年度実施内容についての打合せ、地域版プログラムガイドブック 修正作業連絡・調整</p> <p>9日(金)今年度実施内容についての打合せ</p> <p>13日(火)今年度実施内容についての打合せ</p> <p>19日(月)今年度実施内容についてのヒアリング</p> <p>20日(火)人材育成事業に関する情報提供、意見交換</p> <p>21日(水)今年度実施内容についての打合せ</p> <p>23日(金)今年度実施内容についての打合せ</p> <p>26日(月)今年度実施内容についての打合せ</p> <p>6月 2日(月)今年度実施内容についての打合せ</p> <p>9日(月)形成推進委員会日程調整・連絡支援</p> <p>12日(木)第1回事務局会議、形成推進委員会日程調整・連絡支援</p> <p>13日(金)形成推進委員連絡・調整支援</p> <p>16日(月)岐阜県打合せ資料作成・準備支援、形成推進委員会資料作成支援</p> <p>17日(火)岐阜県羽島市教育委員会、正木小学校、ワーキングメンバーとの打合せ支援</p> <p>18日(水)形成推進委員兼業依頼書作成補助業務支援、各県実施における連絡・調整作業支援</p> <p>23日(月)各県ワーキンググループ日程調整・メンバー調整</p> <p>24日(火)各県ワーキンググループ日程調整、形成推進委員会連絡調整・メンバー調整支援</p> <p>25日(水)形成推進委員会会議資料作成、各県実践における連絡・調整作業支援</p> <p>26日(木)岐阜県打合せ、岐阜の映像に関する調整、長野県の実践における連絡・調整作業、形成推進委員会資料作成支援</p> <p>30日(月)岐阜県打合せ</p> <p>7月 2日(水)岐阜県映像の検討</p> <p>4日(金)形成推進委員会開催・準備支援</p> <p>7日(月)福井県実証校の調整、岐阜県映像に関する調整</p> <p>9日(水)長野県第1回ワーキンググループ会議、松本市環境政策課、松本市教育委員会打合せ</p> <p>11日(金)石川県実証校打合せ・資料作成支援</p> <p>14日(月)長野県環境政策課、長野県教育委員会打合せ・ヒアリング、長野県 WG 会議議事録作成支援</p> <p>22日(火)岐阜県ワーキンググループ会議、岐阜県教育委員会打合せ</p> <p>23日(水)愛知県実証校打合せ</p>
--	---

	<p>29日(火)岐阜県 ESD 授業づくり打合せ</p> <p>8月4日(月)名古屋市教育委員会との調整</p> <p>5日(火)愛知県実証校依頼・資料作成支援</p> <p>7日(木)岐阜県授業案打合せ・資料作成・打合せ記録作成、長野県授業企画調整支援</p> <p>11日(月)北陸に関する相談・連絡、長野県授業企画調整・学校ヒアリング、愛知県実証校調整、三重県実証校調整</p> <p>12日(火)三重県実証校調整、愛知県実証校調整</p> <p>18日(月)長野県実施校授業内容打合せ・長野県委員と実施体制について打合せ、愛知県実証校調整、三重県実証校調整</p> <p>19日(火)長野県打合せ記録作成支援</p> <p>22日(金)愛知県・三重県実証校調整</p> <p>25日(月)石川県 WG 会議</p> <p>26日(火)愛知県実証校候補校との打合せ</p> <p>27日(水)岐阜県映像について打合せ</p> <p>28日(木)三重県実証校説明・依頼、福井県実証校に関する調整</p> <p>29日(金)富山県 WG 会議</p> <p>9月1日(月)愛知県実証校(名古屋市立八熊小学校)打合せ・進捗報告</p> <p>4日(木)長野県実証授業打合せ</p> <p>10日(水)岐阜県実証校授業内容の調整</p> <p>12日(金)岐阜県実証授業内容及び映像打合せ・記者クラブ取材依頼文書作成・打合せ</p> <p>16日(火)石川県実証授業内容についての打合せ・議事録修正</p> <p>19日(金)長野県第2回 WG 会議</p> <p>24日(水)石川県実証授業内容検討、三重県実証授業内容検討、富山県実証授業のための映像内容検討</p> <p>25日(木)福井県実証校打合せ</p> <p>26日(金)岐阜県授業実施の打合せ</p> <p>29日(月)福井県第1回 WG 会議、岐阜県実証校打合せ・児童対象アンケート作成支援</p> <p>30日(火)岐阜県実証授業のための資料作成・実証校打合せ</p> <p>10月1日(水)岐阜県実証授業、石川県授業案打合せ、愛知県第1回 WG 会議</p> <p>2日(木)岐阜県実証授業第2回 WG 会議記録作成、福井県打合せ、愛知県打合せ</p> <p>3日(金)三重県進捗報告、愛知県撮影について打合せ、福井県第1回 WG 会議議事録作成、愛知県第1回 WG 会議議事録作成、人材育成事業全国共有会議出席</p> <p>6日(月)福井県・進捗共有、三重県第1回 WG 会議・資料作成、愛知</p>
--	---

	<p>県進捗共有</p> <p>7日(火)三重県児童対象アンケート作成、愛知県第1回WG会議議事録作成、岐阜県第2回WG会議議事録作成、愛知県映像教材確認・打合せ</p> <p>8日(水)愛知県撮影同行・打合せ</p> <p>14日(火)愛知県映像撮影作業支援</p> <p>16日(木)福井県進捗共有</p> <p>17日(金)福井県進捗共有、長野県進捗共有、石川県進捗共有、三重県桑名市教育委員会事業の報告・協力依頼用資料作成支援</p> <p>20日(月)三重県桑名市教育委員会事業の報告・協力依頼、富山県実証授業資料準備・連絡・児童対象アンケート作成支援</p> <p>21日(火)三重県・岐阜県アンケート集計・第2回WG会議資料作成、福井県進捗共有</p> <p>22日(水)三重県第2回WG会議、富山県第1回実証授業・振り返り</p> <p>23日(木)富山県WG会議記録作成、岐阜県アンケート集計、長野県進捗共有</p> <p>24日(金)富山県WG会議議事録作成、石川県進捗共有、三重県第2回WG会議議事録作成、愛知県実証授業取材依頼文書作成</p> <p>28日(火)石川県進捗共有</p> <p>29日(水)富山県WG会議議事録作成、富山県進捗共有</p> <p>30日(木)ESD進捗状況確認、愛知県映像打合せ・アンケート作成支援</p> <p>31日(金)石川県進捗共有、博報堂取材対応</p> <p>11月4日(火)愛知県実証授業のための資料作成、映像確認、実証校連絡、三重県第2回WG会議議事録作成、長野県進捗共有</p> <p>5日(水)愛知県実証事業実施、石川県映像撮影について打合せ</p> <p>7日(金)愛知県授業映像DVD作成</p> <p>13日(木)富山県映像についての打合せ</p> <p>14日(金)愛知県実証授業メディア掲載記事問合せ、富山県実証校打合せ、三重県・富山県メディア取材依頼文書作成</p> <p>17日(月)愛知県進捗情報共有、富山県第2回WG会議・実証授業詳細調整</p> <p>18日(火)長野県実証校打合せ・メディア取材依頼文書作成、岐阜県事前アンケート集計修正、連絡・第1回実証授業ふりかえり記録作成支援</p> <p>19日(水)富山県メディア取材依頼文書送付、長野県・生徒対象アンケート作成、三重県進捗共有</p> <p>20日(木)富山県映像確認・議事録確認、長野県メディア取材依頼</p>
--	--

	<p>21 日(金)富山県実施校連絡・メディア取材依頼、三重県進捗共有、長野県実証授業メディア取材依頼、福井県実施校打合せ</p> <p>25 日(火)富山県第 2 回 WG 会議資料作成、福井県生徒対象アンケート作成支援</p> <p>26 日(水)福井県実施校打合せ、石川県実施準備校進捗共有</p> <p>27 日(木)富山県実証授業、第 2 回ワーキンググループ会議(ふりかえり)、石川県実施校打合せ</p> <p>28 日(金)長野県実施校打合せ、石川県実施校打合せ・実施準備校進捗共有</p> <p>12 月 1 日(月)三重県取材依頼文書作成・メディア依頼、第 2 回形成推進委員会案内文書作成、長野県映像教材打合せ</p> <p>2 日(火)石川県進捗状況共有、三重県映像教材打合せ</p> <p>3 日(水)石川県進捗状況共有、三重県公開実証授業について実証校連絡、長野県公開実証授業資料作成支援</p> <p>4 日(木)三重県公開実証授業・第 2 回ワーキンググループ会議資料作成支援</p> <p>5 日(金)長野県公開実証授業実施・ふりかえり</p> <p>8 日(月)三重県公開実証授業実施・第 2 回ワーキンググループ会議</p> <p>10 日(水)長野県公開実証授業ふりかえり記録作成、三重県公開実証授業ふりかえり記録作成、石川県進捗状況共有</p> <p>11 日(木)形成推進委員対象、ワーキング委員対象、教員対象アンケート作成支援</p> <p>12 日(金)形成推進委員アンケート修正、石川県映像教材打合せ</p> <p>15 日(月)人材育成事業授業アンケート集計、形成推進委員アンケート集計、形成推進委員会資料作成、形成推進委員打合せ</p> <p>16 日(火)形成推進委員会資料及び提案書作成支援</p> <p>17 日(水)形成推進委員会開催・資料準備支援</p> <p>19 日(金)人材育成事業グラフ作成、形成推進委員会議事録作成支援</p> <p>25 日(木)第 2 回形成推進委員会の議事録作成、長野県ふりかえり記録修正</p> <p>26 日(金)岐阜県、三重県、福井県の進捗状況実証校問合せ</p> <p>1 月 5 日(月)愛知県 AR 教材打合せ</p> <p>6 日(火)石川県児童対象アンケート作成支援</p> <p>7 日(水)石川県実施校打合せ、全国事務局進捗状況報告</p> <p>8 日(木)石川県映像教材打合せ、愛知県 AR 教材打合せ</p> <p>9 日(金)愛知県 AR 教材打合せ</p> <p>13 日(火)中部地域進捗確認共有、三重県実施校進捗確認連絡、第 2 回形成推進委員会議事録作成支援</p>
--	--

	<p>14 日(水)富山県進捗状況共有、福井県進捗状況共有・メディア取材依頼文書作成・依頼</p> <p>15 日(木)愛知県報告会打合せ・報告会用資料作成支援</p> <p>19 日(月)愛知県報告会用資料作成支援</p> <p>20 日(火)石川県公開実証授業メディア取材依頼文書作成・依頼</p> <p>21 日(水)石川県公開実証授業メディア取材依頼、福井県第 2 回ワーキンググループ会議資料作成、石川県ワーキンググループ会議資料作成、第 2 回形成推進委員会議事録作成支援</p> <p>22 日(木)福井県公開実証授業・第 2 回ワーキンググループ会議</p> <p>23 日(金)石川県公開実証授業・第 2 回ワーキンググループ会議</p> <p>26 日(月)石川県・福井県 WG 議事録作成支援</p> <p>27 日(火)第 2 回形成推進委員会議事録、富山県発表会記録作成、福井県第 2 回ワーキンググループ会議記録作成支援</p> <p>28 日(水)福井県第 2 回ワーキンググループ会議記録作成支援</p> <p>29 日(木)愛知県報告会</p> <p>30 日(金)福井県第 2 回ワーキンググループ会議記録作成、愛知県報告会記録作成支援</p> <p>2 月 2 日(月)石川県第 2 回 WG 会議議事録作成支援、岐阜県周知啓発事業アンケート(案)作成支援、福井県第 2 回 WG 会議議事録作成、富山県発表会記録作成支援</p> <p>3 日(火)福井県第 2 回 WG 会議議事録作成、富山県実施校進捗状況確認連絡、報告書作成</p> <p>4 日(水)愛知県発表会アンケート修正・発表会記録作成、岐阜県発表会取材依頼、報告書作成</p> <p>5 日(木)岐阜県実施校連絡、石川県実施校進捗確認、報告書作成</p> <p>6 日(金)岐阜県発表会、長野県実施校連絡・WG 委員連絡、富山県実施校進捗確認、報告書作成</p> <p>9 日(月)石川県発表会資料準備・実施校連絡、石川県第 2 回 WG 会議議事録作成、報告書作成</p> <p>10 日(火)岐阜県発表会と石川県児童事前事後アンケート集計、石川県発表会、WG 委員ヒアリング</p> <p>12 日(木)愛知県第 2 回 WG 会議・議事録作成、長野県実施校連絡・進捗確認、報告書作成</p> <p>13 日(金)報富山県実施校進捗確認、報告書作成・打合せ</p> <p>16 日(月)長野県発表会・発表会記録作成支援</p> <p>17 日(火)授業実践者向けアンケートまとめ、長野県生徒アンケート集計福井県実施校進捗共有・アンケート(案)作成、報告書作成、富山県・石川県実施校進捗確認、三重県実施校連絡</p>
--	---

	<p>18日(水)報告書作成、岐阜県児童事前事後アンケート集計、WGアンケート集計、三重県実施校連絡、報告書作成</p> <p>19日(木)報告書作成、富山県進捗確認</p> <p>20日(金)報告書作成、生徒アンケート集計、福井県発表会・三重県発表会資料準備支援</p> <p>21日(土)人材育成事業三重県発表会</p> <p>22日(日)人材育成事業福井県発表会</p> <p>23日(月)報告書作成</p> <p>24日(火)報告書作成、地域版プログラムガイドブック原稿作成</p> <p>25日(水)報告書作成、地域版プログラムガイドブック原稿作成</p> <p>26日(木)地域版プログラムガイドブック原稿作成</p> <p>27日(金)支払計算書作成、成果物 DVD コピー、地域版プログラムガイドブック原稿作成、原稿確認依頼</p> <p>3月2日(月)地域版プログラムガイドブック原稿実証校確認・修正・写真選定</p> <p>3日(火)地域版プログラムガイドブック原稿作成・送付</p> <p>5日(木)資料・データ整理</p> <p>9日(月)地域版プログラムガイドブック打合せ</p> <p>13日(金)地域版プログラムガイドブック原稿校正</p> <p>17日(火)地域版プログラムガイドブック校正</p> <p>18日(水)地域版プログラムガイドブック原稿校正</p> <p>19日(木)地域版プログラムガイドブック原稿校正・送付、写真選定</p> <p>20日(金)地域版プログラムガイドブック校正原稿送付</p>
協働パートナー	中部7県でモデル事業採択となった団体等、各県担当者、教育委員会、小中学校、NPO/NGO、運営会議委員、地方事務所など
評価指標・方法	<p>指標：地域におけるESD実践への影響力、主体形成の状況等</p> <p>方法：各県ワーキンググループ及び実行委員会の評価及びアンケート</p>

<p>成果・評価</p>	<p>本事業の目的は、質の高い ESD プログラムの作成と実施、そしてその実践を可能にする地域の実施体制の構築である。今年度も中部 7 県、それぞれの地域の特徴を活かした、授業づくりと実践、実施体制づくりを行ってきた。今年度は中部 7 県での共通課題をもち、各県のワーキンググループに、学校や教育委員会、地域団体等が加わって授業づくり及び実施体制づくりを行った。</p> <p>アンケート結果から、本事業に対する満足度が高いことが伺える。体験や参加型手法を伴う授業づくりについては、地域との連携が必須となり、学校側だけでは実施が難しく、地域側も学校とていねいなコミュニケーションを交わして実施できたことで参加の意欲が高まったようだ。また、地域の人々のもつ知識や情報は、生の教材となり、児童生徒の学びに必須であることもあげられていた。さらには、質の高い発問を通した児童生徒間の対話式の授業についての関心も高かった。課題は、こういった、ESD の学びあいを継続して実施する体制づくりである。学校と地域の協働による実施体制づくりを今後どのようにすすめていくことができるかが重要課題である。本事業を通して、学校と地域の連携による授業づくり、ESD 視点や手法を取り入れた授業づくりの価値や評価を高め、どの学校でも当たり前に実施される環境づくりを進める必要がある。</p>
--------------	---

(イ)普及啓発・研修、交流の場の提供

<p>b 普及啓発・研修、交流の場の提供</p>	
<p>目的</p>	<p>ESD の実践を進める学校や NPO/NGO の連携を強化する。 学校と地域の連携による実践を拡大する。 自治体(教育委員会含)の政策づくりや企業の ESD 取組を促進する。</p>
<p>事業概要 (予定)</p>	<p>(ア)中部 ESD 拠点 2014 プロジェクト (イ)なごや環境大学との協働による「ESD 講座」「ESD 推進チーム」の実施 (ウ)ESD 研修(ESD 実践者拡大のための講座等の実施) (エ)ESD 写真展他各種 ESD 関連イベントへの参加・支援、ESD 実践普及のためのコンサルティング、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等</p>
<p>事業内容</p>	<p><b>(ア)中部 ESD 拠点 2014 プロジェクト</b> ESD ユネスコ世界会議に向けて、「中部モデル」の構築を目指し、運営委員会、作業部会にて協議をすすめた。「中部モデル」に対する多様な主体、人々の意見を聞く場(合同ワークショップ)を設けることとし、企画立案、ゲスト交渉等を進めている。また、NPO/NGO と共に進めている ESD2014 意見交換会では、この間協議してきた内容のまとめ、提案書づくりを始めた。今年度 11 月に開催予定である高校生 ESD コンソーシアム事業の準備が始まった。</p> <p>「中部モデル」提言書案を作成するために、提言書案について多様な主体や人々の意見を抽出する合同ワークショップを計 3 回実施した。高校生コンソーシアム事業については、高校生 ESD コンソーシアムに向けて定例会議で内容を検討し、11 月に 2 日間開催した。中部 ESD 拠点と連携してすすめている、NPO/NGO との ESD2014 意見交換会を開催し、協議してきた内容を提案として冊子「自己肯</p>

	<p>定感を育む環境をつくる」(本編、概要版、英訳版)をまとめた。</p> <p>[主な業務]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●運営委員会関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>4月4日(金)中部 ESD 拠点及びユネスコスクール事業に関する打合せ</li> <li>5月13日(火)運営委員会</li> <li>5月16日(金)中部 ESD 拠点事業調整、高校生コンソーシアム予算書作成</li> <li>5月23日(金)事業予算作成</li> <li>6月10日(火)運営委員会</li> <li>10月10日(金)運営委員会</li> <li>12月12日(金)運営委員会</li> <li>1月19日(月)運営委員会</li> <li>2月2日(月)運営委員会</li> <li>3月24日(火)運営委員会</li> </ul> </li> <li>●併催セミナー開催の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>11月10日(月) 11日(火)</li> </ul> </li> <li>●合同ワークショップの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>6月6日(金)中部 ESD 拠点合同ワークショップ打合せ</li> </ul> </li> <li>●中部 ESD モデル構築作業部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>6月27日(金)中部 ESD 拠点合同ワークショップ企画会議</li> <li>8月2日(土)第1回合同ワークショップ「ものづくりとESD」</li> <li>9月27日(土)第2回合同ワークショップ「ひとづくりとESD」</li> <li>10月5日(日)第3回合同ワークショップ「未来づくりとESD」</li> <li>その他随時、中部 ESD 拠点合同ワークショップ第2回「ひとづくりとESD」(9月27日(土))開催登壇者検討、依頼、登壇者との打合せ、登壇者発表資料の依頼、編集、ワークショップの開催準備。</li> </ul> </li> <li>●ESD2014 意見交換会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>4月24日(木)ESD2014 意見交換会開催(資料準備・議事録作成等)</li> <li>4月28日(月) ESDと自己肯定感に関する打合せ</li> <li>5月20日(火)ESD2014 意見交換会開催(資料準備・議事録作成等)</li> <li>6月30日(月)資料作成</li> <li>7月24日(木)提案書まとめ</li> <li>8月7日(木)提案書まとめ</li> <li>9月18日(木)提案書まとめ</li> </ul> </li> <li>●提案書の作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>10月6日(月)、7日(火)、8日(水)、9日(木)、15日(水)、20日(月)、21日(火)、23日(木)、24日(金)、30日(木)、31日(金)</li> <li>11月6日(木)</li> </ul> </li> <li>●高校生コンソーシアム会議開催</li> </ul>
--	---

	<p>6月27日(火)高等学校 ESD 愛知コンソーシアム会議        8月18日(月)定例会議。11月のコンソーシアムの企画について意見交換。        11月1日(土)2日(日)開催        ※開催準備と開催後の交通費会計処理を支援した。</p> <p>●報告書作成の支援        3月2日(月)2015年度報告書作成の支援            3日(火)2015年度報告書作成・提出の支援            9日(月)報告書確認・修正</p> <p><b>(イ)なごや環境大学との協働による「ESD 講座」「ESD 推進チーム」の実施</b>        なごや環境大学と共催で「子どもESDワークショップ」(計5回)のための打合せ、        当日運営、ふりかえりを実施した。環境デーなごやで使用することも ESD ワーク        ショップのパネルの製作の打合せ、他随時準備、打合せ、企画調整を重ねた。        また、ESD ユネスコ世界会議にて提示する、なごや環境大学の ESD 提案書を        作成支援した。11月には ESD ユネスコ世界会議併催イベントであるセミナーや        展示を実施した。        また、名古屋市が今年度作成する ESD テキストブック作成のためのアドバイス、        意見交換を実施した。</p> <p>●ESD 推進チーム会議        企画作成、打合せ、会議準備、なごや環境大学報告書調達・過去の実践事        例の拾い出し作業        4月3日(木)、4月30日(水)、5月2日(金)、6月4日(水)、7月3日(木)        8月12日(火)、9月2日(火)、10月6日(月)、10月22日(水)、10月        27日(月)、12月25日(木)、2月25日(水) 計12回</p> <p>●子どもESDワークショップ        5月17日(土)第1回オリエンテーション        5月31日(土)第2回開催        7月25日(金)第3回開催        9月13日(土)第5回環境デーなごやステージ発表        ※他随時打合せ、ふりかえりを実施        ※第4回は不参加。</p> <p>●環境デーなごや        ステージや ESD 関連企画に関する打合せを行った。        7月7日(月)、14日(月)、8月11日(月)、9月8日(月)        9月13日(土) 環境デーなごや        9月15日(祝・月)名古屋市 ESD シンポジウム :</p> <p>●ESD 提案書作成支援        10月7日(火)、10日(金)、14日(火)、15日(水)、22日(水)、</p>
--	--

	<p>24日(金)、27日(月)、28日(火)、29日(水)、 11月4日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●併催セミナー・展示開催支援 11月12日(水)</li> <li>●ESDについてのHP掲載原稿取材・原稿確認 12月2日(火)22日(月)</li> <li>●名古屋市ESDテキスト作成支援 10月6日(月)、7日(火)、14日(火)、17日(金)、27日(月)、29日(水) 11月4日(火)、5日(水) 12月15日(月)、1月13日(火)、2月4日(水)、2月24日(火)</li> </ul> <p><b>(ウ)ESD研修(ESD実践者拡大のための講座等の実施)</b></p> <p>学校、自治体等研修依頼があり、打合せ、資料送付、資料作成等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市邨高校教員対象ESD研修 5月14日(水) : 高校教員のESD意見交換会の調整 4月7日(月) 高校教員のESD意見交換会、派遣依頼書作成 4月10日(木) 高等学校ESD情報交換会資料準備・開催 5月1日(木) 資料準備、打合せ調整、資料作成、コンサルティング</li> <li>●愛知学院大学モーニングセミナー(ESD講座) 6月10日(火) : 資料準備、資料発送</li> <li>●松阪ユネスコ協会ESD研究会 6月28日(土) : 資料準備</li> <li>●丹羽郡扶桑町大口町ESD研修会 7月16日(月) : 資料作成、資料送付</li> <li>●愛知県総合教育センターESD研修 7月8日(火) : 資料作成、資料送付</li> <li>●名古屋市立緑高校 7月7日(月) : 資料作成、資料送付</li> <li>●名張市立薦原小学校教員研修会 8月28日(木) : 資料作成、資料送付</li> <li>●愛知商業高校ESDミニセミナー 9月9日(火) : 資料作成、資料送付</li> <li>●ウェスティンナゴヤキャッスルホテル 9月10日(水) : 資料作成、資料送付</li> <li>●豊橋市立津田小学校ESD教員研修 9月11日(木) : 資料作成、資料送付</li> <li>●名張市蔵持小学校ESD教員研修 9月17日(水) : 資料作成、資料送付</li> </ul>
--	--

- 尾張旭市瑞鳳小学校教員対象 ESD 講座 10月28日(火)  
: 資料作成、資料送付
- NPO 法人名古屋 NGO センター併催セミナー 11月12日(水)  
: 資料作成、資料送付
- 文部科学省主催「ESD フォローアップ会合」11月13日(木)  
: 資料作成、資料送付
- 名張市薦原小学校 ESD 研究発表会 11月14日(金)  
: 資料作成、資料送付
- 岡崎市常磐南小学校 ESD 研究会参加 11月20日(木)  
: 資料作成、資料送付
- 同塵会名古屋支部 ESD 勉強会 11月30日(日)  
: 資料作成、資料送付
- 尾張旭市瑞鳳小学校教員対象 ESD 講座 10月28日(火)  
: 資料作成、資料送付
- 三重県環境学習情報センターESD 講座 12月20日(土)  
: 資料作成、資料送付、アンケート集計
- 名城大学 ESD 研修 1月11日(日)  
: 資料作成、資料送付、アンケート集計
- あま市教師力アップセミナー1月21日(水)  
: 資料作成、資料送付、アンケート集計
- 愛知県総合教育センターESD 研修 1月27日(火)  
: 資料作成、資料送付、アンケート集計
- 名東高校 ESD フォーラム 2月7日(土)  
: 準備
- 一宮市園長会 ESD 研修 2月17日(火)  
: 資料作成、資料送付
- 平成 26 年度第 3 回愛知県環境学習施設等連絡協議会 2月18日(水)  
: 資料作成、資料送付、アンケート集計
- 京都環境教育ミーティング 2月28日(土)  
: 資料作成、資料送付、打合せ

**(エ)ESD 写真展他各種 ESD 関連イベントへの参加・支援、ESD 実践普及のためのコンサルティング、講師派遣、イベントの支援、普及啓発ツールの作成支援等**

● **ESD 写真展関連業務**

ESD 写真展の写真選定、チラシ及び配布冊子、ポストカード作成、企画詳細打合せなどを行った。また後援申請等作業を行った。また、ESD 写真展及び8月16

	<p>日の併催イベントトークセッションに関する打合せ、パンフレット原稿作成、パネル作成、スタッフ体制の検討、資料備品準備、搬入、取材依頼・対応などを行った。写真展終了後は撤収作業と回収したアンケートの集計・分析を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ESD 写真展～やさしい未来へ 平成 26 年 8 月 5 日(火)～8 月 17 日(日)</li> <li>● 写真展併催トークセッション 平成 26 年 8 月 16 日(土) 13:00～16:30 参加者 120 名</li> </ul> <p>打合せ：4 月 11 日(金)、21 日(月)、5 月 27 日(火)、6 月 11 日(水)、7 月 11 日(金)、14 日(月)、16 日(水)、17 日(木)、24 日(木)、30 日(水)</p> <p>チラシ・ポストカード・冊子・リーフレット作成 ：4 月 25 日(金)、28 日(月)、5 月 1 日(木)、2 日(金)、7 日(水)、8 日(木)、12 日(月)、16 日(金)、19 日(月)、22 日(木)、28 日(水)、29 日(木)、6 月 16 日(月)、25 日(水)</p> <p>後援申請書類作成 ：5 月 1 日(木)、2 日(金)、13 日(火)、16 日(金)</p> <p>パネル・アンケート作成 ：7 月 7 日(月)、8 日(火)、24 日(木)、25 日(金)、28 日(月)、30 日(水)、8 月 1 日(金)、4 日(月)、5 日(火)</p> <p>取材依頼：8 月 1 日(金)</p> <p>搬入作業・準備：8 月 4 日(火)</p> <p>撤収作業：8 月 18 日(月)</p> <p>アンケート集計：8 月 18 日(月)、20 日(水)、21 日(木)、22 日(金)、25 日(月)、26 日(火)、9 月 5 日(金)</p> <p>写真展スタンプラリー記念品発送：9 月 17 日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ESD ユネスコ世界会議半年前イベント「あいち・なごや ESD フェスタ 2014」出展等</b> 5 月 11 日(日)ESD フェスタ in 尾張 ブース出展・ステージイベント 5 月 17 日(土)ESD フェスタ in 三河 ブース出展・ステージイベント 6 月 7 日(土)、8 日(日)ESD フェスタ in 名古屋 ブース出展・ステージイベント ※準備・打合せを随時実施。</li> <li>● <b>ESD-J 政策提言ワークショップへの参加</b> 「ESD2014」フォーラムでの協議内容をまとめ、政策提言ワークショップに提供した。ESD2014 の成果の共有するため、6 月 21 日に行われた ESD-J 政策提言ワークショップに参加。報告書などの確認を行った。</li> </ul>
--	---

	<p>6月17日(火)、18日(水)、19日(木)資料作成・準備  6月21日(土) ESD-J 政策提言ワークショップ  6月24日(火)、26日(木)、7月4日(金)、7日(月)、17日(月)、25日(金)  まとめ作業</p> <p>●「ESD 実践モデル全国会議 2014」「ESD の 10 年・地球市民会議 2014」  地球市民村企画との調整:6月16日(月)、17日(火)  資料作成、準備:7月28日(月)、8月4日(月)、12日(火)、19日(火)  「ESD 実践モデル全国会議 2014」、「ESD の 10 年・地球市民会議 2014」への参加:8月20日(水)～8月22日(金)  プレゼンテーション:8月20日(水)、21日(木)、22日(金)  記録作成:8月29日(金)</p> <p>●名古屋市 ESD 施策関連業務等  名古屋市の次年度の ESD 事業についての相談、打合せを実施した。また7月号広報なごやでの市長との対談についての打合せ等を行った。  ESD 施策及び広報ツールの打合せ  :4月3日(木)、4日(金)、30日(水)、5月13日(火)  広報なごや 市長との対談:6月4日(水)  次年度 ESD 事業打合せ:7月25日(金)、11月4日(火)</p> <p>●名古屋市教育委員会施策関連  「環境未来探検隊」についての相談、打合せ、発足式での講演を行った。  「環境未来探検隊」打合せ:6月5日(木)  「環境未来探検隊」発足式講演:7月12日(土)</p> <p>●ESD ユネスコ世界会議関連行事等  10月8日(水)アジア ESD NGO ネットワーク会議  9日(木)10日(金)11日(土)公民館-CLC 会議  11月5日(水)6日(木)7日(金)公式サイドイベント資料作成  6日(木)7日(金)RCE グローバル会議  7日(金)フォローアップ会合資料作成、あいち・なごや ESD 交流フェスタ備品搬入  8日(土)ユネスコスクール世界会議、ESD 交流フェスタ  9日(日)ESD 交流フェスタ  10日(月)ESD ユネスコ世界会議、フォローアップ会合資料作成及び打合せ、愛知県主催レセプション、フォローアップ会合資料作成及び打合せ</p>
--	---

11日(火)ESD ユネスコ世界会議公式イベント、併催セミナー(中部 ESD 拠点・高校生コンソーシアム発表、フェアトレード名古屋ネットワーク)、フォローアップ会合資料作成・打ち合わせ  
12日(水)あいち・なごや ESD 子ども会議閉会会合メッセージ  
13日(木)文科省主催 ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合

●刊行物への原稿作成等

DNP 中部 CSR レポートコメント作成：6月3日(火)  
日刊工業新聞 ESD 原稿作成：6月23日(月)、24日(火)、26日(木)、27日(金)、30日(月)、7月1日(火)、3日(木)、7日(月)、11日(金)、15日(火)  
NHK ESD 番組制作に関する打合せ：7月2日(水)  
名古屋国際センターニュースレター確認作業：7月7日(月)  
ユニー・ホールディングス(株)環境・CSR レポート原稿作成等：8月4日(月)  
GEOC 発行「つな環」対談：8月22日(金)  
原稿加筆修正 9月8日(月)、原稿最終確認 9月16日(火)  
WEB での ESD 広報のための取材：10月21日(火)  
東海ラジオ出演による ESD 広報：10月23日(木)  
朝日新聞原稿確認：10月29日(水)、11月5日(水)  
掲載 11月6日(木)  
NHK ラジオ出演：11月5日(水)  
毎日新聞取材：11月5日(水)  
朝日新聞社掲載：11月12日(水)  
ESD-J ニュースレター原稿作成：3月9日(月)

●ESD リーフレット等資料発送

ESD リーフレット送付依頼を受け、資料発送作業を実施した。  
5月1日(木)、13日(火)、21日(水)、22日(木)、30日(金)、  
6月2日(月)、4日(水)

●東海北陸ユネスコスクール交流会に関する業務(EPO 中部共催)

推薦校相談、リスト作成、参加者の依頼調整をした。東海地域の出席者・参加校調整・案内、参加者リスト作成・送付等作業を実施、出席。

日 時：平成 26 年 8 月 11 日(月)13:30~16:30

場 所：金沢都ホテル 7 階鳳凰の間(東)

主 催：日本ユネスコ国内委員会、金沢大学環境保全センター

共 催：中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)

後 援：ユネスコスクール支援大学間ネットワーク、金沢市教育委員会、大学コ

ンソーシウム石川、ESD-J、ACCU

参加者：東海地域及び北陸地域のユネスコスクール及びユネスコスクール関係者 約 50～60 名

●環境デーなごや：9月13日(土) ステージイベントに出演

●ESD あいち・なごや子ども会議

生物多様性海コースファシリテーターとして参加した。

6月25日(水)こどもESD会議スタッフ打合せ

7月31日(木)第2回エクスカッション打合せ・記録作成

8月4日(月)資料作成

5日(火)アンケート集計・分析

8日(金)第2回エクスカッションプログラム

9月2日(火)打合せ

5日(金)資料作成

7日(日)第3回ESD あいち・なごや子ども会議ワークショップ

8日(月)資料作成

9日(火)打合せ

16日(火)打合せ・資料作成

19日(金)準備、資料作成

21日(日)第4回ESD あいち・なごや子ども会議ワークショップ

22日(月)資料整理・作成

10月16日(木)あいち・なごやESDこども会議ファシリテーター打合せ

23日(木)、24日(金)あいち・なごやESDこども会議準備

25日(土)、26日(日)第5回あいち・なごやESDこども会議

11月1日(土)あいち・なごやESD子ども会議リーダー会議

10日(月)あいち・なごやESD子ども会議

12日(水)ESDユネスコ世界会議閉会会合にてメッセージ

12月2日(火)ESDこども会議ふりかえり会

2月8日(日)Let's エコアクション in AICHI ESD子ども会議フォローアップ

●朝日新聞社主催 ESD フォーラム

フォーラムのコーディネーター出演の依頼を受け、出演者及び企画内容についての打合せ、資料作成、コーディネーターとして参加した。

9月17日(水)企画及び出演者紹介

22日(月)打合せ・シナリオ作成・広報支援・講師交渉、併催イベント企画調整、HP原稿作成、出演者交渉

24日(水)企画打合せ

10月10日(金)朝日新聞社 ESD セミナー出演

	<p>●日本環境教育フォーラム清里ミーティングへの参加</p> <p>11月13日(木)ESD 報告資料作成  14日(金)ESD 報告資料作成・資料発送  15日(土)～17日(月)パネリスト及びワークショップ参加</p> <p>●MSH ダイアログ <b>ダイアログ 3 ESDを地域で実践するために</b>  …仕組みづくりと評価</p> <p>日 時：平成 27 年 1 月 29 日（木） 14:15～16:45  参加者：20 名（出演者 17 名 コーディネーター1 名 スタッフ 2 名）  内 容：昨年 11 月に開催された ESD ユネスコ世界会議では ESD に取り組む世界の人々が国連「ESD の 10 年」の成果の共有と今後について議論を交わした。中部地域においても多様なステークホルダーの ESD の重要性に対する理解度、学校と地域の連携による授業実践が進められている。この成果を踏まえ、ESD 取組を継続、また他地域に展開するために求められる ESD の評価と ESD 推進のための体制づくりについて意見を交わした。</p> <p>1月5日(月)6日(火)8日(木)出演者交渉・出演依頼  7日(水)出演者交渉・出演依頼・コーディネーター打合せ  13日(火)進捗確認表作成・入力  14日(水)出演者交渉・依頼・企画書送付、依頼文書作成・送付  15日(木)出演者打合せ・企画書送付  20日(火)チラシ修正  21日(水)出演者依頼文書作成  26日(月)出演者依頼文書・支払計算書作成・送付  27日(火)出演交渉・依頼、支払計算書準備、備品準備  28日(水)資料作成・支払計算書とりまとめ・出演者連絡  29日(木)開催、資料準備  30日(金)支払計算書提出依頼</p> <p>2月2日(月)支払計算書依頼、音声・写真データ送付依頼  5日(木)MSH ダイアログ 3 報告書作成 13日(金)報告書作成</p> <p>3月17日(火)、19日(木)、20日(金)ダイアログ 3 報告書作成</p> <p>●ESD ユネスコ世界会議報告会</p> <p>1月20日(火)石川県ユネスコ主催 ESD 世界会議等の結果報告会広報  2月5日(木)ESD ユネスコ世界会議報告会(長野・愛知)打合せ  2月9日(月)ESD ユネスコ世界会議報告会広報  2月16日(月)ESD ユネスコ世界会議報告会打合せ  2月20日(金)23日(月)24日(火)25日(水)ESD 世界会議報告会広報・ゲスト調整  3月6日(金)ESD ユネスコ世界会議報告会 in あいち  3月7日(土)ESD ユネスコ世界会議報告会 in 長野</p>
--	---

	<p>● ESD 冊子「ESD BOOKLET」作成  2月2日(月)、3日(火)、5日(木)、19日(木)、27日(金)  3月3日(火)、5日(木)、6日(金)、9日(月)、10日(火)、11日(水)、  12日(木)、13日(金)、16日(月)、17日(火)、18日(水)、19日(木)、  20日(金)、23日(月)</p> <p>● その他  多様な主体と ESD に関する打ち合わせ及び協議等を行った。</p> <p>4月18日(金)ユニー・ホールディングス(株)ESD に関する打合せ  22日(火)世界フェアトレード・デー・なごや 2014 打合せ  24日(木)ユニー(株)ESD 事業打合せ  25日(金)ESD 関連デザイナーとの打合せ、朝日新聞社打合せ</p> <p>5月26日(月)愛知県自治体における ESD 事業調査  27日(火)三重県での ESD 事業についてヒアリング</p> <p>6月2日(月)愛知県における ESD 活動写真提供  13日(金)ESD 教材づくりについての相談・打合せ  25日(水)ESD 事業打合せ(支援実行委員会)  27日(金)名古屋 NGO センター情報交換  30日(月)NPO 法人泉京・垂井との打合せ</p> <p>7月3日(木)名古屋市 ESD 広報ツールの作成  14日(月)名張市立薦原小学校申請書サポート作業  16日(水)、17日(木)、25日(金)、30日(水)、31日(木)  扶桑町図書館に配置する ESD 図書調査作業、一覧作成  18日(金)愛知県国際交流協会打合せ  29日(火)、8月1日(金)ESD 実践事例集応募原稿作成支援</p> <p>9月24日(水)桑を題材にした ESD プログラムについての打合せ</p> <p>10月16日(木)宮田中学校 1 年生訪問</p> <p>11月14日(金)名張市薦原小学校 ESD 研究発表会  20日(木)岡崎市常磐南小学校 ESD 研究会参加  27日(木)ESD 講演資料作成、富山市立堀川小学校 ESD 実践発表会  28日(金)ESD 講演会資料作成</p> <p>12月1日(月)三重大学 ESD ユネスコスクール研修会・シンポジウム広報  4日(木)インタープリター養成講座次年度企画概要打合せ  6日(土)三重大学ユネスコスクール研修会/シンポジウム 2014  9日(火)ESD ユネスコ世界会議報告会 IN 岐阜の準備  13日(土)ESD ユネスコ世界会議報告会 IN 岐阜  19日(金)インタープリター養成講座打合せ</p> <p>1月8日(木)ESD 全国学び合いフォーラムポスターセッション参加者交渉・依頼・  事務局連絡</p>
--	--

	<p>19日(月)ESD・ユネスコスクール出前講師派遣仕組みづくり検討会議 (主催：MEXT、ACCU)出席</p> <p>25日(日)富山県 ESD シンポジウム</p> <p>2月10日(火)愛知県立豊田東高等学校「総合発表会」参加</p> <p>21日(土)北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会</p> <p>3月9日(月)、12日(木)愛知教育大学エコプロ外部評価作成</p>
協働パートナー	中部 ESD 拠点、なごや環境大学、愛知県総合教育センター、NPO/NGO、自治体、企業、高等教育機関他
評価指標・方法	<p>指標：認知度理解度、実践取組の拡大など</p> <p>方法：協働主体やステークホルダー、対象者へのアンケート等</p>
<b>成果・評価</b>	<p>今年度は ESD ユネスコ世界会議が開催されることもあり、また 10 年のキャンペーンの総括を EPO 中部としても行う必要があったことから、多様な主体と協働で、多様な ESD 事業を展開した。</p> <p>中部 ESD 拠点、なごや環境大学、あいち・なごや支援実行委員会、ESD-J 他、それぞれの主体が「必要だ」としているコンセプトを共有して、EPO 中部が培った 10 年の情報、ノウハウ、ネットワークを提供してきた。</p> <p>写真展についても、アフリカと ESD の融合により新たな価値を多くの人に伝えることができた。</p> <p>新聞掲載やラジオ出演、イベント出展や、セミナー・パネリスト出演等の機会を重要なチャンスと捉え、中部地域の ESD 活動を PR した。</p> <p>学校、地域、企業からも ESD 研修や相談を多数受け、ESD の大切さを伝え、より多くのステークホルダーを巻き込んでいくことができた。また、世界会議に向け、それぞれのステークホルダーと連携を強化し、また多様なステークホルダー間をつなぎ、今後 ESD 実践が地域で促進されるようしくみづくりについても議論、提案し、しくみづくり、施策づくりへと検討を進めてきた。</p> <p>マルチステークホルダーダイアログでは、中部 7 県で ESD に取り組む方々を出演者に迎え、ESD 取組を継続し、拡大するために必要な地域の仕組みと評価についてを協議した。多岐にわたり、また深い議論を重ねたが、「学校での学びを地域に伝え、地域の思いを学校に伝えるか」のその伝え合う仕組みづくりが重要であることを共有し、今後いかに進めるかを検討した。</p> <p>「ESD BOOKLET」を作成し、世界会議の報告及び EPO 中部の 10 年の歩み、今後すべきことをまとめた。今後活用して ESD 推進に取り組む。</p>

**(ウ)平成 26 年度 ESD ユネスコ世界会議関連フォーラムの開催**

c 平成 26 年度 ESD ユネスコ世界会議関連フォーラムの開催	
目的	世界会議が開催される直前にさらなる盛り上げを図るため、特に今まで十分な啓発を行えていなかった企業における ESD 活動についての情報交換等の場等を設ける。
事業概要	(ア)ESD フォーラム(企業対象)

(予定)	(イ)ESD ユネスコ世界会議併催セミナー・併催イベント
事業内容	<p>会議の運営等は中部地方環境事務所が別途契約した「平成 26 年度 ESD ユネスコ世界会議関連フォーラム運営等業務」によって行われるため、同業務請負団体と協働で、次の事業を行った。</p> <p><b>(ア)ESD フォーラム(企業対象)</b></p> <p>2005 年にスタートした国連持続可能な開発の教育のための 10 年が今年度で終了する。そして、ESD ユネスコ世界会議が開かれ、その成果の共有がなされる ESD ユネスコ世界会議の開催を前に、企業が「ESD」をどのように捉え、どう実践してきたか、また今後どのように実践しようとしているのか、など持続可能な経済、社会を担うべき企業との対話を行った。、市民や NPO は、消費者、消費する側、生活者として、ESD に取り組む企業をどう支えるか、企業が ESD に取り組みやすい環境をどうつくるのか、企業、行政、NPO、学識者等ステークホルダーで、本地域の「ESD の価値をもつグローバルな人材をどう育むか」についての協議を行った。本事業は、名古屋商工会議所と協働で実施した。</p> <p>●事業名：ESD フォーラム 2014～企業の環境教育から ESD へ～</p> <p>日 時：10 月 30 日(木)14:00～17:00</p> <p>場 所：名古屋商工会議所</p> <p>参加者：105 名</p> <p>内 容：ESD 円卓会議「企業の環境教育から ESD へ」</p> <p>【コーディネーター】川嶋 直 氏 ((公社)日本環境教育フォーラム理事長)</p> <p>【話題提供者】 笹谷 秀光氏(株式会社伊藤園常務執行役員 CSR 推進部長)</p> <p>鳥原 久資 氏(株式会社マルワ 代表取締役)</p> <p>百瀬 則子 氏(ユニグループ・ホールディングス株式会社 執行役員・グループ環境社会貢献部長)</p> <p>山田 厚志 氏(株式会社山田組 代表取締役)</p> <p>[主な業務]</p> <p>10 月 2 日(木)3 日(金)6 日(月)14 日(火)</p> <p>          ゲスト調整・企画書つめ作業</p> <p>          9 日(木)チラシ作成・資料作成・ゲスト調整</p> <p>          14 日(火)シナリオ作成・コーディネーターとの打合せ・</p> <p>          17 日(金)出演者打合せ</p> <p>          20 日(月)ゲスト及びコーディネーターとの打合せ</p> <p>          23 日(木)資料作成・準備・併催イベントに関する連絡・調整支援・・広報</p> <p>          24 日(金)出演者連絡</p> <p>          27 日(月)出演者打合せ・資料作成・コーディネーターとの打合せ等準備</p> <p>          28 日(火)準備・参加者受付・取材依頼、併催イベントに関する連絡・調整</p>

29日(水)準備・参加受付・名簿作成・資料・備品準備・取材依頼

30日(木)開催・設営・準備・NHK取材対応

31日(金)アンケート集計・議事録作成

11月6日(木)参加者へ当日資料送付

19日(水)ESDフォーラム(企業対象)アンケート修正、関係者に送付、報告書作成

27日(木)報告書作成

●企業対象 ESD フォーラム報告書作成

12月17日(水)、18日(木)、19日(金)、22日(月)、24日(水)、  
26日(金)

1月5日(月)、6日(火)、7日(水)、8日(木)、9日(金)、13日(火)、  
19日(月)、20日(火)、21日(水)

**(イ)ESD ユネスコ世界会議併催セミナー・併催イベント**

ESD ユネスコ世界会議の併催事業として、学校と地域が連携をした ESD 実践を進めるための方策を検討する「校長先生サミット」と、ESD のコアとなる「自己肯定感」の育みについて考えるセッションの2本を、同時開催した。

●事業名：みんなの ESD 会議～この 10 年の活かしがた～

日時：11月12日(水)11:30～13:00

場所：名古屋国際会議場 レセプション B

参加者：109名

内容：

①校長先生サミット～地域と学校が ESD の現場をつくる

学校の経営方針に ESD を掲げて、ESD カレンダー等を作成し、学校全体で ESD に取り組んでいる、取り組もうとしている学校の校長先生をゲストに迎え、各学校の ESD 取組の特徴やスキームについて伺った。地域とどのように連携をして授業づくりをしているのかなどのお話を聞き、今後学校と地域が連携・融合して、ESD 取組を継続するためのスキームについて意見を交わした。

【出演者】

伴 浩人 氏(愛知県東浦町立緒川小学校校長)

谷戸 実 氏(三重県名張市立薦原小学校校長)

高木要志男 氏(富山県富山市立堀川小学校校長)

前 義隆 氏(福井県坂井市立鳴鹿小学校校長)

【コメンテーター】

池端弘久 氏

(金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山少年自然の家館長/元校長)

阿部義澄氏(愛媛県新居浜市教育委員会教育長)

鈴木克徳 氏(金沢大学教授/EPO 中部運営委員)

### ②自己肯定感を育む ESD～これからの教育への提案

持続可能な社会をつくるためには、「私には未来をつくる力がある」と、自己の存在、自分を大切にできる自己肯定感の育みが必須となる。愛知県内の教育 NPO/NGO が 2 年間議論を重ね、家庭、学校、地域などあらゆる教育の場に、自己肯定感の育みが取り入れられるための提案書を作成した。提案を紹介しつつ、今後私たちが起こすべきアクションについて意見を交わした。

#### 【出演者】

大塚 明 氏(伊豆市教育委員会心の教室相談員)

前野伸夫 氏(前校長)

青野桐子 氏(NPO 法人こども NPO 事務局長)

伊沢令子 氏(NPO 法人 NIED/国際理解教育センター代表理事)

山内貴弘 氏(岡崎市教育委員会指導主事)

白上昌子 氏(NPO 法人アスクネット代表理事)

滝 栄一 氏(NPO 法人名古屋 NGO センター)

川合眞二 氏(NPO 法人 NIED・国際理解教育センター事務局長)

### ③パネル展示、ブース出展

平成 26 年 11 月 10 日(月) ウェスティンナゴヤキャッスル

日本政府レセプション会場にてパネル(計 3 枚英訳含)を展示。

平成 26 年 11 月 10 日(月)～12 日(水) 国際会議場 展示会場

パネル(計 3 枚英訳有)を ESD 関連資料等と展示。

平成 26 年 11 月 10 日(月)～12 日(水)

併催イベント展示ブースにて活動紹介

#### [主な業務]

10 月 7 日(火)ゲスト調整・企画書つめ作業

8 日(水)ESD ユネスコ世界会議説明会参加

9 日(木)チラシ作成・企画書仕上げ・ゲスト調整・配布資料作成・パネル作成

10 日(金)ESD ユネスコ世界会議説明会参加、併催セミナーチラシ作成・企画書仕上げ・ゲスト調整・配布資料作成・パネル作成

14 日(火)チラシ作成・企画書仕上げ・ゲスト調整・配布資料作成・パネル作成・チラシ・冊子・パネル印刷会社打合せ・提案書作成のための執筆者調整・依頼、併催イベントステージ企画・出演者調整

15 日(水)チラシ作成・企画書仕上げ・ゲスト調整・配布資料作成・パネル作成・提案書・チラシ・パネル英訳のための作業

16 日(木)併催セミナーに関する連絡・出演者チラシ原稿確認依頼・原稿

	<p>修正・出演者との打合せ、提案書執筆者との打合せ、英訳のための作業</p> <p>17 日(金)チラシ・資料作成・併催イベントに関する調整・企画書仕上げ・ゲスト調整・パネル作成・提案書執筆者との打合せ・英訳作業</p> <p>20 日(月)打合せ・提案書作成作業・パネル・チラシ・冊子原稿作成・併催イベントに関する調整・登録作業</p> <p>21 日(火)併催イベントに関する調整・広報依頼、併催セミナーチラシ作成・企画書仕上げ・ゲスト調整・資料作成・パネル作成・提案書作成のための執筆者との調整</p> <p>22 日(水)ゲストとの調整・チラシ作成・提案書作成・英訳のための打合せ</p> <p>23 日(木)企画調整会議・チラシ作成・企画書仕上げ・パネル作成・提案書作成・英訳のための作業</p> <p>24 日(金)チラシ・パネル原稿の作成・英訳のための調整作業・併催イベントに関する調整・登録作業</p> <p>27 日(月)パネル作成作業、併催セミナー出演者依頼文書作成・提案書執筆者との打合せ、併催イベントに関する調整・登録作業・展示物・提案書の作成・英訳作業</p> <p>28 日(火)パネル作成、英訳調整</p> <p>29 日(水)併催イベントに関する調整、公式サイドイベント参加手続き作業、資料作業及び打合せ、英訳者との調整</p> <p>30 日(木)チラシ作成・企画書仕上げ・ゲスト調整・配布資料作成・パネル作成・英訳作業</p> <p>31 日(金)併催イベントに関する調整・登録作業、併催セミナー企画書修正・送付・参加者募集・ゲスト調整・冊子・パネル製作・英訳作業</p> <p>11 月 4 日(火) 5 日(水)資料作成・出演者との打合せ・提案書作成・英訳調整・参加者手続き支援、併催イベントに関する調整・登録作業、展示パネル原稿修正</p> <p>6 日(木)提案書作成・併催セミナー資料作成</p> <p>9 日(日)ウェスティンナゴヤキャッスル及び国際会議場荷物搬入、日本政府レセプションパネル展展示</p> <p>10 日(月)併催イベントパネル展示、屋外テント出展、併催セミナー資料準備</p> <p>11 日(火)併催セミナー資料準備、出演者確認、資料作成、スタッフ打合せ、パネル展示・資料補充・問合せ対応等、屋外テント出展</p> <p>12 日(水)併催セミナー開催、展示、屋外テント出展、パネル・資料など搬出</p> <p>14 日(金)報告書作成、謝金支払等庶務、併催セミナーアンケート集計</p>
--	--

	<p>17 日(月)併催セミナー出演者支払等に関する連絡、併催セミナー報告書作成</p> <p>19 日(水)アンケート修正、提案書関係者に送付、セミナー出演者にお礼メール、出演者支払について連絡・文書作成</p> <p>20 日(木)併催セミナーアンケート送付</p> <p>25 日(火)報告書作成、併催セミナー報告書作成、出演者支払書類作成・送付</p> <p>26 日(水)出演者アンケート送付、報告書作成</p> <p>27 日(木)28 日(金)報告書作成</p> <p>12 月 1 日(月)併催セミナーテープ起こし</p> <p>2 日(火)併催セミナー出演者支払書類作成、報告書作成</p> <p>3 日(水)併催セミナー出演者支払書類作成、報告書作成</p> <p>4 日(木)併催セミナー出演者支払書類作成、報告書作成</p> <p>5 日(金) 9 日(火) 10 日(水) 12 日(金) 25 日(木) 26 日(金)報告書作成</p> <p>26 日(金)報告書作成作業、確認依頼</p> <p>● 報告書作成</p> <p>1 月 5 日(月)、6 日(火)、7 日(水)、8 日(木)、9 日(金)、13 日(火)、19 日(月)、20 日(火)、21 日(水)</p>
協働パートナー	<p>名古屋商工会議所、金沢大学環境保全センター、東浦町緒川小学校、名張市立薦原小学校、富山市立堀川小学校、坂井市立鳴鹿小学校、新居浜市教育委員会、キゴ山少年自然の家、伊豆市教育委員会、NPO 法人こども NPO、NPO 法人 NIED/国際理解教育センター、NPO 法人アスクネット、NPO 法人なごや NGO センター、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会、日本環境教育フォーラム、(株)伊藤園、(株)マルワ、ユニグループ・ホールディングス(株)、(株)山田組</p>
評価指標・方法	参加者アンケートによる評価
成果・評価	<p><b>企業を対象にした ESD フォーラム、学校関係者をメイン対象にしたフォーラム、あらゆる主体を対象にしたフォーラム、そして一般の方に ESD にふれていただくためのパネル展示及び資料配布を行った。セミナーは合計 214 名、展示に関しては持ちこんだ資料が全てなくなりました。</b></p> <p><b>企業を対象とした ESD フォーラムでの成果は名古屋商工会議所との協働企画、運営により、定員を超える 105 名の参加者が得られた。アンケートでは 95%がとてもよかった（よかったを含める）と回答を得た。今まで十分な啓発を行えていなかった企業を対象に行い、新しい動きの可能性を見出すことができた。</b></p> <p>学校教育における情報交換の場については、ユネスコ世界会議併催セミナーで、「校長先生サミット」、「自己肯定感を育む ESD」の 2 つのセッションを行っ</p>

	<p>た。109名の参加者が得られ、参加者を対象のアンケートでは97%がとてもよかった（よかったを含める）との回答を得た。</p> <p>対象は異なるが、中部地域でのESDの10年キャンペーンの成果と課題や地域のニーズを共有することができた。ESDの大切さに気付いた企業、学校、地域の人々がESDに取り組む際にいかにサポートできるのか、協働をキーワードとしていかにつないでいくかといった課題に対し戦略的なアプローチを検討することが必要である。</p>
--	---

(エ)平成26年度「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」後に開催するフォローアップ会合における調査業務等(中部)※別契約

d 平成26年度「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」後に開催するフォローアップ会合における調査業務等(中部)	
目的	ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合に参加し、これまでの事業の中で実践してきた取組や知見等を広く情報発信するとともに、国内におけるESDの推進の方向性に向けて、関係者間でどのような連携を図っていくか、また、今後の事業活動等にどのように活かしていくかを目的とした意見交換や聞き取りによる調査等を行う。
事業概要	<p>フォローアップ会合のセッション3(ESDの今後の取組を語る～分科会～)において、これまでEPO中部が実施してきたESD取組の成果や課題をインプットし、今後どのような活動を展開するか、他の参加者の意見等を収集する。</p> <p>●ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合 日 時：平成26年11月13日(木)10:00～17:00 場 所：名古屋国際会議場(白鳥ホールほか) 主催：文部科学省 共催：外務省、環境省 企画運営：特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J) 参加費：無料(事前申込制)</p> <p>●セッション3「ESDの今後の取組を語る②」13:30～15:30</p> <p>ESD推進に必要な6つのテーマで分科会を設定し、セッションⅠ・Ⅱの情報も踏まえて、今後の日本でESDを進める上で、何が課題であり、課題を解決し、ESDをどう進めるべきかを議論し、提案や引き続き検討すべき課題を整理する。</p> <p>分科会1)学校におけるESD推進 分科会2)地域社会におけるESD推進 分科会3)ユース・エンパワメント 分科会4)ESDの担い手育成 分科会5)ESD実践や教材、支援策の情報共有 分科会6)関係者間ESD推進ネットワーク</p>
事業内容	6つの分科会より、参加スタッフの担当業務のテーマの分科会に入り、経験や情報

	<p>をインプット、グループワークにて意見交換を行った。</p> <p>【分科会 1】学校における ESD 推進 山口奈緒 馬場恭子  【分科会 2-1】地域社会における ESD 推進 高橋美穂  【分科会 3】ユース・エンパワメント 田中耕平 水野陽介  【分科会全体】全体 新海洋子</p> <p>●報告書作成  : 12月2日(火)、3日(水)、4日(木)、5日(金)、8日(月)、9日(火)、  15日(月)、16日(火)、24日(水)、25日(木)、26日(金)  1月5日(月)、6日(火)</p> <p>●報告書提出 1月7日(水)</p>
協働パートナー	分科会 1・2・3 のファシリテーター及び参加者
評価指標・方法	参加スタッフによる評価
<b>成果・評価</b>	<b>6月に開催した ESD フォーラムでの成果や、通常業務からのスタッフの経験からの得た成果や課題、地域のニーズやシーズをインプットするとともに、全国より集まった多様なステークホルダーと課題や成果を共有し、今後の ESD 実践の方向性について議論した。</b>

## オ 外部資金等による協働取組事業

### (ア)中・西日本地域における特定地域協議会支援(継続)

a 中・西日本地域における特定地域協議会支援(継続)	
目的	カーボン・オフセットの仕組みを地域に普及させ、地域の低炭素化を促進する。
事業概要 (予定)	カーボン・オフセットについて広く普及啓発を行い、自治体、民間企業、NPO 等の緩やかなネットワーク形成を支援する。メールマガジンの発行、HP による情報提供を行う。
事業内容	<p>C-CONET 事務局会議を行い、今年度の事業内容についての協議を行った。また、北陸地域の地域協議会議立ち上げに関する相談に対応した。アドバイザーボード会議実施のための打ち合わせや実施、12月の市民を対象のカーボン・オフセット EXPO 開催のための打ち合わせ、準備、実施、2月の企業を対象にしたカーボン・オフセットイベント開催のための打ち合わせ、実施や、広報のためのリーフレット作成作業を支援した。</p> <p>●市民向けイベントコンテンツ企画調整業務イベント  <b>ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO</b>  「Winter day-あたたかな 1 日に-未来をおもい、今をつくるよ」  日 時：平成 26 年 12 月 19 日(金)13:00～17:00  場 所：ナディアパーク アトリウム  来場者数：178 名(関係者 約 15 名を含む)  内 容：カーボン・オフセット制度の一般市民への普及・啓発と、カーボン・オフセット、地産地消等による環境負荷低減を目的とした商品・作品の展示・サン</p>

ブル配布による一般市民への周知を行った。

#### プログラム

##### [メインステージ]

- ①間伐材楽器「カホン」のコンサート(ザ・ヒノキーズ、越俣裕規氏)
- ②よみきかせ「すーはあーのおはなし」(早川敦子氏)
- ③展示品・ヒノキオイルハンドマッサージの紹介(松本イズミ氏)
- ④お天気からみた地球温暖化のお話(虫鹿里佳氏)
- ⑤南陽高校によるカーボン・オフセット商品紹介等

##### [ワークショップ]

- ①間伐材ワークショップ
- ②ヒノキオイルハンドマッサージ

##### [展示スペース]

- ①カーボン・オフセット商品の展示
- ②「すーはあーのおはなし」パネル展示
- ③コープの森づくりパネル 展示
- ④カーボン・オフセット商品「バラ」と「リッゴ」展示&プレゼント(100名程度)

#### ●企業向け企画 ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO

～子どもと地域により良い未来を～

日 時：平成 27 年 2 月 24 日（火） 13:00～17:00

場 所：ナディアパーク 3F デザインホール

来場者：170 名

内 容：政府の温暖化対策における最新情報についての紹介や、中部地域における J-VER クレジットの創出に取り組む団体、カーボン・オフセットに取り組む事業者による展示及び PR を行った。なお今年度はペルー・リマで開催した国連の気候変動枠組み条約締約国会議（COP20）の動向なども踏まえ、最新の気候変動に関する情報提供や、国際動向、次年度予定されている補助制度などのセミナーを開催した。

#### プログラム

- ・基調講演“気候変動の最新動向”
- ・温暖化に関する国際動向、次年度予定する補助制度
- ・カーボン・オフセットについて 環境貢献プラットフォーム EVI とは？
- ・出展ブース PR タイム！
- ・環境ビジネス最前線
- ・中部カーボン・オフセット大賞受賞式

#### [主な業務]

7 月 15 日(火)事務局会議

8 月 18 日(月)中・西日本地域における特定地域協議会申請書作成支援

	<p>10月6日(月)事務局会議  10日(金)事務局会議・業務分担確認  14日(火)20日(月)2014年度C-CONET運営支援業務及び市民向けイベントコンテンツ企画調整業務見積書作成・送付  24日(金)第1回アドバイザリーボード会議出席  29日(水)事務局会議  31日(金)事務局会議  11月4日(火)出演者調整  19日(水)イベント打ち合せ  25日(火)打合せ、連絡調整</p> <p>●市民向けイベントコンテンツ企画調整業務資料作成・展示及び出展者打合せ、シナリオ作成、チラシ作成、準備  : 12月1日(月)、2日(火)、3日(水)、4日(木)、5日(金)、8日(月)、9日(火)、10日(水)、11日(木)、12日(金)、15日(月)、16日(火)、17日(水)、18日(木)</p> <p>●市民向けイベントコンテンツ企画調整業務報告書作成  : 12月24日(水)、25日(木)、26日(金)  1月7日(水)</p> <p>1月14日(水)C-CONET定例会議議事録作成  15日(木)2014年度C-CONET運営支援業務打合せテーブル起こし  16日(金)C-CONET定例会議議事録修正  22日(木)C-CONET定例会議議事録送付</p> <p>2月9日(月)ちゅうぶカーボン・オフセット大賞審査会  10日(火)企業向けイベント「ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO」連絡調整  18日(水)企業向けイベント「ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO」打合せ  20日(金)「ちゅうぶカーボン・オフセットEXPO」取材依頼文書作成  北陸地区カーボン・オフセットセミナー&amp;交流会</p>
協働パートナー	中部カーボン・オフセット推進協議会
評価指標・方法	指標：推進協議会ネットワーク加入者数、カーボン・オフセット認知度理解度 方法：セミナー、イベントの際のアンケートや協働主体へのヒアリング
<b>成果・評価</b>	<p>今年度は普及啓発事業を、BtoCとBtoBの2企画行い、前者は分かりやすくカーボン・オフセット及びオフセット商品の理解促進、後者は事業者間のマッチングを可能にする内容としている。BtoCの企画では、幅広い層にアピールできるプログラムとした。また中部カーボン・オフセット大賞授賞式も実施し、中部地域でカーボン・オフセットに貢献した先進的な取り組みをしている15の企業・団体を表彰した。アドバイザリーボード会議では本地域及び今年発足した北陸地区での協議会と連携しながら、中部地域での普及啓発のための提案だしを行った。</p> <p>中部地域においてカーボン・オフセットの仕組みの重要性のPRはできたが、まだ</p>

	まだ定着、浸透には至らない。今後北陸地域と連携しつつ、情報やノウハウを共有しながら、特徴のある仕組みづくりを目指す。
--	--

(イ)平成 26 年度愛知県環境学習コーディネート業務支援(継続)

b 平成 26 年度愛知県環境学習コーディネート業務支援(継続)	
目的	学校と地域のマッチングによる環境学習を充実させる。 学校と地域の連携による「環境学習コーディネート事業」の有効性を検証する。
事業概要	学校等の環境学習に対する問合せ、相談への対応及び、授業づくり・実施のためのコーディネートの支援を行う。
事業内容	<p>相談内容に応じて資料及び情報収集、それに基づく提案書作成、講師との調整、学校との打合せ支援を行った。</p> <p>相談業務 16 件 コーディネート業務 21 件 (4~6月 1 件 7~9月 6 件 10~12月 11 件 1~3月 3 件)</p> <p>[主な業務]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●協働評価シート作成支援：4 月 14 日(月)</li> <li>●書類・フォーマット作成支援：4 月 23 日(水)、28 日(月)、30 日(水)</li> <li>●進捗表・講師候補リスト作成支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>5 月 1 日(木)、13 日(火)、14 日(水)、21 日(水)、22 日(木)、23 日(金)、26 日(月)、27 日(火)、28 日(水)、29 日(木)</li> <li>6 月 16 日(月)、18 日(水)、20 日(金)</li> <li>7 月 29 日(火)、30 日(水)</li> <li>8 月 5 日(火)、12 日(火)、19 日(火)、20 日(水)、25 日(月)、27 日(水)、9 月 2 日(火)、3 日(水)、5 日(金)、9 日(火)、10 日(水)、11 日(木)、17 日(水)、18 日(木)、24 日(水)、25 日(木)</li> <li>10 月 3 日(金)、9 日(木)、10 日(金)、14 日(火)、16 日(木)、22 日(水)、23 日(木)、28 日(火)</li> <li>11 月 4 日(火)、5 日(水)、7 日(金)、14 日(金)、20 日(木)、21 日(金)</li> <li>12 月 3 日(水)、4 日(木)、5 日(金)、11 日(木)、12 日(金)、16 日(火)、17 日(水)、22 日(月)</li> <li>1 月 6 日(火)、8 日(木)、14 日(水)、20 日(火)</li> <li>2 月 3 日(火)、4 日(水)、6 日(金)、10 日(火)</li> <li>3 月 18 日(水)、19 日(木)</li> </ul> </li> <li>●環境学習施設調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>5 月 30 日(金)</li> </ul> </li> </ul>
協働パートナー	愛知県環境部、受託団体他
評価指標・方	指標：相談件数、コーディネート件数、実施した授業の質向上、他自治体への提

法	案等 方法：相談者、実施者、受益者へのアンケート、協働主体の評価
成果・評価	今年度は相談件数 16 件、コーディネート件数 21 件であった。一宮市や大府市からの依頼もあり、本事業の利活用が高いことを把握した。また、学校の環境教育・学習を実施できる講師の紹介、授業づくりに対する相談のニーズが高いことも把握した。また、今年度は本事業の PR を強化したため、新規の依頼が多く、またリピーターからの依頼も多かった。本事業に対して依頼者からは 100%、講師からは 97%が満足（大満足を含む）との評価を得て、コーディネーターが地域に求められていることが把握できた。今後は学校と地域の連携による質の高い実践、それを可能にするための地域資源の発掘と情報の蓄積、ネットワークの拡充、コーディネーターのスキルアップ、ネットワークを拡充するなどマッチング機能を強化である。本事業が地域で継続し、より良い環境教育が実践されるよう EPO 中部は伴走、支援を行う。

(ウ)政策形成事業「生物多様性の保全による都市部の緑化推進—地域性苗木の広域展開—」支援  
(継続)

c「生物多様性の保全による都市部の緑化推進—地域性苗木の広域展開—」	
目的	地域に自生していた郷土種を利用した植生回復を、多様な主体の協働で行う。
事業概要 (予定)	名古屋市内の公園等で NPO 等が採取した郷土種の種や枝を、育成技術を有する企業が育て、協働で植樹を行う。EPO 中部は資金調達、企業連携、広域展開、事務局運営支援等を行う。
事業内容	本協議会は、今年度で事業を終了する。今年度の事業は、①現在 NEXCO 中日本で保管している地域性苗木の植樹地を探すこと、②すでに植樹した地域性苗木のモニタリング、③この間の活動をまとめた報告書の作成、である。第 1 回協議会では、今年度の事業内容とスケジュールの確認を行った。他、会議開催のための資料準備、会議後の議事録の作成作業を行い、協議会委員に共有のため送付・修正依頼等の作業を行った。昨年度の報告書を 7 月に完成させるために、報告書の目次、執筆分担リストを作成、各執筆者より送付された原稿を集約し、報告書にまとめる編集作業、連絡・調整作業を行った。地域性苗木の植樹地及び配布先調査・問合せ対応、そのためのチラシ作成など周知作業を行った。 また、5 年間の活動のまとめとなるパンフレットの作成や、残っている苗木の植樹先の営業、ユニー(株)での苗木配布イベントの企画案の作成、資料準備や議事録作成等を担った。パンフレットに関しては、座談会を実施し、その内容を掲載することとし、協議会メンバーの取材日程の調整、取材等、作成を進めた。また、新たな地域性苗木の植樹先に関する打合せを行った。協議会、座談会の実施に向けての準備、資料作成、連絡調整等の業務を行った。パンフレットの構成、原稿作成を行った。12 月に川名公園での植樹を実施し、1 月にアピタ千代田橋店、2 月中部気候変動セミナーにおいて、地域性苗木とプレゼンテーションと配布を実施した。

	<p>大名古屋ビルヂングでの植樹が平成 27 年 10 月頃となり、造園業者との打合せをした。NEXCO 中日本で保管していた苗木をすべて戸田川緑地に移動させ、植樹分、捕植分併せてすべての苗木の配布先が決定した。</p> <p><b>【主な業務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第 1 回協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>日 時：平成 26 年 4 月 15 日(火)10:30～12:00</li> <li>場 所：EPO 中部</li> <li>参加者：13 名</li> </ul> </li> <li>● 第 2 回協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>日 時：平成 26 年 7 月 22 日(火) 10:30～12:00</li> <li>場 所：EPO 中部</li> <li>参加者：13 名</li> </ul> </li> <li>● 第 3 回協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>日 時：平成 26 年 3 月 20 日(金) 10:30～11:30</li> <li>場 所 EPO 中部</li> <li>参加者 12 名</li> </ul> </li> <li>● 協議会議事録作成：8 月 23 日(水)</li> <li>● 協議会開催・資料準備：9 月 1 日(月)、2 日(火)5 日(金)、22 日(火)</li> <li>● 前年度報告書作成・編集・修正作業 <ul style="list-style-type: none"> <li>：7 月 11 日(金)、14 日(月)、15 日(火)、16 日(水)、17 日(木)、18 日(金)、25 日(金)、28 日(月)、29 日(火)、8 月 1 日(金)11 日(金)、15 日(火)</li> </ul> </li> <li>● パンフレット作成関連業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>企画案作成、事務作業、デザイン打合せ、ヒアリング日程調整 <ul style="list-style-type: none"> <li>：8 月 1 日(金)、19 日(火)、25 日(月)</li> </ul> </li> <li>報告書印刷会社入稿・看板作成における打合せ・ヒアリング日程調整 <ul style="list-style-type: none"> <li>：8 月 12 日(火)</li> </ul> </li> <li>パンフレット作成のためのヒアリング(NEXCO 中日本・なごやの森づくりパートナーシップ連絡会) <ul style="list-style-type: none"> <li>：8 月 27 日(水)</li> </ul> </li> <li>パンフレット作成のためのヒアリング(名古屋市、名古屋市みどりの協会) <ul style="list-style-type: none"> <li>：9 月 8 日(月)</li> </ul> </li> <li>パンフレット原稿作成、デザイン検討、デザイナー打合せ、印刷屋との打合せ、校正、原稿確認作業など <ul style="list-style-type: none"> <li>：10 月 2 日(木)、6 日(月)、9 日(木)、14 日(火)、20 日(月)</li> <li>11 月 19 日(水)、20 日(木)、25 日(火)、26 日(水)、27 日(木)、28 日(金)</li> <li>12 月 1 日(月)、2 日(火)、3 日(水)、4 日(木)、9 日(火)、10 日(水)、</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
--	--

	<p>16日(火)、17日(水)、18日(木)、19日(金)、22日(月)、25日(木)、26日(金)</p> <p>1月5日(月)、6日(火)、7日(水)、9日(金)、15日(木)、20日(火)、26日(月)</p> <p>2月12日(木)、16日(月)、19日(月)、21日(水)</p> <p>●植樹のための準備</p> <p>8月11日(月)地域性苗木植樹看板の見積もり及び内容確認</p> <p>9日(火)地域性苗木植樹先に関する打合せ(三菱地所株式会社、名古屋市住宅都市局さしまライブ24 総合整備事務所)</p> <p>●川名公園植樹：12月6日(土)</p> <p>●苗木配布イベント関連業務</p> <p>12月1日(月)、4日(木)、9日(火)、12日(金)、15日(月)、19日(金)</p> <p>1月8日(木)、9日(金)、13日(火)、20日(火)、27日(火)、28日(水)、29日(木)、30日(金)</p> <p>2月2日(月)、3日(火)、4日(水)、6日(金)、12日(木)</p> <p>●苗木配布イベント</p> <p>1月31日(土)アピタ千代田橋店での配布イベント</p> <p>2月14日(土)中部気候変動セミナーin名古屋での地域性苗木配布</p> <p>●他</p> <p>ズミの苗木希望連絡：10月7日(火)</p> <p>ESD ユネスコ世界会議パネル展示：11月10日(月)～12日(水)</p>
協働パートナー	郷土種子を活用したなごやの緑化及び生物多様性保全推進協議会
評価指標・方法	<p>指標：事業運営における協働体制、役割分担、事業進捗等</p> <p>方法：関係者へのヒアリング</p>
成果・評価	<p>2009年にスタートした活動を本年度で終了する。これまでの活動をまとめ、地域性苗木を周知するためのツールとなるパンフレットを発行した。作成にあたり、協議会メンバーにヒアリング、座談会を実施し、協働で事業展開した価値や可能性を見出すことができた。</p> <p>育成した2000本の苗木はすべて植樹先が決まった。本年度は名古屋市の川名公園で植樹を行い、また、アピタ千代田橋店や中部気候変動セミナーにおいては一般の方を対象に交流を図る地域性苗木の配布イベントが実施し、本事業及び、地域性苗木を参加者に伝え、制作したパンフレットとともに苗木配布し、周知した。商業施設の緑化に地域性苗木が使われることが決まり、地域での郷土種を利用した緑化と地域性苗木を周知していくの可能性が広がった。植樹後のモニタリングなどによる評価・検証を植樹地の環境NPOが担っていく。</p>

(工)独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金事業業務連携事業

d 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金事業業務連携事業	
目的	独立行政法人環境再生保全機構の運営する地球環境基金と EPO 中部が相互に連携、協力して実施することで、中部 7 県の環境保全活動及び協働取組を推進する
事業概要 (予定)	主に独立行政法人環境再生保全機構の運営する地球環境基金等を支援する。 ①地球環境基金の助成金要望に関する情報交換、相談、助言 ②地球環境基金の助成金に関する説明会開催による地域の団体の資金調達の支援 ③地球環境基金の助成対象団体による自己評価の支援 ④EPO 業務における相談、情報提供業務
事業内容	<p>今年度当初は契約内容の調整ができず、地方事務所を交え、独立行政法人環境再生保全機構と協定書の内容の検討に時間を要した。また、昨年度の地球環境基金説明会出席者名簿等資料等を作成し、情報共有した。9 月には今後の EPO 事業との関連を検討するための情報交換の場に出席した。今年度の地球環境基金の応募の締め切りが 1 月 14 日になり、12 月中頃までに説明会を実施するよう依頼が入り、12 月 13 日(土)に岐阜にて開催することとなった。チラシの作成、NPO 法人ぎふ NPO センターの協力をえて、岐阜県の NPO への広報、当日の企画づくりを行った、同日開催で、岐阜県の ESD 事業についての説明会、ESD ユネスコ会議の報告会を行うこととした。</p> <p>●地球環境基金助成説明会 in 岐阜</p> <p>※ESD 世界会議&amp;ESD 人材育成事業報告会同日開催</p> <p>日 時：12 月 13 日(土)13:00～16:30</p> <p>場 所：ふれあい福寿会館 401</p> <p>参加者：16 名</p> <p>内 容：地球環境基金の特徴や申請のポイントについての説明の他、参加型対話方式をとり、参加者の自己紹介や活動紹介を交えながら、地球環境基金申請における各団体のポイントなどを提示した。</p> <p>[主な業務]</p> <p>6 月 12 日(木)・13 日(金)地球環境基金協定書内容検討 24 日(火)・25 日(水)地球環境基金協定書修正作業 27 日(金)地球環境基金協定書作成・送付・確認</p> <p>7 月 11 日(金)協定書最終案作成・送付</p> <p>8 月 12 日(火)基金担当者に昨年度説明会出席者名簿の作成・送付</p> <p>9 月 3 日(水)地球環境基金に関する意見交換会</p> <p>10 月 14 日(火)平成 27 年度地球環境基金連携協定書内容確認</p>

	<p>16日(木)平成27年度地球環境基金説明会開催に向けた連絡調整  22日(水)工程表の作成  23日(木)24日(金)地球環境基金担当者との連絡・調整・確認  11月4日(火)NPO法人ぎふNPOセンターと打合せ、企画書・チラシ案作成  5日(水)平成27年度地球環境基金説明会の会場予約、企画書作成  6日(木)平成27年度地球環境基金連携協定書送付  7日(金)14日(金)19日(水)28日(金)チラシ作成  19日(水)見積書の作成、企画内容のつめ  20日(木)チラシに関して印刷会社との打合せ  25日(火)27日(木)説明会広報  28日(金)連絡調整、見積書の送付、広報  12月2日(火)3日(水)4日(木)9日(火)11日(木)12日(金)  平成27年度地球環境基金説明会連絡調整、広報・案内発送  準備、参加者名簿作成、連絡調整、資料準備等  13日(土)平成27年度地球環境基金説明会  15日(月)16日(火)17日(水)18日(木)22日(月)24日(水)  25日(木)平成27年度地球環境基金説明会連絡調整、報告書作成  1月5日(月)平成27年度地球環境基金助成金申請書相談業務  8日(木)報告書、業務完了届書、アンケート結果送付  9日(金)平成27年度地球環境基金助成金申請書相談業務、業務完了届書修正、送付  26日(月)業務完了届修正、送付</p>
協働パートナー	独立行政法人環境再生保全機構、NPO法人ぎふNPOセンター
評価指標・方法	独立行政法人環境再生保全機構へのヒアリング等
<b>成果・評価</b>	<p>岐阜県で活動している多くのNGO、NPO団体の地球環境基金への応募を促進すること、そして岐阜から多くの採択団体を生むことを目的に実施した。初めての岐阜での開催ということで、岐阜県の間接支援NPO組織であるNPO法人ぎふNPOセンターの協力を得て、事前の広報にも力をいれた。初めての岐阜での開催であり、事業系の環境NPOが少ない岐阜地域ということもあって、広報に力をいれた。その結果16名の参加を得ることが出来た。説明会後に、いくつかの団体から助成金申請に関する相談があり、対応をした。</p> <p>地球環境基金とEPO中部が相互に連携、協力して実施することで、中部7県の環境保全活動及び協働取組の実施主体の資金調達先が豊かになる。</p>

(オ)日本 NPO センター主催 Green Gift Project への支援(平成 25 年 10 月～平成 26 年 9 月  
平成 26 年 10 月～)

e 日本 NPO センター主催 Green Gift Project への支援	
目的	NPO が他分野 NPO、行政、企業、様々なステークホルダーと共に、子どもたちが環境活動を体験する機会を創り、参加者の環境意識向上をはかることで、持続可能な社会のための担い手を育てる。
事業概要 (9 月まで)	東京海上日動火災保険(株)、中部地域の支社・支店等と地域の環境活動団体等と協働で、子どもやその家族が参加・体験する環境教育プログラムを企画・実施する。全国 EPO ネットワークで扱っている案件である。
事業内容	<p>契約期間が平成 25 年 10 月～平成 26 年 9 月、平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月の事業であり、平成 25 年度 10 月～平成 26 年度 9 月については、岐阜、愛知、長野で事業を展開した。10 月に契約更新をする予定であるが、年度末の 3 月までとする。日本 NPO センター、東京海上日動火災保険(株)本社、支社担当者、地域 NPO、EPO 中部での本事業の目的やスケジュールの共有及び役割分担等が十分にできていないため、事業を進めながらも関係者間のコミュニケーションを深めた。長野、愛知、岐阜の各エリアでのプログラムが実施され、そのための打合せや当日参加、関係者へのヒアリング、当日の様子のレポート作成等を行った。9 月が契約終了であり、次年度は岐阜のみで事業展開することとなっているため、EPO の関わり方、役割を明確にするための協議することとしている。また、今年度 9 月までの事業の報告書作成をした。東京での全国 EPO 連絡会での本事業に関する会議に参加。本事業における EPO の役割を確認、次年度実施についての検討を行った。1 月に日本 NPO センターと岐阜の中間支援組織と EPO 中部で、次年度についての打合せを実施した。</p> <p>[主な業務]</p> <p>4 月 1 日(火)イベント報告書作成支援</p> <p>8 日(火)長野県・愛知県団体との打合せ、東京海上日動火災保険(株)担当者との調整支援</p> <p>18 日(金)長野県団体とイベントの調整、愛知県団体イベント用資料準備支援</p> <p>21 日(月)愛知県団体及び東京海上日動火災保険(株)担当者とのイベント打合せ</p> <p>28 日(月)イベント日程変更連絡・調整支援</p> <p>5 月 3 日(土)愛知県でのプログラム開催(藤前干潟)</p> <p>7 日(水)報告書作成支援</p> <p>9 日(金)東京海上日動火災保険(株)担当者との連絡調整・イベント報告支援</p> <p>16 日(金)依頼案件についての詳細確認支援等</p> <p>6 月 4 日(水)イベントレポート HP 掲載用原稿作成支援</p>

	<p>9日(月)イベントレポートHP掲載用原稿関係者確認・調整支援</p> <p>19日(木)次年度候補団体選定</p> <p>20日(金)次年度候補団体選定</p> <p>24日(火)東京海上日動火災保険(株)担当者・NPO 法人やまぼうし自然学校打合せ日程調整支援</p> <p>25日(水)経費予算・実績書作成支援</p> <p>7月12日(土)東京海上日動火災保険(株)長野支店担当者・NPO 法人やまぼうし自然学校打合せ支援</p> <p>14日(月)東京海上日動火災保険(株)長野支店担当者・NPO 法人やまぼうし自然学校打合せ支援</p> <p>16日(水)7月14日東京海上日動火災保険(株)長野支店担当者・NPO 法人やまぼうし自然学校打合せに関する連絡・調整支援</p> <p>17日(木)愛知エリアプログラムの広報支援</p> <p>18日(金)事業評価軸の共有作業、愛知エリア東京海上日動火災保険(株)担当者及び藤前干潟を守る会担当者との連絡・調整支援</p> <p>26日(土)愛知エリアプログラム参加</p> <p>29日(火)長野エリアの問い合わせについて認定NPO 法人日本NPOセンターと連絡・調整、東京海上日動火災保険(株)岐阜支店との連絡・調整支援</p> <p>8月6日(水)愛知県エリア7月26日プログラム報告書の作成支援</p> <p>8日(金)認定NPO 法人日本NPOセンター事業担当者と次年度事業計画に関する打合せ</p> <p>22日(金)岐阜エリア8月23日プログラムについて関係者と連絡調整支援</p> <p>23日(土)岐阜エリアプログラム参加</p> <p>29日(金)岐阜エリア8月23日プログラム報告書作成支援</p> <p>9月2日(火)愛知エリア7月26日プログラム、岐阜エリア8月23日プログラム報告書作成支援</p> <p>8日(月)岐阜エリア9月6日プログラム報告書作成、連絡調整支援</p> <p>20日(土)長野エリアプログラム参加</p> <p>30日(火)中部エリアの実施イベント及びプロジェクトに対する成果・評価報告書作成支援</p> <p>10月1日(水)2013年度報告会中部ブロック報告書作成、各エリア団体連絡調整、日本NPOセンター担当者との連絡調整</p> <p>2日(木)2013年度GreenGiftプロジェクト報告会及び2014年度キックオフ会議出席、岐阜エリア9月6日プログラム報告書修正、10月4日プログラム報告書作成</p> <p>4日(土)GreenGiftProject 岐阜エリアプログラム参加</p> <p>6日(月)～8日(水)岐阜エリア10月4日プログラム報告書作成</p>
--	--

	<p>9日(木)中部エリアの実施イベント及びプロジェクトに対する成果・評価報告書加筆</p> <p>14日(火)認定 NPO 法人日本 NPO センター担当への確認</p> <p>15日(水)岐阜エリア 9月6日プログラム報告書修正、10月4日プログラム報告書修正、10月4日プログラム HP 掲載記事作成・修正</p> <p>16日(木)長野エリア 9月20日プログラム報告書作成、岐阜エリア 9月6日プログラム報告書修正、10月4日プログラム報告書修正、10月4日プログラム HP 掲載記事作成・修正、連絡調整</p> <p>17日(金)長野エリア 9月20日プログラム報告書作成、認定 NPO 法人日本 NPO センターへ 2013 年度報告会交通費精算・宿泊費の請求書送付、岐阜エリア 9月6日プログラム報告書修正、10月4日プログラム報告書修正、10月4日プログラム HP 掲載記事作成・修正</p> <p>20日(月)～24日(金)長野エリア 9月20日プログラム報告書修正</p> <p>21日(火)長野エリア 9月20日プログラム報告書関係者確認依頼</p> <p>11月5日(水)2013 年度報告会中部ブロック報告書作成、連絡調整</p> <p>6日(木)2013 年度報告会中部ブロック報告書作成</p> <p>12月9日(火)10日(水)2014 年度事業打合せ日程調整</p> <p>1月16日(金)丸山氏、吉田氏打合せテープ起こし</p> <p>19日(月)2015 年度『Green Gift プロジェクト』運営支援に関する委託業務」打合せ</p> <p>22日(木)2015 年度『Green Gift プロジェクト』運営支援に関する委託業務」打合せ議事録作成</p>
協働パートナー	東京海上日動火災保険(株)、認定 NPO 法人日本 NPO センター、NPO 法人やまぼうし自然学校、NPO 法人藤前干潟を守る会、森・川・海ひだみの流域連携協議会
評価指標・方法	関係するステークホルダーへのヒアリング等
<b>成果・評価</b>	<p>今年度実施した岐阜、愛知、長野の全てステークホルダー（環境 NPO、東京海上日動火災(株)支店、参加者など）にヒアリングを行い、本事業の地域及び実施団体、事業者にとってのメリットについて把握した。愛知、長野に関しては、東京海上日動火災(株)の支店や代理店との関係性を構築するには至らなかったが、岐阜に関しては、関係性を育むことができ、本事業を活用した企業にとっても環境 NPO にとってもメリットを生み出す事業展開の可能性が見えてきた。愛知、長野については社員との関係性構築ができなかったものの、地域で活動する NPO にとって資金や広報支援といった点でのメリットがあったと評価を得ている。</p> <p>次年度は、岐阜のみでの実施となったため、日本 NPO センター担当者、岐阜の中間支援組織（森・川・海ひだみの流域連携協議会）と EPO 中部でどう展開するかについての可能性を検討する打合せを行った。各主体の役割を明確にし「岐</p>

	<p>卓モデル」の確立に向けて、支店、代理店、地域の環境活動団体の協働による取組による変化を、「地域の変化」「地域における中間支援の役割の変化」「本社と支店の変化」の視点で可視化していくことが課題である。次年度に入り次第、東京海上日動火災保険(株)岐阜支社、森・川・海ひだみの流域連携協議会、日本NPOセンター、EPO 中部で十分な協議をし、本事業をいかに活用するかの議論を図ることとした。</p>
--	---

## ②拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

### 中間支援組織によるポスト 2014 に向けて検討する場づくり

中間支援組織によるポスト 2014 に向けて検討する場づくり(「ESD2014」フォーラムの開催)	
目的	ESD の 10 年を振り返る。2014 年以降の ESD 取組内容、提案をつくる。
事業概要	ESD 実践者、団体との経験、情報・課題の共有と、2014 年以降の取組についての協議及び関係者への提案づくりを行う。
事業内容	<p>多様な主体が集まるフォーラムを目指し、企画立案、打合せ、ゲスト調整、チラシ作成・広報・取材対応、会場準備を行った。午前には 4 つの分科会、午後に対談と円卓会議を行った。午前の分科会は、なごや若者会議、なごや環境大学、中部 ESD 拠点、EPO 中部(教員による企画)と、各主体に実施を依頼し、ESD ユネスコ世界会議で公表される後継プログラム「GAP(グローバル・アクション・プログラム)」の 5 つの優先行動分野に基づき設定し、企画した。午後からの対談においては、再度「なぜ ESD が必要なのか」を全参加者と共有する内容とし、円卓会議では、各分科会及び行政、支援組織から ESD10 年の成果及び今後の展開についての提案について意見を交わした。なごや環境大学や中部 ESD 拠点に連なる、中間支援組織や、環境学習センター、NGO センターの参加者などと、2014 年以降、包括的に地域の ESD 取組を展開することの重要性を共有し、それぞれの強みを持ち寄り、より強化なネットワークの形成や、情報・経験交流をする場をもつことなどを共有した。フォーラム終了後はフォーラムの成果物をまとめ、翌週開催された ESD-J 政策提言ワークショップに東海地域からの提案意見としてまとめ、ESD-J を通して、ユネスコの GAP コミットメントに提案した。報告書の作成をし、ホームページに掲載した。</p> <p>●事業名：ESD2014～ESD の 10 年はこの地域に何を残すのか～</p> <p>日時：2014 年 6 月 14 日(土)10:00～16:00</p> <p>場所：中部大学名古屋キャンパス</p> <p>参加者：141 名</p> <p>主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス</p> <p>共催：なごや環境大学、中部 ESD 拠点、</p> <p>認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議</p> <p>後援：愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会</p>

	<p>連携協力：ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会</p> <p>【主な業務】</p> <p>4月1日(火)企画全体に関する打合せ  7日(月)第2分科会打合せ  9日(水)企画案作成  21日(月)企画作成  22日(火)後援申請書作成  28日(月)関係者への調整  30日(水)企画打合せ、ゲスト・講師調整</p> <p>5月1日(木)企画作成・講師調整  12日(月)講師との打合せ・後援申請書作成  14日(水)ゲスト交渉・調整・チラシ確認、後援申請書作成  16日(金)分科会担当者との調整  19日(月)第1分科会打合せ  22日(木)対談ゲスト打合せ(東京)  23日(金)～30日(金)チラシ作成及び広報作業、ゲスト調整・資料作成・会場調整連絡、会場申請書作成、参加者名簿作成等</p> <p>6月2日(月)～10日(火)広報作業・取材依頼・参加者リスト追加・連絡・チラシ送付・後援申請書作成・提出、企画つめ・ゲスト調整、高校生参加者調整・参加申込対応・広報、論点整理・ゲストとの調整、取材依頼、パネル作成</p> <p>11日(水)～13日(金)当日資料作成・備品準備・スタッフ打合せ・分科会打合せ・参加申込対応・広報・当日アンケート作成・プログラム概要ゲスト送付作業・連絡、当日資料準備・備品準備・発送作業・参加申込対応・広報、備品準備・搬入・参加申込対応・参加者名簿最終版作成</p> <p>16日(月)～26日(木)報告書作成作業、片づけ・成果物整理、報告書確認作業、修正加筆作業</p> <p>30日(月)ESD フォーラム(企業対象)について打合せ</p> <p>●報告書作成、確認、印刷、後援申請報告書提出作業：  7月1日(火) 7日(月) 8日(火) 11日(金) 14日(月) 15日(火) 16日(水) 17日(木) 18日(金) 22日(火) 28日(月)</p>
協働パートナー	なごや環境大学、中部 ESD 拠点、名古屋わかもの会議、中部7県でモデル事業採択となった団体等、各県担当者、教育委員会、小中学校、NPO/NGO、運営会議委員、地方事務所など
評価指標・方法	<p>指標：参加者数と参加者の多様性、ESD10 の成果と課題の共有度、ポストESD10年への意見及び提案内容の質</p> <p>方法：参加者数、参加者アンケート</p>

成果・評価	ESD ユネスコ世界会議で公表される後継プログラム「GAP(グローバル・アクション・プログラム)」の 5 つの優先行動分野に基づき分科会を設定し、各分科会の担当を中部 ESD 拠点、なごや環境大学、名古屋わかもの会議と協働で実施し多ことよって、多くの人の参加を得て、10 年をふりかえり、ポスト 2014 を十分に多角的な視点からの意見交換をすることができた。対談においては、参加者全員で再度「ESD の重要性」を確認することができ、円卓会議では、多様なステークホルダーからのポスト 2014 の動きについて紹介がされた。参加対話型のセッションを実施し、2015 年以降の ESD 取組の方向性やアプローチについて整理することができた。その成果を ESD-J の政策提言にインプット、また、11 月 13 日に開催された文部科学省主催「フォローアップ会合」にもインプットできた。
-------	---

### ③協定、協働取組、政策提言等環境教育等促進法の実践体制の構築

目標：環境教育等促進法に基づく施策を展開している自治体と連携し、情報やアドバイスの提供等支援を行う。各事業を通じて得られた情報を基に、地域の民間団体等が環境政策の企画や提案を作成するに当たって必要となる情報を適宜提供する。

対象：主に自治体等

- ①平成 26 年度愛知県環境学習コーディネイト業務支援については、(2) ⑤外部資金等による協働取組事業」に記載
- ②なごや環境大学事業支援

②なごや環境大学事業支援(継続)	
目的	環境学習を主軸にした多様な主体の協働による学びの場をつくる。 各主体の持続可能な社会づくりのための行動を後押しする。
事業概要	なごや環境大学の協働のスキームを検証し、協働による環境学習のしくみの有効性を検証する。
事業内容	ESD ユネスコ世界会議に向けて、またなごや環境大学 10 周年を迎えるにあたり、今後のなごや環境大学の展開について協議を行った。次年度に向け、10 周年を機に、なごや環境大学のコンセプトやビジョンを改善する「プロジェクト 10」を発足した。また 2015 年前期講座の審査や次年度事業計画についての検討を行った。 ●幹事会：4 月 25 日(金)、11 月 26 日(水)、3 月 16 日(月) ※幹事会準備 10 月 29 日(水) ●総会 5 月 19 日(月) ●なごや環境大学共育講座審査作業：7 月 7 日(月)、8 日(火) ●代表者チーム会議：7 月 27 日(水)、9 月 30 日(火) 1 月 27 日(火) ●リソースマッチング事業打合せ・資料作成 ：12 月 9 日(火) 1 月 6 日(火) 13 日(火) 14 日(水) 27 日(火) ●リソースマッチング事業説明会：2 月 14 日(土)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リソースマッチング事業：3月7日(土) (EPO 中部協力)</li> <li>●講座チーム審査会及びチーム会議：12月12日(金)</li> <li>●「プロジェクト10」会議：12月24日(水)</li> <li>●「プロジェクト10」会議：2月4日(水)</li> </ul>
協働パートナー	なごや環境大学実行委員会(企業・NPO/NGO、学識者等)
評価指標・方法	指標：協働による環境学習の仕組みが生み出す成果 評価：関係者ヒアリング
<b>成果・評価</b>	<b>なごや環境大学の10年の成果と課題を検証することとした。「参加」「対話」「協働」と言ったESDの視点と手法を投入して、なごや環境大学を見直し、改善するための作業について協議した。また、10周年記念事業の検討や、協働を生み出すリソースマッチング事業についての協議を行い、新たな主体巻き込み、新たな活動を生み出すための方策を検討した。今年度実施したリソースマッチング事業は、各主体の資源や強みを積極的にプレゼンテーションし、必要としている主体とマッチングすることで新たな影響力の高い事業や取組を生み出す可能性が高いため、「協働」による事業創出という視点から積極的に支援をしていく。</b>

#### ④Web サイト等を活用した環境情報の収集・分析・発信に関する業務

Web サイト等を活用した環境情報の収集・発信・分析に関する業務	
目的	協働事業を促進及び支援する。
事業概要	<p><b>①環境情報の収集等</b> 環境協働の推進に資する情報を収集し、整理・提供する。また、行政等から環境情報資料等を収集・整理し、提供する。</p> <p><b>②環境協働事例の分析</b> 中部管内の地域の環境協働事例を収集し、協働に至るプロセスについて分析を行い、他の業務に資するよう整理等を行う。</p> <p><b>③ホームページの維持管理</b> 業務を通して得られた情報や協働促進のための情報等を収集・整理し、ホームページに掲載する。ホームページの更新は、原則として月2回以上行う。</p> <p><b>④メールマガジンの発行</b> 業務を通して得られた情報等を発信する。</p> <p><b>⑤情報収集・提供のための会議等への参加</b> 自治体の各種審議会等への参画、講座・ワークショップの支援等や協働事例の紹介、情報提供、意見収集を行う。</p>
事業内容	<p><b>①環境情報の収集等</b> 昨年度の459件に比べ、今年度は571件と全体的に収集量が増加している。特に行政関連からの情報提供やESD関連の情報が増加した。今年度、ESD関連の事業での行政や企業での普及啓発、フォーラムにおいて連携し、関係性を</p>

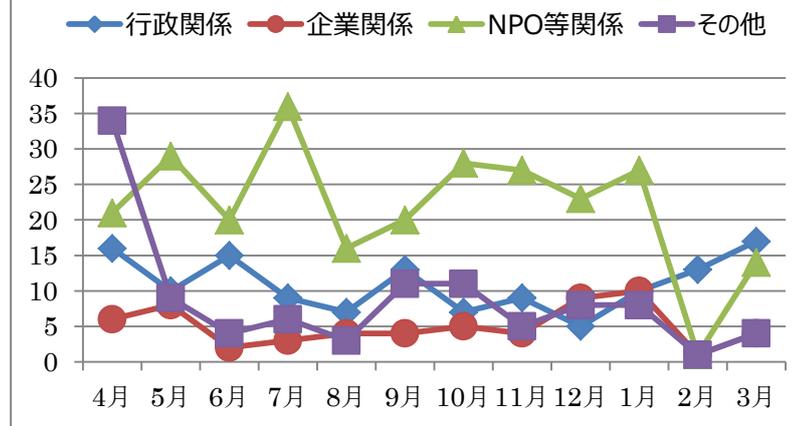
構築できたことの成果が表れている。企業の若干は増えているが、地元企業や中小企業の環境活動や CSR 活動についての情報収集を強化する。

書籍	4月	5月	6月	7月	8月	9月
行政関係	16	10	15	9	7	13
企業関係	6	8	2	3	4	4
NPO等関係	21	29	20	36	16	20
その他	34	9	4	6	3	11
合計	77	56	41	54	30	48

書籍	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行政関係	7	9	5	10	13	17	131
企業関係	5	4	9	10	1	4	60
NPO等関係	28	27	23	27	1	14	262
その他	11	5	8	8	1	4	104
合計	51	45	45	55	30	39	571

### 書籍数



[資料入力・整理]

4月(6回) : 1日(火)、2日(水)、11日(金)、14日(月)、23日(水)、30日(水)

5月(6回) : 1日(木)、2日(金)、14日(水)、21日(水)、29日(木)、30日(金)

6月(4回) : 3日(火)、4日(水)、23日(月)、24日(火)

7月(6回) : 1日(火)、9日(水)、15日(火)、25日(金)、29日(火)、31日(木)

8月(5回) : 8日(金)、18日(月)、21日(木)、25日(月)、28日(木)

9月(4回) : 4日(木)、8日(月)、11日(木)、22日(月)

10月(4回) : 7日(火)、15日(水)、24日(金)、28日(火)

11月(3回) : 4日(火)、21日(金)、28日(金)  
 12月(4回) : 11日(木)、17日(水)、18日(木)、24日(水)  
 1月(5回) : 14日(水)、20日(火)、23日(金)、28日(水)、30日(金)  
 2月(6回) : 3日(火)、16日(月)、17日(火)、20日(金)、24日(火)、  
 27日(金)  
 3月(5回) : 3日(火)、9日(火)、17日(火)、19日(木)23日(月)

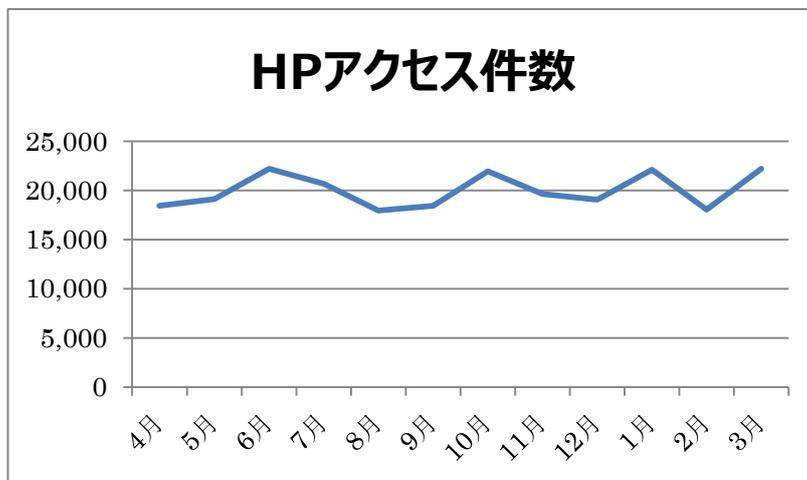
**②環境協働事例の分析**

今年度「協働取組加速化事業」に申請した協働事業者を取材(計 11 件)し、現環境協働事例としてホームページに掲載した。また、今年度で事業を終了する「郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生物多様性保全推進協議会」の活動をまとめ、協働事例としてパンフレットを発行、ホームページに掲載した。協働取組加速化事業採択団体やサステナブルビジネス支援事業対象事業等を可視化した冊子「協働 BOOKLET」を作成、ホームページに掲載した。

**③ホームページの維持管理**

昨年度と比較してホームページアクセス数が、409,546 件から 236,732 件とかなり減少している。今後ホームページアクセスが増えるよう、内容の充実及び PR が必要である。今年度のホームページ更新は月 6 回である。HP での情報提供の在り方を検討し、見直しを図る必要がある。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
18,461	19,126	22,216	20,688	17,976	18,442
10月	11月	12月	1月	2月	3月
21,954	19,646	19,058	22,134	18,047	22,212
合計				239,960	



[HP 更新・作業]

	<p>4月(6回) : 3日(木)、7日(月)、16日(水)、21日(月)、24日(木)、30日(水)</p> <p>5月(5回) : 1日(木)、7日(水)、12日(月)、22日(木)、26日(月)</p> <p>6月(7回) : 5日(木)、10日(火)、11日(水)、13日(金)、19日(木)、23日(月)、25日(水)</p> <p>7月(8回) : 2日(水)、4日(金)、7日(月)、9日(水)、17日(木)、23日(水)、28日(月)、31日(木)</p> <p>8月(6回) : 1日(金)、4日(月)、11日(月)、18日(月)、21日(木)、27日(水)</p> <p>9月(6回) : 1日(月)、8日(月)、12日(金)、16日(火)、22日(月)、26日(金)</p> <p>10月(4回) : 1日(水)、7日(火)、20日(月)、31日(金)</p> <p>11月(5回) : 4日(火)、5日(水)、10日(月)、17日(月)、28日(金)</p> <p>12月(8回) : 1日(月)、5日(金)、8日(月)、12日(金)、17日(水)、18日(木)、24日(水)、25日(木)</p> <p>1月(9回) : 5日(月)、9日(金)、13日(金)、14日(水)、16日(金)、19日(月)、22日(木)、26日(月)、28日(水)</p> <p>2月(5回) : 2日(月)、9日(月)、13日(金)、17日(火)、20日(金)</p> <p>3月(3回) : 2日(月)、5日(木)、11日(水)</p> <p><b>④メールマガジンの発行</b></p> <p>中部7県で開催されている、行政、事業者、NPO から届けられるイベント情報を中心に原稿を作成、発行した。基本は毎月1回更新だが、6月「ESD2014」フォーラム等の開催のため、「ESD 特集」として臨時号を発行し、11月にはESDユネスコ世界会議関連情報の広報を行うため、再度臨時号として「ESD 特集号」を発行した。2月には、ESDユネスコ世界会議報告会と次年度協働取組促進事業の説明会広報のため臨時号を発行した。</p> <p>発行日 : 2014年4月8日 58号</p> <p>発行日 : 2014年5月13日 59号</p> <p>発行日 : 2014年5月28日 臨時号</p> <p>発行日 : 2014年6月10日 60号</p> <p>発行日 : 2014年7月8日 61号</p> <p>発行日 : 2014年8月12日 62号</p> <p>発行日 : 2014年9月9日 63号</p> <p>発行日 : 2014年10月14日 64号</p> <p>発行日 : 2014年10月20日 臨時号</p> <p>発行日 : 2014年10月28日 ESD 特集号</p> <p>発行日 : 2014年11月11日 65号</p>
--	---

	<p>発行日：2014年12月9日66号  発行日：2015年1月13日67号  発行日：2015年2月10日68号  発行日：2015年2月20日臨時号  発行日：2015年3月10日69号  登録者数：746部(3月発行時点)</p> <p>[メルマガ原稿作成・更新作業]</p> <p>4月(5回)：2日(水)、3日(木)、7日(月)、8日(火)、30日(水)  5月(9回)：7日(水)、8日(木)、9日(金)、12日(月)、13日(火)、  22日(木)、27日(火)、28日(水)、30日(金)  6月(6回)：3日(火)、4日(水)、9日(月)、10日(火)、20日(金)、  24日(火)  7月(8回)：1日(火)、3日(木)、4日(金)、7日(月)、8日(火)、  23日(水)、25日(金)、29日(火)  8月(7回)：1日(金)、5日(火)、8日(金)、11日(月)、21日(木)、  26日(火)、28日(木)  9月(7回)：4日(木)、5日(金)、8日(月)、9日(火)、12日(金)、  26日(金)、30日(火)  10月(9回)：1日(水)、3日(金)、10日(金)、14日(火)、15日(水)、  16日(木)、17日(金)、27日(月)、28日(火)  11月(9回)：4日(火)、5日(水)、7日(金)、10日(月)、11日(火)、  19日(水)、21日(金)、26日(水)、28日(金)  12月(6回)：4日(木)、8日(月)、9日(火)、18日(木)、24日(水)、  25日(木)  1月(5回)：7日(水)、8日(木)、9日(金)、13日(火)、20日(火)  2月(4回)：3日(火)、6日(金)、9日(月)、10日(火)  3月(4回)：2日(月)、4日(水)、9日(月)、10日(火)</p> <p><b>⑤情報収集・提供のための会議等への参加</b>  自治体の各種審議会等への参画、講座・ワークショップの支援等や協働事例の紹介、情報提供、意見収集を行った。</p> <p>4月12日(土)四日市ささえあい基金書類審査  25日(金)フェアトレード名古屋ネットワーク定例会  26日(土)四日市ささえあい基金プレゼンテーション審査  23日(水)環境デーなごや2014実行委員会  5月10日(土)世界フェア・トレード・デーなごやパネリスト参加  12日(月)海岸清掃ボランティア募集  6月5日(木)名古屋市環境人づくり懇談会</p>
--	--

	<p>20日(金)ESD-JAGEPP 学習会参加</p> <p>28日(土)あいちコミュニティ財団助成金審査会</p> <p>7月1日(火)愛知県地球温暖化グリーンニューディール研究会・戦略勉強会 愛知県環境活動推進課環境学習等推進協議会</p> <p>7日(月)あいちコミュニティ財団助成審査コメント作成</p> <p>8日(火)三重県農林水産部みどり共生推進課打合せ</p> <p>14日(月)、15日愛知県地球温暖化室グリーンニューディール政策市町村 応募要項審査作業</p> <p>17日(木)名古屋市緑の審議会</p> <p>18日(金)愛知県地球温暖化室グリーンニューディール政策審査会</p> <p>8月5日(火)名古屋市環境ひとづくり懇談会</p> <p>19日(火)愛知県食と緑の計画推進会議</p> <p>27日(水)愛知県自然環境課あいちミティゲーション検討会</p> <p>9月1日(月)名古屋市環境人づくり懇談会</p> <p>5日(金)愛知県生物多様性戦略 2020 検討委員会</p> <p>22日(月)東邦ガス(株)意見交換会出演者選出、紹介</p> <p>10月6日(月)三重県ごみゼロ委員会打合せ</p> <p>17日(金)愛知県地球温暖化対策室愛知県再生可能エネルギー等導入 推進基金事業評価に関する打合せ</p> <p>22日(水)三重県森と緑の県民税評価委員会出席</p> <p>24日(金)愛知県再生可能エネルギー等導入推進基金事業評価に関する 審査作業</p> <p>29日(水)第3回愛知県再生可能エネルギー等導入推進基金事業評価 委員会出席</p> <p>11月25日(火)名古屋市人づくり懇談会出席</p> <p>27日(木)三重銀行 NPO 助成書類審査作業</p> <p>12月1日(月)三重銀総研「NPO サポートファンド」書類審査会 名古屋市気温測定調査打合せ</p> <p>3日(水)名古屋市環境人づくり懇談会打合せ</p> <p>12日(金)名古屋市教育委員会環境未来探検隊打合せ</p> <p>16日(火)名古屋市情報化プラン打合せ</p> <p>18日(木)三重銀総研「NPO サポートファンド」プレゼンテーション審査</p> <p>24日(水)名古屋市環境人づくり懇談会 金沢市セミナー講師のためチラシ校正</p> <p>1月13日(火)名古屋市人づくり懇談会</p> <p>30日(金)大都市制度シンポジウムパネリスト出演 シンポジウム「日本版『市長誓約』の提案－『エネルギー自治』を通 じた地域創生－」参加</p>
--	---

	<p>2月12日(木)愛知県環境教育等推進協議会第2回出席  13日(金)名古屋市森づくりパートナーシップ連絡会研修打合せ資料作成  18日(水)愛知県環境審議会廃棄物部会出席  19日(木)三重県ごみゼロプラン推進委員会出席  22日(日)名古屋市なごや森づくりパートナーシップ連絡会研修  24日(火)愛知県食と緑の基本計画推進会議出席  25日(水)名古屋市森づくりパートナーシップ連絡会議研修成果物まとめ</p> <p>3月2日(月)愛知県自然環境課愛知ミティゲーションに関する打合せ  3日(火)名古屋市森づくりパートナーシップ連絡会成果物まとめ・アンケート集計  5日(木)愛知教育大学エコプロジェクト報告会  6日(金)名古屋市人づくり懇談会打合せ  7日(土)第1回環境団体交流会  9日(月)金沢市主催環境団体交流会資料作成  10日(火)金沢市主催環境団体交流会資料作成  13日(金)名古屋市東山再生プラン「洋風庭園」基本計画打合せ  14日(土)金沢市環境団体交流会  17日(火)名古屋市人づくり懇談会  19日(木)名古屋市総務局情報化プラン打合せ</p>
協働パートナー	協働事業を実施している主体、運営会議委員等
評価指標・方法	<p>指標(目標)：指標環情報収集、整理、提供件数：550件(昨年度539件)  HPアクセス数：415,000件(409,546件)  方法：ホームページ、メルマガ利用者数の把握</p>
<b>成果・評価</b>	<p>●協働事業を促進及び支援のための情報提供、提供を行った。</p> <p>①環境情報の収集等  環境協働の推進に資する情報を収集し、整理・提供した。また、行政等から環境情報資料等を収集・整理し、提供した。昨年度と収集量を比較すると年間で6%増加し、目標の550件を達成した。本年度事業において連携を強化して行った、行政関係、企業関係資料が増加していることから、関係性の深まりが見られる。</p> <p>★指標環情報収集、整理、提供件数：550件(昨年度539件)  月平均 H24：30.3 H25：36.9 H26：47.6</p> <p>②環境協働事例の分析  中部管内の地域の環境協働事例を収集し、協働に至るプロセスについて分析を行い、他の業務に資するよう冊子を作成するなど整理等を行った。</p> <p>③ホームページの維持管理  業務を通して得られた情報や協働促進のための情報等を収集・整理し、ホームページに掲載した。年間月平均6回の更新を行い、最新情報の提供を行った。</p>

	<p>アクセス数は、下記のようにあった。</p> <p>月平均 19,727.7 件 (H26)</p> <p style="padding-left: 40px;">H24 : 28,769.6 件 H25 : 35,931.8 件</p> <p>年間 239,960 件(H25 : 409,546 件)</p> <p>アクセス数がかかなり減少しているが、昨年度ホームページをリニューアルした際に、各ページのディレクトリ名も変更したため、以前のアドレスにリンクを貼っていたページからのリンクが無効になったことが原因となっている。また、ディレクトリ名を変更し新しい内容のページになったことで、検索エンジンからの評価がリセットされ、検索エンジン上位に表示されづらくなった。検索エンジンから閲覧者の流入が減少した（アクセス件数が減少した）。今後のアクセス数増加のために、情報戦略について検討する必要がある。</p> <p><b>④メールマガジンの発行</b></p> <p>業務を通して得られた情報等を、年間月平均 1.3 回発行をした。登録者数は、746 部(昨年度 724 部)。昨年度と比較すると 3%増加した。</p> <p><b>⑤情報収集・提供のための会議等への参加</b></p> <p>自治体の各種審議会等への参画、講座・ワークショップの支援等を通して、多様な協働事例の紹介、情報提供、意見収集を行った。</p>
--	---

### (3)施設の維持・管理

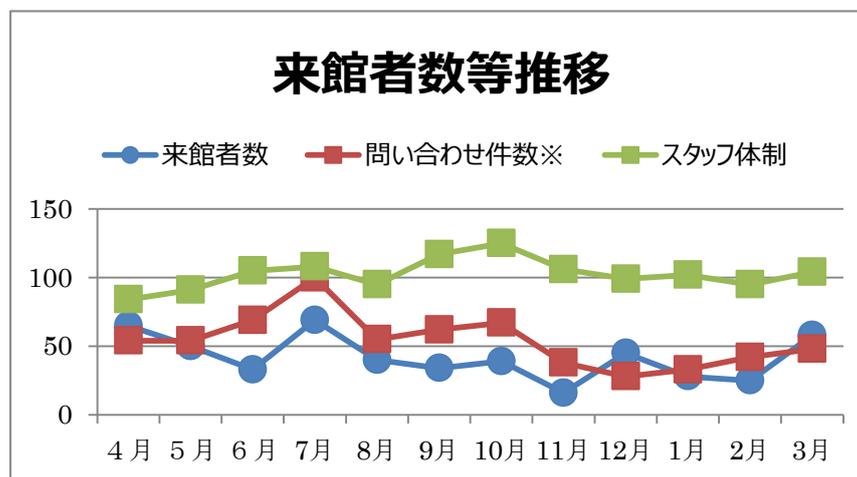
(1)施設維持管理業務 (2)来客等対応業務	
目的	協働事業を促進及び支援する。
事業概要	<p>(1)施設維持管理</p> <p>開館日：月曜日～木曜日</p> <p>休館日：土・日曜日、祝日、旧盆(8月13日～15日)、年末年始(12月29日～1月2日)</p> <p>開館時間：原則 10:00～19:00 年間開館予定日数(241日)</p> <p>閉館日：毎週金曜日(情報収集・整理日)</p> <p>●オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理(防災管理士の配置)</p> <p>(2)来客等対応業務</p> <p>来館、電話・メール等の適切対応と内容の別紙を使用し、記録を行う。スタッフ1名を常駐。</p>
事業内容	<p><b>(1)施設維持管理</b></p> <p>来館者数・問い合わせ件数は、494人(昨年度650人)と月平均13名程減少している。この要因は、ESD ユネスコ世界会議を前に、多くの会議が当オフィス以外で行われたことだと認識している。一方で、「ESD や環境イベントに関する資料が充実している」といった来館者からのコメントもあるので、PRを一層図った。今年度はESD世界会議の影響もあ</p>

り、ESD 資料を求めて学校の PTA 役員の方や企業の方が資料を求めに来館された。直接来館されなかったが、イベントで配布した資料から校内で配布したいので EPO 中部作成資料の送付依頼も受けた。気軽に来館していただけるよう、また「ESD 関連の情報は充実している」と評価されているので、情報があることをいかに PR するかが課題である。

## (2)来客等対応業務

ESD ユネスコ世界会議を前に、世界会議及び併催イベントについての問い合わせ、また広報依頼が増えている。最新の情報を入手し、多くの人々が参加可能な機会の情報を広く提供した。問合せ内容については、参考資料 1 参照。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開館日数	21	20	21	22	18	20		
来館者数 (日平均)	65 (3.1)	50 (2.5)	33 (1.6)	69 (3.1)	40 (2.2)	34 (1.7)		
問い合わせ件数 *(日平均)	54 (2.6)	54 (2.7)	65 (3.3)	100 (4.6)	55 (3.1)	62 (3.1)		
スタッフ体制 (日平均)	84 (4)	91 (4.5)	105 (5)	108 (4.9)	95 (5.3)	117 (5.9)		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開館日数	22	18	19	19	19	22	241	20.1
来館者数 (日平均)	39 (1.8)	16 (0.9)	45 (2.4)	28 (1.5)	25 (1.3)	58 (2.6)	502 (2.1)	41.8
問い合わせ件数 *(日平均)	67 (3.0)	38 (2.1)	28 (1.5)	33 (1.7)	42 (2.2)	48 (2.2)	646 (2.7)	54.2
スタッフ体制 (日平均)	125 (5.7)	106 (5.9)	99 (5.2)	102 (5.4)	95 (5)	104 (4.7)	1231 (5.1)	102.6



※問い合わせ件数は、来館・来電の合計数

※11月10-14日は全国 EPO 連絡会インターンスタッフを含む

#### ■その他

9月16日(火)甲種・防災管理新規講習会

12月6日(土)・7日(日)甲種・防災管理新規講習会

協働

協働に関する情報及び相談ニーズのある団体、個人等

パートナー	
数値目標	来館者数：650名(昨年度633名)来館相談・問合せ件数：880件(862件)
評価指標・方法	指標：来館者数、来館・電話・メールによる相談・問い合わせ件数 方法：日報の集計
成果評価	<p>■協働事業を促進及び支援のための情報提供、施設管理を行った。</p> <p>開館日数：241日(4月～3月)</p> <p>来館者数：502名(4月～3月 目標値650名/昨年度633名)</p> <p>問合せ件数：646件(4月～3月26日 目標値880件/昨年度862件)</p> <p>来館者、問合せ件数は昨年度との比較で、目標値に対しても大きく下回る件数であった。オフィス以外での業務や会合が多かったことが理由として考えられる。スタッフ体制については、ESDユネスコ世界会議開催に向けて若干増強した。</p> <p>●施設の維持・管理</p> <p>来館者数 日平均 2.6名(H24) 2.8名(H25) 2.1名(H26)</p> <p>問合せ件数 日平均 2.3件(H24) 3.9件(H25) 2.7件(H26)</p> <p>スタッフ体制(日平均)2.6人(H24) 4.4人(H25) 5.1人(H26)</p> <p>●問い合わせ内容と件数</p> <p>合計件数 646件(H25:862件)</p> <p>環境教育(学習):35件 ESD:300件 生物多様性:6件 気候変動:6件</p> <p>自治体関連:54件 企業関連:35件 NPO・市民活動団体・地域活動等:90件</p> <p>パートナーシップ:36件 EPO:15件 フェアトレード:5件 他:64件</p>

#### (4)業務実施計画の作成

業務実施計画の作成	
目的	業務を円滑に実施するために、年間の業務内容及び予算、スケジュールを作成する。
事業概要	年間の業務計画内容及び、なお本業務が協働取組であることを鑑み、計画実施によって達成しようとする目標や、事業に参加する各主体の役割分担を明確にする。
事業内容	平成26年度業務実施計画書(収支予算書・スケジュール含)案を作成し、運営会議にて検討、了承を得て完成、前期提出した。
協働パートナー	全国EPO、環境省、各地方環境事務所
評価指標・方法	指標：会議の実施とその効果、等 方法：関係者による事業評価
成果・評価	業務運営計画(案)を作成し、上半期運営会議にて協議し、決定した。業務を円滑に実施するために、年間の業務内容及び予算、スケジュールを作成した。

## (5)活動成果等取りまとめ

活動成果等の取りまとめ	
目的	EPO 中部第 3 期活動成果と第 4 期に向けての提案等今後のあり方を取りまとめる。
事業概要	第 3 期における活動成果並びに中部地域における環境保全活動、協働取組等におけるニーズ・課題と EPO 中部が担うべき役割及び平成 27 年度以降 EPO 中部が実施すべき事業を運営協議会等で協議し、提案書としてまとめる。
事業内容	12 月に開催予定の運営会議に向け、運営委員へのヒアリング、ヒアリング項目を検討し、実施した。運営会議委員のアンケート回答をまとめ、次期 EPO 中部が担うべき役割・機能、運営会議の機能、スタッフ体制等組織運営のあり様などについて提案書(案)を作成した。その後、下半期運営会議にて、提案書(案)を提示し、意見交換をし、会議後運営会議座長と調整をし、提案書を完成させ、地方事務所に提出をした。
協働パートナー	運営会議委員等
評価指標・方法	運営会議委員へのヒアリング
成果・評価	運営会議委員へのヒアリングを実施し、ヒアリング内容を十分に反映し提案書(案)を作成、下半期運営会議での協議を踏まえ、提案書を提出した。運営会議委員の EPO 中部に対して当事者意識や、積極的関与していただけるようになり、EPO の利活用を共に模索する関係づくりができた。

## (6)その他

### (1)全国の地方 EPO・GEOC との連携

(2)全国の地方 EPO・GEOC との連携	
目的	全国 EPO と連携して、全国 EPO ネットワークで取り組むべき事業や共通課題の共有及び解決のための意見を交換し、提案をつくる。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国 EPO 連絡会への参加</li> <li>・全国 EPO が連携して取り組むべき課題の共有と事業の検討</li> </ul>
事業内容	<p>第 1 回全国 EPO 連絡会議に出席し、昨年度の成果及び課題を踏まえ、全国で取り組む、「協働取組加速化事業」「ESD 人材育成事業」、EPO 有志で取り組む「日本 NPO センター-Green Gift Project」「地球環境基金事業」についての協議をし、意見交換を図った。</p> <p>第 2 回全国 EPO 連絡会では、11 月に開催される「ESD ユネスコ世界会議」に向けて、EPO ネットワークとしてすべきことについての意見を交わした。全国 EPO ネットワークで実施することとなった、「ESD の 10 年地球市民会議 2014」ラーニングプロ</p>

	<p>グラムの準備、参加、プレゼンテーションを行った。また全国 EPO 連絡会に出席、グリーンギフトプロジェクト、協働取組に関する意見交換や情報共有を行った。10 月 3 日開催の協働取組作業部会の資料作成を行った。11 月 13 日に開催された文部科学省主催「フォローアップ会合」では、全国 EPO から今後の ESD 事業展開についてのインプットをした。また同時期、EPO インターン制度によって東北 EPO スタッフを 1 週間インターン生として受け入れた。</p> <p>第 3 回全国 EPO 連絡会では協働取組や ESD 事業についての情報共有、意見交換を行った。</p> <p>〔主な業務〕</p> <p>4 月 24 日(木)全国 EPO 連絡会日程調整</p> <p>5 月 27 日(火)EPO 連絡会 ESD 事業資料作成</p> <p>28 日(水)全国 EPO 連絡会参加(香川県高松市)</p> <p>29 日(木)全国 EPO 連絡会参加(香川県高松市)</p> <p>30 日(金)全国 EPO 連絡会エクスカッション参加(香川県新居浜市)</p> <p>8 月 12 日(火)「ESD の 10 年地球市民会議 2014」ラーニングプログラム出演依頼・連絡及び企画作成、地球環境基金会合のための資料作成</p> <p>21 日(木)「ESD の 10 年地球市民会議 2014」ラーニングプログラム参加・準備</p> <p>22 日(金)「ESD の 10 年地球市民会議 2014」ラーニングプログラム参加</p> <p>9 月 4 日(木)第 2 回全国 EPO 連絡会</p> <p>16 日(火)東北 EPO インターン内容についての打合せ</p> <p>24 日(水)、29 日(月)、30 日(火)協働取組作業部会のための資料作成</p> <p>1 月 15 日(木)第 3 回全国 EPO 連絡会</p> <p>2 月 6 日(金)ESD 事業展開について意見交換会</p>
協働パートナー	全国 EPO、環境省、各地方環境事務所
評価指標・方法	<p>指標：会議の実施とその効果、等</p> <p>方法：自己評価</p>
<b>成果・評価</b>	<p><b>全国 EPO と連携して、全国 EPO ネットワークで取り組むべき事業や共通課題の共有及び解決のための意見を交換した。ESD に関しては、各地方 EPO の蓄積をフォローアップ会合でインプットしたが、EPO ネットワークとしての提案づくりには至らなかった。協働取組や ESD の人材育成事業について、各地方 EPO の成果や課題の共有をしつつ、次年度の事業展開を検討することが必要である。</b></p>

## 参考資料 1 問合せ項目一覧

テーマ	相談内容
環境教育(学習) (35 件)	環境学習コーディネート事業について 漂着物に関する環境学習団体について 海岸漂着ゴミに関する環境学習プログラムについて 全国子どもエコクラブ大会について 環境教育教材の活用について (養蚕) 繭をつかった環境学習について (2) 三重県森林環境学習について 気象キャスターネットワークの環境講座の広報について 堀川での環境学習について 中学校での海の環境学習について 中信地区環境教育ネットワーク事務局企画について 水質調査等川に関する環境学習の実態について エコについて話せる人について 省エネ製品紹介セミナー講師について 省エネ講師について 希少種保護活動講師について 中国からの環境教育研修について(2) 環境絵画コンクール審査について 桑を題材にした環境学習について 海に関する環境学習事業について 里山の動物を紹介する絵本の配布について インタープリター養成講座 2015 の企画について(2) 愛知県環境学習施設等連絡協議会での講演について 京都環境教育ミーティングの出演依頼について 愛知教育大学エコプロジェクト報告会プログラムについて ヒートアイランドと環境教育の助成の広報について 京都での環境教育ミーティングについて 子どもによる森づくりの構想についての相談 日本の環境教育について 本地域の環境学習の状況について 環境学習状況について 藤前干潟ワークブックの配布について
ESD (300 件)	高校の ESD 活動について 高校生に理解できる ESD 資料について 高校生の ESD 授業について 高校での ESD 実践の資金調達について 高校性の ESD 活動について 高校性コンソーシアム事業の予算について 高校生 ESD コンソーシアム参加希望について 文科省ユネスコスクール事業について ESD 研修講師依頼について (2) 教員対象の ESD 研修について ESD の研修の内容、講師の人選について (2) ESD 研修について (3) ESD 研修依頼について

	<p>ESD 教員研修について</p> <p>ESD 学習会の講師紹介について</p> <p>丹羽郡町村会・議長 ESD 研修会講師依頼について</p> <p>ユネスコ協会設立での勉強会講師について</p> <p>松阪ユネスコ協会 ESD 勉強会講師派遣について</p> <p>ESD プログラムのつくりかたについて</p> <p>英語の授業での ESD の取り入れ方について</p> <p>小学校での ESD 授業の指導について</p> <p>岡崎市常盤南小学校 ESD 授業研究会アドバイザーについて</p> <p>ESD 講座講師依頼について</p> <p>名張市教育委員会 ESD 研修依頼について</p> <p>ESD 研修について</p> <p>豊橋市小学校での ESD 実践について</p> <p>愛知県総合教育センターESD 研修について</p> <p>ESD 授業づくりのための資金調達について</p> <p>ESD 人材育成事業について(15)</p> <p>ESD 人材育成事業教育委員会の参加について</p> <p>ESD 冊子の発送について</p> <p>ESD リーフレットの発送依頼（刈谷市立住吉小学校教員）</p> <p>ESD 関連の資料について</p> <p>名古屋市 ESD 施策について</p> <p>広報なごやの ESD 特集について</p> <p>名古屋市 ESD 広報ツールについて</p> <p>名古屋国際センターでの ESD 事業について</p> <p>名古屋国際センターニュースレター取材について（ESD）</p> <p>愛知県 ESD に関する施策について</p> <p>愛知県 ESD フォーラムゲストについて</p> <p>ESD 子ども会議企画について</p> <p>こども環境会議について</p> <p>こども ESD 会議について</p> <p>ESD 子ども会議について</p> <p>ESD 子ども会議打合せについて</p> <p>ESD 関連の会議の広報について</p> <p>ESD キャッチコピーについて</p> <p>ESD 広報に関して</p> <p>ESD セミナーの広報について</p> <p>ESD ブックの制作について</p> <p>ESD 番組制作について(4)</p> <p>中小企業への ESD 導入について</p> <p>ESD 写真展について(2)</p> <p>岡崎市での ESD 写真展について</p> <p>なごや環境大学の ESD 事業について</p> <p>なごや環境大学 ESD ワークショップ講師紹介について</p> <p>ESD 半年前イベントについて</p> <p>ESD イベントについて</p> <p>ESD イベントのブースの振り分けについて</p> <p>ESD ユネスコ世界会議ユースボランティア募集について</p> <p>グローバル・アクション・プログラムについて</p> <p>ポスト ESD の政策について(2)</p>
--	---

	<p>         ポスト ESD の事業について          ESD ユネスコ世界会議サイドイベントの公募について          ESD 世界会議への参加について          ESD 世界会議における NGO 参加について          ESD イベントへのアドバイスについて          11 月の ESD ユネスコ世界会議の際のイベントについて          ESD フォーラムの成果について          ESD フォーラム資料送付について          ESD フォーラムの取材について          ESD フォーラムについて( 5 )          ESD フォーラムの取材について( 2 )          東海北陸ユネスコスクール参加推薦校について ( 2 )          愛知県内の公民館での ESD 実践について          岡山市から ESD 実践資料の送付について          企業を対象にした ESD フォーラムの開催について          ESD カフェの広報について          ESD 学習会について          ESD と自己肯定感について( 3 )          フェアトレードイベントでの ESD トークについて          RCE 申請について          RCE 拠点に関して          ESD と平和活動について (事業の紹介)          ESD 事業の写真提供について          ESD 政策提言ワークショップについて          愛知県の若者が取り組む ESD 活動について          新聞原稿の執筆について (ESD)          東海・北陸ユネスコスクール交流会について          ESD こども会議クイズについてのアドバイス          企業を対象にした ESD フォーラムの企画について(2)          ESD テレビ番組企画アドバイスについて          名張市教育委員会 ESD 研修依頼(2)          答志島在住で ESD への理解のある方の紹介          名張市薦原小学校 ESD 研修について          ESD 世界会議サイドイベントについて          高校生を対象にした ESD 研修について          三重県での ESD 発表事例について          藤前干潟での ESD 事業について          日刊工業新聞掲載記事増量の依頼について          清里ミーティングでの ESD 報告について(2)          ESD 冊子について          ESD 手法で英語と保育ができる人の紹介について          薦原小学校ユネスコ事例申請について          環境デーなごやの ESD 企画について          併催イベントの広報について          併催イベントの企画内容について          ESD 人材育成実証校の数について          扶桑町図書館 ESD コーナーに置く ESD 図書の紹介について(2)          環境省 ESD PR キャラクターについて          ESD 共催イベントについて(3)       </p>
--	--

	<p> 中部 ESD 拠点合同ワークショップ広報について  名古屋市 ESD シンポジウムについて  高等学校のユネスコスクールの申請について  ESD グッズの入手について  ユネスコスクール事例収集事業について  併催イベント申請について  ESD 地球市民村について  ユネスコスクール事例集応募について  11 月栄周辺での ESD イベントについて  ESD 地域レポートについて  ESD に関する情報について  ESD カレンダー研究会について  ESD シンポジウムの広報について  ESD 写真展日程について  ユネスコスクール事例集申請書について  ESD 地球市民村について(2)  ESD 地球市民村企業協賛について  ESD 地球市民村出演について  ユネスコスクール交流会三重県の発表について  あいち ESD シンポジウム取組発表について  長野県西高校ユネスコスクール計画書について  名古屋市 ESD 実践者向けテキストについて  愛知県高等学校管理職・主任教諭の ESD 講演について  ESD の 10 年・地球市民会議参加者募集について  持続可能な生産・流通・消費に関する ESD 原稿について  ESD を実践する学習塾と放課後教室の講師紹介  中日新聞生活面での ESD 企画について  名張市蔵持小学校教職員に向けた ESD 研修について  恵那農業高校 ESD 活動について  世界の祭典のスケジュール及び企画について  ESD こども会議 ポスターセッションについて  三重県薦原小学校 ESD 指導案について  名古屋市 ESD 実践者向けテキスト作成のアンケートについて  三重県環境学習情報センターでの ESD 講座について  英語と ESD の融合研究について  高校での ESD 実践について  ESD の資料について  なごや環境大学 ESD の取組について  環境デーなごやの ESD 事業について  ESD 資料送付について  環境省 ESD 写真展広報について  ESD 実践者の学生への取材について  高等学校での ESD 講演について  北海道大学の ESD 広報について  ESD あいち・なごや子ども会議について  ESD の 10 年・地球市民会議 2014 提言案について  ESD 全国フォトコミュニケーション広報について  GEOC 機関紙「つな環」原稿確認について  GEOC 座談会について </p>
--	---

	<p>ESD 子どもフォトコミュニケーション広報について  後期 ESD カフェ広報について  ESD ポスターについて  朝日新聞社 ESD フォーラムについて(2)  蔵持小学校 ESD 研修について  中日新聞 ESD 取材について  ESD に関する講師紹介について  「おかざき世界子ども美術博物館」でのイベントでのパネルによる ESD 告知について  ESD ユネスコ世界会議参加可能な会議について  高校生コンソーシアムについて  桑を題材にした ESD プログラム作成について  おりがみプロジェクト併催イベント出展について  中部 ESD 拠点 WS 取材について  なごや環境大学ガイドブック執筆について  高浜まちづくりネットワークの環境教育・ESD について  「つな環」の原稿確認について  ESD セミナーの広報について  名古屋市 ESD テキストについて(5)  ESD フォトコミュニケーションプロジェクトの展示スタッフについて  なごや環境大学作成 ESD メッセージムービーについて  10 月の ESD イベントの取材について  高校生 ESD コンソーシアムの準備会について  市民による ESD 推進宣言の英訳について  研修会でのファシリテーター依頼について  ESD カフェの広報について  岡崎市立常盤南小学校での授業研究会講師派遣について  高等学校 ESD コンソーシアム参加申し込み方法について  ESD 取材のポイントについて  併催イベントの取材について  ESD 全国フォトコミュニケーションの発表について  企業・NPO と学校・地域をつなぐ ESD フォーラムの広報について  ESD に関する番組の広報について  ESD 資料送付について(2)  ラジオ番組取材について  ESD 広報について  併催イベントで使用する備品の貸し出しについて  高校生 ESD コンソーシアムの広報について  名古屋市 ESD テキスト及び人材育成事業について  ラジオ番組出演について  ESD 併催イベント広報について  企業対象 ESD フォーラムの取材と資料について  高校生 ESD コンソーシアムで講評を行う講師について  企業対象 ESD フォーラムの発表者資料について  ESD 指導演について  高等学校文化祭で ESD をテーマとすることについて  名古屋 NGO センター ESD 世界会議併催イベントについて  ESD 広報のラジオ出演について  ESD 政策への市民参加に関する提言について  併催イベントでの撮影について</p>
--	--

	<p> ピンバッジの配布について  中部 ESD 拠点参加者の確認について  中部 ESD 拠点の連絡先について  ESD 講演会について  NHK 取材について  あいち・なごや支援実行委員会室長の訪問について  高等学校初任者研修の資料について  第 4 期 EPO 中部事業について  金沢市の環境団体交流会での講師について  三重大学教育学部附属小学校での ESD について  ESD あいち・なごやこども会議の宣言文と写真について  ESD カリキュラムデザイン研修の広報について  ESD の公開事業について  ESD に関する今後のユネスコ会議等について  ESD について  ESD in 三重 2014 国際会議について  ESD ユネスコ世界会議の動きについて (メディア)  環境省 ESD 事業の公募について  名東高校での ESD フォーラムでの講演について  ESD 人材育成事業に係る地域版プログラムのポスターセッションについて  ESD に関する最新情報について  ESD ユネスコ世界会議後の動きについて  名古屋市作成 ESD テキストについて  ESD-J 発行冊子について  三重県での ESD 人材育成事業の相談について  名東高校での ESD フォーラムについて  ESD ユネスコ世界会議報告会の企画について  中部地域での ESD 実践について(福井里山里海湖研究所)  人材育成事業について  ESD 事業について  ESD に関連する学生の紹介について  3 月 6 日 ESD 世界会議報告会について  名古屋市作成 ESD テキストについて  ESD-J 発行 ESD レポートの原稿執筆について  ESD-J 作成 ESD レポートの掲載写真について  ESD の資料について  愛知県次年度 ESD 事業について  今後の ESD 活動について  次年度 ESD 人材育成事業の三重県実証校の候補について  愛知県次年度 ESD 事業について  「つな環」の送付について  中部の ESD 事業について  四日市大学エネルギー環境教育研究会発行の四季報企画について  ESD に関する仕事について  次年度名古屋市 ESD 事業について  ESD ナショナルセンターに関する打合せ  次年度の ESD 人材育成事業について </p>
生物多様性 (6 件)	おりがみアクションプログラム実施について おりがみアクション企業での展開について

	<p>生物多様性イベントについて  生物多様性環境学習ツアーの広報について  美濃加茂市役所生物多様性普及のためのイベントについて  三重県生物多様性部会について</p>
気候変動 (6件)	<p>フロン対策と地球温暖化についてのシンポジウムとセミナーについて  カーボン・オフセット絵本のイラストについて  EPO 中部作成絵本のメッセナゴヤでの展示について  気候変動に関する番組の広報について  気候変動関連の特集番組の広報について  FUN TO SHEREについて</p>
自治体関連 (54件)	<p>四日市環境イベントの出展について  瑞浪市の科学イベントの構成について  藤前干潟イベントでの展示について  環境未来探検隊について (2)  春日井市でのユネスコスクール支援、出前授業実施について  三重県みどり共生推進課森林環境税導入後の評価について  三重県の森林保全について  三重県森林環境税について  中部地域の野鳥(雷鳥等)に関する情報について  愛知県環境教育行動計画策定について  愛知県インターンについて  愛知県シンポジウム出演について  ひとづくり懇談会日程調整について  名古屋市気温測定事業について  東山総合公園事業について  名古屋市教員研修広報について  環境デーなごや 2014 企画について(2)  環境デーなごやにおけるトークショー台本について  愛知県環境学習推進計画について  みえ森と緑の県民税評価委員会について  あいち緑のカーテンコンテスト作品募集について  三重県みどり共生推進課評価委員会の打ち合わせについて  他県、他市のゴミゼロ施策、特にリユースに関する施策について  三重県森林環境税評価について  地域主導による再生可能エネルギー事業化促進に係る研修会の広報について  藤前干潟の歴史について  三重県のごみゼロ施策について  愛知県フラワーウォークについて  名古屋市の廃棄物に関する施策について  三重県もったいない紙芝居審査について(2)  愛知県食と緑の審議会具体的施策の検討について  公益信託オータケ記念愛知県自然環境保護間基金助成金の応募団体について  三重県桑名市の廃棄物施策及び環境団体について  伊勢湾森・川・海のクリーンアップ大作戦登録の案内について  名古屋市担い手づくり事業の説明について  再生可能エネルギーセミナーの広報について  豊田市の環境基本計画勉強会の講師紹介について  伊勢湾の漂着ゴミの啓発イベント広報について  万博 10 周年事業について</p>

	<p>名古屋市緑地制度について  愛知県生涯学習課主催社会教育活性化フォーラムの広報について  「持続可能な消費」に関するセミナーの広報について  三重県森と緑の県民税を活用した取組の広報について  福井県での里山里海湖の資源有効活用に関するフォーラムについて  東山公園洋風庭園計画について  名古屋市情報化プランの進捗報告について  再生エネルギーに関する市町村職員向け研修会の講師について  「あいちサステナビリティ大学」の企画について  愛知県生涯学習課の青年講座プログラムと講師について  愛知県生涯学習課青年を対象にした社会教育プログラムについて  名古屋気温測定調査の広報について</p>
<p>企業関連  (35 件)</p>	<p>企業の CSR 活動と NPO 法人について  企業のステークホルダーダイアログについて  企業の ESD プログラムについて  ESD に取り組んでいる企業について  企業のステークホルダー会議への NPO 紹介について  企業の CSR レポートへのコメント依頼について  環境シンポジウム企業ゲストについて  産業廃棄物の CSR について  CSR ダイアログの企画について  日刊工業新聞原稿依頼について  中部電力(株)環境エネルギー塾について  ウェスティナゴヤキャスル ESD 研修について(3)  企業を対象にした ESD セミナーの企画について(3)  LIXIL ショールーム平針での CSR 対話企画について  パナソニックエコシステムズ(株)環境絵画コンクールについて  東邦ガス環境社会ダイアログ参加者紹介について(4)  モクモク手づくりファーム「明日のえがお大賞」について  発電所見学について  廃棄物関係の事業者の紹介  メガソーラー見学会について  積水ハウスマッチングプログラムの助成先広報について  企業における環境学習の事例について  企業が行う環境学習のプログラムの事例について  企業の協働取組に関する情報について  リコー特別顧問が掲載された新聞記事について  ユニー(株)次年度インタープリター養成講座について  「トヨタ環境活動助成プログラム」の広報について  ユニー(株)次年度人材育成事業について</p>
<p>NPO・市民活動  団体・地域活動  等  (90 件)</p>	<p>NPO 法人取得について  地球環境基金申請について  緑のカーテンコンテスト広報について  なごやの子育て支援 NPO について  あいちコミュニティ財団助成審査について  中部 7 県で企業の社員を受け入れられる NPO 団体について  三重県雲出川流域で活動している NPO の紹介  京都の環境活動団体について  今年度おりがみアクション事業について</p>

	<p>         亀の子隊プログラム広報について(2)          NPO・NGO 広報に関する研修について          表浜海岸清掃について(2)          亀の子隊東北支援について          東山再生について          こどもホタルレンジャーについて(2)          地域主体の国際協力について          北陸地域カーボン・オフセット推進ネットワークについて          伊勢湾流域圏再生ネットワークについて          名古屋駅再開発ビルにおける地域性苗木の活用について          亀の子隊の活動について          NPO 法人ソムニードについて          地域の国際協力について          原発の安全性を学び、考えるフォーラム広報について          東海地域の川・水辺の調査等についての情報提供          マルベリークラブ事業について          映画試写会広報について          環境文明 21 シンポジウム広報について          名古屋堀川と山崎川での活動団体について          里山の再生と地域の安全・安心について          コミュニティ・ユース・バンク momo 融資先募集の広報について          ポラみみの広報について          愛・地球プラットフォームの連絡先について          リユース PC の広報について          NPO 法人アースマザー・市民農園フォーラムの広報について          中部地域のグリーンコンシューマー調査に参加可能な団体の紹介          亀の子隊の活動広報について          グリーンコンシューマー調査活動を担う団体の紹介について          ブルーフラッグ事業次年度助成金について          地域福祉サポートちたの定例会の広報について          次年度事業の資金調達について          三重県でのグリーンコンシューマー調査について          グリーンコンシューマー関連の団体も紹介について          認定 NPO 法人森林の風 HP 広報について          地域主体の国際協力・岐阜イベント広報について          あいちコミュニティ財団助成先募集の広報について          グリーンコンシューマー調査の協力団体の紹介について          若狭高浜観光協会の勉強会について          特定非営利活動法人ビジュアルコンテンツプロダクトネットワークの HP 新情報の広報について          亀の子隊の活動広報について          地域自立エネルギーサイクル研究会のイベント広報について          あいちコミュニティ財団のイベント広報について          商業施設における NPO 中間支援センターについてのネットワーク構築の講師について          日本 NPO センターとの打合せについて          お金の地産地消白書 2014 の発行の広報について          地球環境基金申請書の書き方について          チャリティーショップ・ネットワークフォーラムの広報について       </p>
--	--

	<p>里山保全活動をしている市民団体の研修について  浄化槽フォーラムへの協力について  あいちの課題深掘りファンドの広報について  次年度大学での環境 NPO 活動の講義について  クミの実の販売場所について  中部異業種間リサイクルネットワーク協議会の講演会広報について  海外 NPO に関する講義について  薪ボイラーの視察広報について  ささえあい基金の寄付集めパーティー広報について  日本版「首長誓約」の提案シンポジウム広報について  伊勢湾流域圏再生フォーラムの広報について  ファンドレイジング研究会の広報について  コミュニティ・ユース・バンク融資先の広報について  なごや子どもとつくる基金の助成事業報告会広報について  あいちコミュニティ財団での社会貢献活動の広報について  浄化槽フォーラム開催について  伊勢湾流域圏再生ネットワークの NPO 助成について  ささえあい基金のチャリティ交流会広報について  なごや環境大学 10 周年事業について  NPO 法人森林の風の講習会広報について  森パー連スキルアップ研修の案内について  環境 NPO の交流会広報について  異業種間リサイクル研究会の広報について  ささえあい基金関係団体の報道の広報について  ユースラムサルジャパン広報について  環境首都創造セミナーの広報について  伊勢湾流域圏再生ネットワーク会報誌発行の広報について  NGO 団体広報に関する研修の広報について  亀の子隊の活動広報について  中部異業種間リサイクルネットワーク協議会活動広報について  地域性苗木プロジェクトの今後について</p>
<p>パートナーシップ (36 件)</p>	<p>地球環境基金海外派遣広報について  いきものみつけファーム IN 長野について  郷土種子報告書の内容について  地域性苗木について  地球環境基金の協定について  日本 NPO センターグリーンプロジェクトについて  こどもラムサル協働取組について  地球環境基金の意見交換会について  地域性苗木配布先について  地域性苗木の活用方法について  協働について、市民組織のありようについて  次年度の GreenGiftProject について  地球環境基金説明会について  GreenGiftProject キックオフ&amp; 報告会について  公害資料館連携フォーラム in 富山広報について(2)  富山県イベント広報協力について(2)  CRN9 月研究会について  助成金セミナーの講演について</p>

	<p>ブルーフラッグシンポジウムについて  地域性苗木配布イベントについて  中部カーボン・オフセット EXPO の日程について  三河湾環境再生パートナーシップ・クラブの運営方法について  三河湾再生に関するパートナーシップ会議について  全国ネットワークに関しての情報について  商業施設における中間支援センターについての助言について  民有地緑化優良事例を顕彰・紹介する事業への協力について  「めぐる」試飲会の内容について  ちゅうぶカーボン・オフセット EXPO の広報について  協働取組加速化事業申請について  協働取組加速化事業申請について  協働取組加速化事業申請について  次年度協働取組加速化事業について  協働取組申請書について(2)</p>
EPO (15 件)	<p>カーボン・オフセット絵本について  栄周辺で無料の会議室(EPO も含め)について  EPO インターン受け入れについて  EPO ネットワークインターンシップ受け入れについて  過去 3 年間相談業務数について  メールマガジン購読希望について  平成 26 年度 EPO 中部北陸三県協働事業化交流会について  EPO 東北インターンについて  EPO を活用してのコミュニティバンクセミナーについて  メールマガジン配信希望について  自己肯定感に関する冊子について  社内研修用の EPO 資料について  EPO でのインターンについて  EPO の事業について  EPO 東北共催事業について</p>
フェアトレード (5 件)	<p>フェアトレード DAY イベントについて  フェアトレード、豊田市の取組について  FTNN のイベント広報について  エシカル普及について  フェアトレードと藤前干潟について</p>
他 (64 件)	<p>三河湾再生に関する情報について  愛知県大学生の環境ボランティアについて  ファシリテーターについて  学生ボランティアについて  美しい海の勉強会の広報について  教員の海外研修プログラムについて  文科省の後援について  イベント広報について  環境セミナーでのアルバイト募集について  フリースクールについて  環境イベントの学生アルバイトについて  地球市民会議のゲストについて  世界被爆者展について  羽毛のリサイクルについて(2)</p>

	<p>世界被爆者展の中部開催について  コミュニティダイアログのステークホルダー紹介について  地球市民村への企業出展について  愛知県戦略勉強会の出席について  愛知国際映画祭のコメント依頼について  エネルギーについて詳しい学識者紹介について  環境白書を読む会企画について  グリーンニューディール基金事業評価委員会について  環境イベントの広報について  再生可能エネルギーのフォーラム広報について  大村知事と語る会の広報について  藤前親子ツアー広報について  桑の葉クッキングの広報について  「生活と環境大会」への協力について  組手什を活用した事業について  持続可能な農業に取り組む人について  北陸地域における地産地消、伝統食の現場について  養蚕の環境学習キット普及について  インターンシップについて  デザイナーの紹介について  インターンシップ受け入れについて(2)  イベントの広報について  教員向け環境学習ツールの広報について  廃プラスチックから油を作る装置販売に係る行政機関の問合せ先について  フリースクールのスタッフについて  みどり香るまちづくり企画コンテスト募集について(2)  CRN 研究会の広報について  愛知県インターン受け入れについて  省エネ機器について説明できる講師について  団地の共有部分の再生可能エネルギー設置の可能性について  大都市制度に関する市民向けシンポジウムの開催について  来年度環境省概算要求の新規事業について  団地における太陽光パネル設置について  アフリカン・フェスタ広報について  海外研究者招聘事業助成の公募について  マンションでの災害時蓄電について  インターンの受け入れについて(中国自治体職員の方)(2)  地球環境基金助成金説明会の日程調整について  塩漬け土地の森林保全活動について  大学の講義について  地域主体の国際協力・岐阜イベント広報について  大学のカリキュラムについて  オーガニックコットンのテレビ番組広報について  大学生の就職活動に関する相談  アジアにおける持続可能な交通(EST)のシンポジウム広報について  持続可能な交通(EST)シンポジウムの広報について</p>
--	--

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを用いて作製しています。